令和2年度授業概要(シラバス)

美術学部美術表現学科

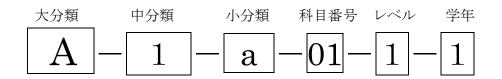


東北生活文化大学

シラバス項目の内容

項目	内 容
授業の概要	授業全体の内容を記載しています。
授業の到達目標	カリキュラム全体における当該科目の位置づけと、授業の到
	達目標、授業のねらいは何で、受講生が何を修得し何ができ
	るようになることを目指しているのかを示しています。
	学位授与の方針との関連は、次のページを参照してください。
授業計画	到達目標を達成するために、具体的に何を学ぶのか、受講生
	が事前に内容を把握して授業に臨めるように、毎回の授業内
	容を記載しています。
事前学習	授業時間外の予習について記載しています。
事後学習	授業時間外の復習について記載しています。
履修上の注意	事前に獲得しておくべき知識・技能、履修したほうがよい関
	係科目、或いは求められる受講姿勢について記載しています。
成績評価の方法・基準	最終的に成績評価がどのような形で行われるか、加味される
	要素を具体的に記載しています。
	ただし、総授業回数の1/3をこえて欠席した場合はその時
	点で不合格となりますので、注意してください。
教科書	授業で使用する、受講生が必ず購入しなければならないもの
	を記載しています。
参考書	参考書籍がある場合記載しています。

ナンバリング:各科目の学問上の分類やその科目が位置する学修の段階、順序 等をあらわします。



大分類:学科をあらわします。 中分類:科目の区分 小分類:科目群

A··服飾文化専攻

B··健康栄養学専攻

C・・生活美術学科

D··美術表現学科

K··大学共通

1・・大学共通教養科目

2 ・ ・ 基幹科目

3・・学科専攻科目

4・・教職に関する科目

5・・博物館に関する科目

美術表現学科の学位授与の方針

<知識・理解>

- 1. 基礎的な知識・学習能力を身につけること。
- 2. 美術の基本的な体系を理解すること。
- 3. 美術、工芸、デザイン、メディア芸術(マンガ・イラスト・アニメーション・ゲーム) 分野において、それぞれの専門知識と技能を身につけ、その知識や技能体系を、産業、文化、自然に関連付けて理解できること。

<汎用的技能>

- 4. 美術、デザイン、工芸、メディア芸術(マンガ・イラスト・アニメ・ゲーム)製造、教育、 行政、に関する職業や創造及び地域貢献活動において、社会の問題に柔軟に対応する ことができる。
- 5. 地域社会の問題を解決する、コミュニケーション能力・論理的思考力・創造力・表現力を身につける。

<熊度・志向性>

- 6. 自律的・主体的に他と協働して地域社会の一員としての責任を果たす事ができる。
- 7. 持続的な文化創造に寄与することができる意欲と倫理観・生涯学習力を身につける。

<統合的な学習経験と創造的思考力>

- 8. これまでに獲得した知識・技能・態度及び「地域創生演習」「卒業研究」等によって培った創造的思考力を総合的に活用することができる。
- 9. 自らが立てた新たな課題に、創造的思考力を適用し、主体的に解決する能力を身につける。

「実務経験のある教員による授業科目」一覧

教科名	担当者
工芸基礎Ⅱ	井上 直美
メディア芸術基礎 I	草野 裕樹
漆芸 I	井上 直美
漆芸Ⅱ	井上 直美
インテリアデザイン I	湯目 俊彦
インテリアデザイン Ⅱ	湯目 俊彦
製図I	湯目 俊彦
製図Ⅱ	湯目 俊彦
図学 I	湯目 俊彦
図学Ⅱ	湯目 俊彦
グラスアート I	森合 暢子
グラスアートⅡ	山口 綾子
人形 I	福田 一実
人形Ⅱ	福田 一実
マンガ・イラストⅡ	安孫子 三和
アニメ・ゲーム Ι	柴田 広大
アニメ・ゲーム Ⅱ	柴田 広大

目 次

大学共通教養科目

八丁八匹以及	11 🗎				
ナンバリング	科目名	開講期	学年	担 当 者	頁
K-1-a-03-1	有機化学 I	後期	1	菅野 修一	1
K-1-a-04-1	有機化学Ⅱ	前期	2	菅野 修一	2
K-1-a-05-1	生物学I	前期	1	堀江 佐知子	3
K-1-a-07-2	環境学	後期	2	黒川 優子	4
K-1-b-04-1	歴史 I	前期	1	栗原 伸一郎	5
K-1-b-05-2	歴史Ⅱ	後期	1	栗原 伸一郎	6
K-1-b-07-2	法学概説	後期	1	横田 尚昌	7
K-1-c-01-1	哲学 I	前期	1	徳田 幸雄	8
K-1-c-02-2	哲学Ⅱ	後期	1	徳田 幸雄	9
K-1-c-08-1	生活文化論	前期	1	今林 直樹	10
K-1-d-03-1	英会話 I	前期	1	上之原 博子	11
K-1-d-05-1	仏語 I	前期	1	村山 茂	12
K-1-d-06-2	仏語Ⅱ	後期	1	村山 茂	13
K-1-d-07-1	中国語	前期	1	清水 浩一郎	14
K-1-d-08-1	日本語基礎	前期	1	佐藤 深雪	15
K-1-d-09-2	国語表現法	後期	1	佐藤 深雪	16
K-1-d-10-2	情報基礎学	前期	2	松尾 広	17
K-1-e-02-2	スポーツ	通年	1	池田 信文・沼澤 隆	18
D-1-f-01-1	スタディスキルズ	前期	1	大学教職員	19
K-1-f-02-2	ライフデザイン	後期	1	佐々木 晃	20
D-1-f-03-1	キャリア開発 I	通年	2	三上 秀夫・鶴巻 史子	21
D-1-f-04-1	キャリア開発Ⅱ	通年	2	三上 秀夫・鶴巻 史子	22
D-1-f-05-1	キャリア開発Ⅲ (集中講義) 後期	2	工藤 稜	23

美術表現学科専攻科目

美術表現学科専攻科目			
ナンバリング 科目名	開講期	担 当 者	頁
D-3-a-01-1-1 絵画基礎 I (映像メディア表現を含む)	前期	北折 整•鈴木 専	24
D-3-a-02-1-1 絵画基礎Ⅱ	後期	北折 整	25
D-3-a-03-1-1 彫刻基礎 I	前期	佐藤 淳一	26
D-3-a-04-1-1 彫刻基礎Ⅱ	後期	佐藤淳一	27
		井上直美・立花布美子・佐々木輝子・森合暢子・山口綾子	
D-3-a-05-1-1 工芸基礎 I (プロダクト制作を含む。)	前期		28
D-3-a-06-1-1 工芸基礎Ⅱ (陶芸)	後期	立花布美子	29
D-3-a-06-1-1 工芸基礎Ⅱ(染織)	後期	佐々木 輝子	30
D-3-a-06-1-1 工芸基礎Ⅱ(漆芸)	後期	井上 直美	31
D-3-a-06-1-1 工芸基礎Ⅱ(グラスアート)	後期	森合 暢子・山口 綾子	32
D-3-a-07-1-1 デザイン基礎 I (映像メディア表現を含む。)	前期	三上 秀夫•落合 里麻	33
D-3-a-08-1-1 デザイン基礎 II	後期	三上 秀夫•落合 里麻	34
D-3-a-09-1-1 メディア芸術基礎 I	前期	鈴木 専·鶴巻 史子·草野 裕樹	35
D-3-a-10-1-1 メディア芸術基礎 Ⅱ	後期	鈴木 専·鶴巻 史子	36
D-3-b-01-2-2 洋画 I	前期	北折 整	37
D-3-b-02-2-2 洋画 II	後期	北折 整	38
D-3-b-05-2-2 日本画 I	前期	安住 英之	39
D-3-b-06-2-2 日本画Ⅱ	後期	安住 英之	40
D-3-b-09-2-2 版画 I	前期	大堀 恵子	41
D-3-b-10-2-2 版画Ⅱ	後期	大堀 恵子	42
D-3-b-13-2-2 壁画 I	前期	森敏美	43
D-3-b-13-2-2 壁画 I D-3-b-14-2-2 壁画 II	後期	森 敏美	43
		林	
D-3-b-17-2-2 彫刻 I	前期	佐藤 淳一	45
D-3-b-18-2-2 彫刻Ⅱ	後期	佐藤 淳一	46
D-3-b-21-1-2 人形 I	前期	福田一実	47
D-3-b-22-2-2 人形 II	後期	福田 一実	48
D-3-c-01-2-2 陶芸 I	前期	立花布美子	49
D-3-c-02-2-2 陶芸 II	後期	立花布美子	50
D-3-c-05-2-2 漆芸 I	前期	井上 直美	51
D-3-c-06-2-2 漆芸Ⅱ	後期	井上 直美	52
D-3-c-09-2-2 染織 I	前期	佐々木 輝子	53
D-3-c-10-2-2 染織 II	後期	佐々木 輝子	54
D-3-c-13-1-2 グラスアート I	前期	森合 暢子	55
D-3-c-14-2-2 グラスアートII	後期	山口綾子	56
D-3-d-01-2-2 視覚デザイン I	前期	三上秀夫	57
D-3-d-02-2-2 視覚デザインⅡ	後期	三上 秀夫	58
D-3-d-05-2-2 情報デザイン I	前期	鶴巻 史子	59
D-3-d-06-2-2 情報デザインⅡ	後期	鶴巻 史子	60
D-3-d-09-2-2 プロダクトデザイン I	前期	落合 里麻	61
D-3-d-10-2-2 プロダクトデザイン II	後期	落合 里麻	62
D-3-e-01-2-2 マンガ・イラスト I	前期	鹿野 明子	63
D-3-e-02-2-2 マンガ・イラストⅡ	後期	安孫子三和	64
D-3-e-05-2-2 アニメ・ゲーム I	前期	鈴木 専・柴田 広大	65
D-3-e-06-2-2 アニメ・ゲームⅡ	後期	鈴木 専・柴田 広大	66
D-3-f-01-1-1 色彩学	前期	大堀 恵子	67
D-3-f-02-1-1 美術史 I	前期	瀬戸 典彦	68
D-3-f-03-2-1 美術史Ⅱ	後期	瀬戸 典彦	69
D-3-f-04-1-2 デザイン概論	後期	三上 秀夫	70
D-3-f-05-1-2 美学 I	前期	太田 峰夫	71
D-3-f-06-2-2 美学II	後期	太田峰夫	72
D-3-f-07-1-2 美術鑑賞 I	後期	瀬戸 典彦	73
D-3-f-11-1-2 論文演習 I	前期	瀬戸 典彦	74
D-3-f-12-2-2 論文演習Ⅱ	後期	瀬戸 典彦	75
D-3-g-01-1-2 製図 I	前期	湯目 俊彦	76
D-3-g-02-1-2 製図Ⅱ	後期	湯目俊彦	77
D-3-g-09-1-1 美術特別講義 I (集中講義)	前期	瀬戸 典彦(1年担任)	78
D-3-g-10-1-1 美術特別講義 II (集中講義)	後期	伊藤 恵夫	79
D-3-g-11-1-2 美術特別講義 Ⅲ (集中講義)	前期	横川耕二	80
D-3-g-12-1-2 美術特別講義IV (集中講義)	後期	長谷部 嘉勝	81
D-3-h-01-1-1 地域創生演習 I	前期	鈴木 専·渡邊 一馬	82
D-3-h-02-1-1 地域創生演習 II	後期	鈴木 専·和田 正春	83
D-3-h-03-2-2 地域創生演習Ⅲ	前期	佐藤 淳一・立花 布美子・佐々木 秀之	84
D-3-h-04-2-2 地域創生演習IV	後期	鈴木 専·大堀 恵子·佐々木 秀之	85

教職に関する科目

	科目名	開講期	学年	担 当 者	頁
K-4-a-01-1	教職概論	後期	1	笠間 賢二	86
K-4-b-01-2	教育原理	前期	2	宮澤 孝子・山沢 智樹	87
K-4-b-02-2	教育心理学	前期	2	宮前 理	88
K-4-c-01-2	教育課程論	前期	2	中島 夏子・宮澤 孝子	89
K-4-c-05-2	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	前期	2	須藤 由子	90
K-4-c-06-3	教育方法論	後期	2	清水 禎文・松尾 広	91

博物館に関する科目

	科目名	開講期	学年	担 当 者	頁
K-5-a-01-2	生涯学習概論	後期	1	伊藤 優	92
K-5-a-02-2	博物館概論	前期	1	伊藤 優	93
K-5-a-08-2	博物館教育論	後期	1	伊藤 優	94
K-5-a-04-3	博物館資料論	後期	2	菊地 逸夫	95
K-5-a-05-3	博物館資料保存論	前期	2	及川 規	96
K-5-a-07-3	博物館情報・メディア論	後期	2	佐藤 泰美	97

大学共通教養科目

授業科目	名 有	有機化学 I					単位 (総授業時間+自習時間)					
担当者	菅野 修一	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美表1年			

有機化学の基礎として、各原子の電子配置から解説する。特に炭素原子の sp・sp2・sp3 の各混成軌道をはじめとする電子軌道の形が、分子の形に直接影響することを認識させ、それをベースに様々な基本となる有機化合物を紹介する。さらには、有機化合物の構造式から読み取れる様々な情報を読み取れるようにし、高分子化合物を含むより複雑な化合物の理解にまでつなげる。講義の適切な個所では、繰り返し有機電子論に触れ、有機化学反応と電子の関係に触れ、有機化学の奥深さも伝える。

極業の到券日種	学位授与の方針との関連										
授業の到達目標 	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
原子と電子配置について理解。	0	0		0							
有機化合物の分子レベルでの理解。	0	0	0						0		
授業計画の内容		自習	(事	前・	事後	学修	の内	容)			
1. 日常生活における有機化学の重要性の認識について	教科	書指	定ペ	ージ	の熟	読。					
2. 元素の周期表、元素記号、必須元素、同族元素	教科	書指	定ペ	ージ	の熟	読。					
3. アルカリ金属、アルカリ土類金属、ハロゲン元素、希ガス	教科	書指	定ペ	ージ	の熟	読。					
4. 分子模型を用いての立体化学、炭素の結合手	教科書指定ページの熟読。										
5. 原子番号と電子の配列、イオン結合の復習	講義	をノー	トの	総ま	とめ	(1	可目)	0			
6. 原子の構造、同位体、放射性同位元素の生化学における利用	教科	書指	定ペ	ージ	の熟	読。					
7. 分子式、組成式、示性式、有機化合物の異性体	教科書指定ページの熟読。										
8. 中間試験、分子量、式量、構造式、炭素の正四面体構造	教科書指定ページの熟読。										
9. 炭素の二重結合、三重結合、種々の分子式	教科書指定ページの熟読。										
10. 飽和炭化水素、アルカンの構造、アルカンの性質	講義ノートの総まとめ(2回目)。										
11. 不飽和炭化水素、共有結合(電子対結合)、電子対	教科	書指	定ペ	ージ	の熟	読。					
12. 非共有電子対、配合結合、金属結合、不対電子	教科	書指	定ペ	ージ	の熟	読。					
13. メタン分子、軌道電子の昇位、混成軌道、 δ 結合、 π 結合	課題を指定。										
14. 直鎖の飽和炭化水素とその命名法、数詞、アルキル基	教科書指定ページの熟読。										
15. 分岐炭化水素とその命名法、慣用名 講義ノートの総まとめ (3 回目)。							0				
屋板上の注音											

履修上の注意

教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかり行うこと。

成績評価方法・基準

毎回行う小テスト 30%、レポート 30%、中間試験等 40%を基準として総合的に評価する。小テストは毎回添削。

教科書 [有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700円]

参考書 必要に応じて個別に紹介する。

備考

質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

授業科目	名 有機化学Ⅱ					位(総括	時間)	2(30+60)		
担当者	菅野	修一	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美表2年

有機化学Ⅰの講義を理解していることをベースに、有機化学の基礎として知っておく必要のある典型的 な有機化合物を個別に解説していく。ここでは繰り返し化合物をボンドラインフォーミュラ・ダッシュフ ォーミュラ・コンデンスドフォーミュラで書けるよう説明し、さらには構造式から読み取れる化合物の性 質を理解できるようにする。さらに、講義の適切な個所では、化学の基本となる量子論の考え方にも触れ、 有機化学の奥深さも伝える。

校本とが存在権		<u> j</u>	学位护	受与0	の方金	計との)関連	Ī	
┃ 授業の到達目標 ┃	1	2	3	4	5	6	7	8	9
基本的有機化合物の理解。	0	0	0		0				0
有機化学反応の基礎の理解。	0	0	0						0
授業計画の内容		É	習	事前	うりゅう かいまい まいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしょう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅ	後学	修の	内容)
1. 有機化合物の官能基、化合物の名称		教科	斗書指	定へ	ページ	の熟	読。		
2. アルコール、エーテル、エステルの一般的性質		教科	斗書指	定へ	ページ	の熟	読。		
3. アンモニア、アミン、アミノ酸の構造と性質		教科	半書指	定へ	ページ	の熟	読。		
4. ケトン、カルボン酸の構造と性質、その関連性		教科書指定ページの熟読。							
5. アルデヒドの構造、還元性としての性質、アルコールとの関係		講義ノートの総まとめ(1回目)。							
6. 生体内のケトン体としての構造とその存在の意味付け		教科	斗書指	定へ	ページ	の熟	読。		
7. 芳香族炭化水素、アロマの語源、ナフタリン		教科書指定ページの熟読。							
8. 中間試験、アルカンの誘導体、ハロアルカン、トリハロメタ	7ン	教科	斗書指	定へ	ページ	の熟	読。		
9. 共有結合の分極、フロンガスとオゾン層の破壊		教科	斗書指	定へ	ページ	の熟	読。		
10. 求核的置換反応、脱離反応		講拿	遠ノー	- トの)総ま	とめ	(2	回目)	0
11. アミンの分類と性質、アンモニアの塩基性の意味		教科書指定ページの熟読。							
12. 第二級アミンと亜硝酸からニトロソアミンの生成およびその意味		教科	斗書指	定へ	ページ	の熟	読。		
13. アルコールの構造、多価アルコール、トリアシングリセロール		課題を指定。							
14. 不飽和有機化合物の性質と反応性		教科書指定ページの熟読。							
15. 共鳴と共鳴構造、酸の強弱との関係 講義ノートの総まとめ (3 回目)									0
履修上の注意		•							

教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかり行うこと。

成績評価方法・基準

小テスト30%、レポート30%、中間試験等40%を基準として総合的に評価する。

教科書 [有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700 円]

参考書 必要に応じて個別に紹介する。

備考

質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

授業科目名 生物学 I			単位 (総授業時間+自習時間)					2(30+60)			
担当者	堀江	佐知子	必・選	選		形態	講義	学期	前期	対象	美表1年

生き物の不思議さは、長い進化の歴史を経て生まれたものであり、脈々と生命が受け継がれてきた結果である。そして、その不思議さが進化した背景には、何らかの合理的な理由があると考えられる。

地球が誕生し、その地球上で生命が受け継がれてきた道筋を学ぶことで、生き物の不思議さが進化してきた理由を探る講義であり、今までと違う新たな視点で生き物の不思議さを見ることができるようになること、「生物」や「環境」などを総合的に考えられるようになることを目指す講義である。

学位授与の方針との関連

授業の到達目標		子位及子の万町との関連									
1文末ツ判定日保		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
生物学を学習する上で基礎的な知識・学習能力を	<u>ーー</u> を身につける。	\circ									
学習した情報を整理・要約することができる技術を	と身につける。						0		\circ		
授業計画の内容	自	習 (事前	• 事後	後学修	多の内	容)				
1. 講義内容および進め方や評価方法の説明	生物に関する話題を新聞や書籍等から見つけておくこと。										
9 自始批求の新生	地球の誕生につい 理解に努めること	- //	明や興	!味を	持った	ここと	につい	ハて自	ら調	べて	
13 物域と生命の動生と強化	生命の誕生につい 理解に努めること		問や興	味を	持った	ここと	につい	ハて自	ら調	べて	
/ ´中 //)-(生 /レ	魚の進化について 解に努めること。	疑問	や興味	を持	ったこ	ことに	つい	て自ら	調べ	て理	
	植物の誕生につい 理解に努めること		問や興	味を	持った	ここと	につい	ハて自	ら調	べて	
	裸子植物の誕生に べて理解に努める	こついて疑問や興味を持ったことについて自ら訓 ること。									
'/ お百/切(の)-(E/V (ZE)-C-お百/切(の)-(E/V)	被子植物の誕生に べて理解に努める	こついて疑問や興味を持ったことについて自ら訳 3こと。								ら調	
8. 哺乳類の誕生	哺乳類の誕生につ て理解に努めるこ	- /	疑問や	興味	を持っ	ったこ	とに	ついて	自ら	調べ	
9. 哺乳類の進化	哺乳類の進化につ て理解に努めるこ		疑問や	興味	を持っ	ったこ	とに	ついて	自ら	調べ	
1() 島(/) r焦4ビ	鳥の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理 解に努めること。										
	昆虫の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて 理解に努めること。										
12. 昆虫の進化(昆虫の情報戦略)	昆虫の情報戦略に べて理解に努める		て疑問	や興	味を持	寺った	ことり	こつい	て自	ら調	
13. 昆虫の進化(昆虫の共進化)	昆虫の共進化について疑問や興味を持ったことについて て理解に努めること。							自ら	調べ		
14. 人類の進化	人類の進化につい 理解に努めること	いて疑問や興味を持ったことについて自ら調べて と。								べて	
15. 講義のまとめ	講義内容をまとめ)る。									
16. 試験											
	·	_	_	_	_	_	_		_		

履修上の注意 特に教科書等は使わず、プリント等で進める。予習復習を行い、理解に努めること。

成績評価方法・基準

課題、レポート及び学期末の試験(50%)、受講態度(50%:講義への参加状況及び小テストの結果等で総合的に判断する)により評価する。課題について、講義中にフィードバックを行う。

教科書 無し

参考書 無し

備 考 質問等については、講義の終了時に受付ける。

授業科目	名		環境学			単位	(総授業	間)	2(30+60)		
担当者		黒川 優子	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象		美表2年

日本各地で公害問題が多発した 1960~1970 年代の高度経済成長期から約半世紀が経過した今日では、法的な規制、汚染物質の浄化技術の発達、そして人々の環境に関する意識の向上のため、見た目の環境はかなり良くなったが、地球温暖化をはじめ、地球レベルで対策を講じなければならない課題も少なくない。したがって、環境問題に関する基礎的な知識を習得し、「環境を保全、修復するために何をすべきか」について理解を深めることが大切であり、これまでに取り組んできた調査・研究の成果を説明しながら講義を進める。

 授業の到達目標			<u> </u>	学位担	受与の	の方金	†と <i>0</i>)関連	<u>[</u>			
汉未少判廷日保		1	2	3	4	5	6	7	8	9		
環境に関する基礎的知識を身に付ける。		0	0			0						
環境との関わり方の大切さについて理解	わり方の大切さについて理解を深める。					0						
環境問題に関する分野で興味を持った内容 ートを提出する。	容について調べ、レポ	0	0			0						
授業計画の内容	自習	(事前	す・事	後学	修の	内容)					
1. 人間活動と環境とのかかわり	関連内容について情報を増	収集し	、自分	か意	見を言	まとめ	る。技	受業内	容の征	复習。		
2. 環境変化に伴う異変	教科書の該当ページを読む	む。授業内容の復習。										
3. 化学物質汚染研究の基礎	教科書の該当ページを読む	少。授	業内容	字の復	習。							
4. 大気汚染	教科書の該当ページを読む	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。										
5. 水質汚染	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。											
6. 土壤汚染	教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。											
7. 化学物質による汚染	関連内容について情報を増	又集し	、自会	か意	見を言	まとめ	る。控	受業内	容の征	复習。		
8. 放射能汚染	関連内容について情報を増	又集し	、自名	か意	見を記	まとめ	る。控	受業内	容の征	复習。		
9. 汚染物質の毒性と生体内での代謝	教科書の該当ページを読む	了。授	業内容	字の復	習。							
10. 内分泌撹乱物質	教科書の該当ページを読む	少。授	業内容	学の復	習。							
11. アセスメント手法	教科書の該当ページを読む	了。授	業内容	学の復	習。							
12. 飲料水と食品に関する今後の課題	教科書の該当ページを読む	少。授	業内額	字の復	習。							
13. ごみと廃棄物	関連内容について情報を増	又集し	、自久	か意	見を言	まとめ	る。技	受業内	容の征	复習。		
14. エネルギー資源と環境問題	関連内容について情報を収	又集し	、自久	か意	見を言	まとめ	る。技	受業内	容の征	复習。		
15. 環境活動の実践と環境倫理	教科書の該当ページを読む	少。授	業内容	学の復	習。							
16. 試験	授業内容を総復習して試験	険に臨	むこと									

履修上の注意

日頃から環境に関心・興味を持つように心がけ、新聞、テレビ、インターネット、書籍等で環境に関する情報について調べておく。

成績評価方法・基準

- ・授業への取り組み(30%)、調査とレポートへの取り組み(30%)、試験(40%)
- ・提出された課題については、後日、添削して返却する。

教科書 〔環境科学入門 第 2 版 - 地球と人類の未来のために〕〔川合真一郎・張野宏也・山本義和〕 〔化学同人〕〔2,300 円〕

参考書 ・ [川合真一郎] 〔環境ホルモンと水生生物〕 〔成山堂書店〕 〔1,600 円〕

- ・〔沈黙の春〕 〔レイチェル・カーソン著,青樹築一訳〕 〔新潮社〕 〔766円〕
- ・〔新装版 苦海浄土(くがいじょうど) わが水俣病〕〔石牟礼道子〕〔講談社〕〔690円〕
- ・〔森は海の恋人〕 〔畠山重篤〕 〔文芸春秋〕 [640円]
- **備 考・**都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
 - ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受け付ける。

授業科目	·目名 歴史 I					位(総	寺間)	2(30+60)		
担当者		栗原 伸一郎	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美表1年

歴史資料は、過去にあった出来事を明らかにし、考えるための材料や根拠になるものである。本講義では、伊達政宗といった仙台ゆかりの人物に関する歴史資料をはじめ、仙台に関するさまざまな歴史資料を取り上げて、そこから明らかになる内容について説明する。その際、個々の歴史資料の特徴、作成された時代的背景や作成者の意図などに注目することで、歴史資料を読解するポイント、歴史を考える方法について講義する(単純な事項の暗記ではない)。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連										
1文未り判定日保	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
①歴史に親しみ、さまざまな歴史資料があることを理解する。	\circ	0				\circ		\circ			
②歴史資料の性格を考え、そこから読み取ることができる内容 を理解する。	\circ	0				0		0			
③歴史資料から歴史的事実を明らかにするための方法や留意点 を理解する。	0	0				0		0			

を理解する。	
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)
1. ガイダンス~講義の概要~	配布プリントを再読し、授業の方向性について理解を深める。
2. 歴史資料に親しむ①伊達政宗の手紙①	配布プリントを再読し、『仙台市史』(資料編)などの書籍で政宗の手紙について調べる。
3. 歴史資料に親しむ②伊達政宗の編纂記録	これまでの配布プリントを通読し、一次史料と編纂史料について整理する。
4. 歴史資料に親しむ③地図	配布プリントを再読し、古地図に描かれた場所に足を運ぶ。
5. 歴史資料に親しむ④新聞	配布プリントを再読し、過去の新聞について理解を深める。
6. 歴史資料に親しむ⑤実物を見る	見学時、印象に残った歴史資料についてまとめ、提出する。
7. 歴史資料を読み解く①公文書	宮城県公文書館に出向き、実際に公文書について調べる。
8. 歴史資料を読み解く③石碑	配布プリントを再読し、身の周りに残る石碑について調べる。
9. 歴史資料を読み解く③伊達政宗の手紙②	これまでの配布プリントを通読し、読解のポイントを整理する。
10. 歴史資料を読み解く④日記	配布プリントを再読し、紹介した歴史資料の時代的な特徴に ついて理解を深める。
11. 歴史資料と人物像①伊達政宗と伝記	これまでの配布プリントを通読し、人物の伝記に目を通す。
12. 歴史資料と人物像②伊達政宗と位	これまでの配布プリントを通読し、紹介した歴史資料の背景について理解を深める。
13. 歴史資料と人物像③伊達政宗と祭	これまでの配布プリントを通読し、近代における政宗の捉え 方について理解を深める。
14. 歴史資料と人物像④伊達政宗と現代	これまでの配布プリントを通読し、インターネットで政宗が どのように取り上げられているのか確認する。
15. 補論と総括~歴史資料を考える~	これまでの配布プリントを通読し、歴史資料を利用する際の 留意点を考えてみる。
16. 試験	試験問題は事前に発表するので、準備をしておくこと。

履修上の注意

歴史Ⅱを受講する場合は、この講義を受講することが望ましい。地域文化論は、この講義を理解する上で参考になる。なお、講義の進展によっては、内容を一部変更する場合がある。

成績評価方法・基準

平常点(毎回記入するミニットペーパーの内容で受講の姿勢や理解度を判断する)30%

小レポート(博物館の展示見学に関するもの)20%

期末試験(論述形式、課題は事前に発表する)50%

ミニットペーパーや小レポートで示された有用な意見や質問、模範的な記入例などについては、適宜講義で取り上げて解説する。

教科書 毎回プリントを配布する。

参考書 講義中に紹介する。

備考

質問等は授業終了時に受け付ける。授業1回分として、博物館の展示見学を予定している。

授業科目	名		単位(終	時間)	2(30+60)				
担当者	栗原 伸一郎	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美表1年

歴史的事実の捉え方や評価は固定されているものではなく、同じ出来事や人物であっても、多様な叙述が可能であり、様々な歴史イメージを描くことができる。本講義では、日本における変革期である幕末維新期に注目して、それが明治時代から現代までどのように認識され、語られてきたのか説明する。その際、人物像の時代的な変化について取り上げ、地域の視点でも歴史を捉えることで、多様な歴史イメージ、歴史を考える方法について講義する(単純な事項の暗記ではない)。

		学位授与の方針との関連										
12余の判定日保	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
①歴史事象は多様な解釈ができることを理解する。	0	0				0		0				
②歴史像が形成される過程や背景を理解する。	0	0				0		0				
③歴史事象を多角的に捉え、考える能力を身につける。	0	0				0		0				

③歴史事象を多角的に捉え、考える能力を身につける。	
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)
1. ガイダンス~講義の内容~	配布プリントを再読し、授業の方向性について理解を深める。
2. 幕末維新の歴史イメージ①時代劇	配布プリントを再読し、幕末維新に関する時代劇を観賞する。
3. 幕末維新の歴史イメージ②教科書	配布プリントを再読し、高校の教科書や参考書などに目を通す。
4. 幕末維新の歴史イメージ③一般書	配布プリントを再読し、現在どのような一般書が発行されているか確認する。
5. 歴史像の形成①明治時代	配布プリントを再読し、明治政府の方針について理解を 深める。
6. 歴史像の形成②昭和戦前戦後	配布プリントを再読し、歴史観の変遷についてまとめる。
7. 歴史像の形成③近代の東北地方	配布プリントを再読し、地域の歴史書に目を通す。
8. 幕末維新の人物像①白虎隊	配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、 白虎隊がどのように取り上げられているのか調べる。
9. 幕末維新の人物像②新選組	配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、 新選組がどのように取り上げられているのか調べる。
10. 幕末維新の人物像③坂本龍馬	配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、 坂本龍馬がどのように取り上げられているのか調べる。
11. 幕末維新の人物像④玉虫左太夫	配布プリントを再読し、講義で取り上げた他の人物との 相違について考える。
12. 東北地方と幕末維新①幕末の政争と仙台藩	配布プリントを再読し、『仙台市史』などの書籍で、仙台藩について理解を深める。
13. 東北地方と幕末維新②新政府の誕生と戊辰戦争	配布プリントを再読し、書籍などで戊辰戦争に至る大まかな流れを確認する。
14. 東北地方と幕末維新③奥羽越列藩同盟	配布プリントを再読し、奥羽越列藩同盟が結成される背景などについて理解を深める。
15. 補論と総括~さまざまな歴史像~	初回からの配布プリントを再読し、歴史像が形成された 背景を再確認し、歴史を捉える際の留意点について考え てみる。
16. 試験	試験問題は事前に発表するので、準備をしておくこと。

履修上の注意

メディア等で幕末維新期がどのように取り上げられているのか関心を持ち、高校で日本史を学んでいる場合は教科書を再読すること。受講する場合は、歴史 I を受講することが望ましい。また、地域文化論は、この講義を理解する上で参考になる。なお、講義の進展によっては、内容を一部変更する場合がある。

成績評価方法・基準

平常点(毎回記入するミニットペーパーの内容で受講の姿勢や理解度を判断する)30%

期末試験(論述形式、課題は事前に発表する)70%

ミニットペーパーで示された有用な意見や質問、模範的な記入例などについては、適宜講義で取り上げて解説する。

教科書 毎回プリントを配布する。

参考書 『仙台市史』(通史編)。その他は講義中に紹介する。

備 考 質問等は授業終了時に受け付ける。

授業科目	名 法生	法学概説					単位(総授業時間+自習時間)						
担当者	横田 尚昌	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美表1年				

この講義は、1年生を対象として様々な法分野のごく基本的な知識を提供することを目指すものです。 我が国は法治国家といわれますが、実際にいかなる法令がどのように私たちをそして社会を規律している のかについて詳らかに知ることは困難です。ただ、そうした中にあっても、生活していくうえで、ちょっと知っておくと役立つ法律の知識というものがあります。そうしたことを、この講義では各回ごとに最初に事例を掲げて、みなさんと問題意識を共有しながら解説していきます。

授業の到達目標		学位授与の方針との関連												
技業の判理日保		1	2	3	4	5	6	7	8	9				
法学一般の考え方が身についている。		\circ												
社会問題を法学という視点から考えることができる) 0	\circ	\circ											
さまざまな紛争をルールによって解決しようとす る問題点について説明できる。	る際に生ず		0											
授業計画の内容		自習	(事	前・『	事後	学修σ	内容	:)						
1. オリエンテーション														
2. みんなの法とわたしの法?		生の違いを把握したうえで、公法、私法それぞ 理念を整理し理解する。												
3. どうして約束は守らないといけないの?	「約束を守 考える。	思と相手方の信頼との関係を念頭におきつつ 守らなければならない理由」を議論する理由を												
4. 電車が遅れても切符の料金は戻ってこないの?	締結する際	は何かを把握したうえで、約款による契約を 際の注意点を整理する。 は何かについて把握したうえで、無過失責任												
5. どうして事故を起こしたら責任を負わされるの?	過失責任と を設けるべ						うえて	で、無	無過失	責任				
6. 子どものしつけと虐待はどこが違うの?	「しつけ」 あった場合	とり	見童虐	[待]	の違	いを		ン、児	見童虐	待が				
7. 校長先生の決定には従わないといけないの?		法が保障する信教の自由の意義について理解する。 利と憲法が保障する言論の自由との関係性を考える。												
8. マンガやアニメを規制してもいいの?														
9. どうして悪いことをした人に権利があるの?	被疑者や被 できるよう			必権が	認め	られ	る理目	自につ	ついて	説明				
10. ギャンブルってやっちゃいけないの?	賭博(とばく 整理する。	()のよ	こうな	:被害	者な	き犯罪	罪を処	2.罰す	-る理	由を				
11. 仕事ができないとクビにされるの?	解雇権濫用について整			_	る場	:面を	考えた	よがら	解雇	規制				
12. 手で掴めないものにも権利があるの?	著作権の意 り方を把握			ノ、私	的複	製に	対する	る法的	力規制	の在				
13. 損害保険と生命保険のちがいって何?	わずかな保険料(掛け金)を支払うだけで、保険事で 被ったときに多額の保険金を受け取ることが何故で のかを整理し、保険の種類とそれぞれのしくみについ 理解しておく							きる						
14. 自動車保険のしくみ	自賠責保険と任意保険の関係と、任意保険には様々 障が用意されていることを把握する。							な保						
15. 株式会社って何?	株式会社の ころを把握	法的标	構造⊄					土台	さとな	ると				
履修上の注意														

履修上の注蒠

私たちの生活のどのようなところで、どのような法規制がどのような効果をもたらしているのかを、日頃から気を付けてみておいてください。

成績評価方法・基準

平常点 40% (平常点は、授業時間中の勉学姿勢や小テストの結果等で総合的に判断する。) レポート 60% (レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。)

なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。

教科書 特になし(毎回の授業前にプリントを配布し、それに沿って講義する。)

参考書 授業中に指示する。

備者

オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の14:00過ぎから4校時開始時刻前までの間とする。

授業科目	名	哲学I					単位 (総授業時間+自習時間)						
担当者	徳田 幸雄	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美表1年				

人間は何のために生きるのか?死んだらどうなるのか?無になってしまうのか、それともあの世で生き続けるのか?人間にとって幸福とは何なのか?愛とは何か?善とは何か悪とは何か?これからは、これまで人類が問い続け、そして今なお問い続けている諸問題でもある。本授業では、古代ギリシャを代表する哲学者たち(ソクラテス・プラトン・アリストテレス)がこれらの根本的な問いについてどのように考えたのかを、当時の時代的・社会的背景および彼らのライフヒストリーもふまえつつ概説する。

授業の到達目標		<u></u>	学位!	受与0	り方金	+との)関連	<u> </u>		
汉未v	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
死生観についての基本的な知識を身につける	0	0				0				
人生観についての考察を深める	0					\circ				
授業計画の内容		自習	(事	前·	事後	学修(の内容	容)		
1.ガイダンス	要し	ない	ı							
2.古代ギリシャの時代背景―アテネとスパルタ―	チェ	ニック	テス	h ①	を見	直す				
3.ソクラテス①『ソクラテスの弁明』より	チェ	ェックテスト②を見直す								
4.ソクラテス②『クリトン』より	チェ	ニック	テス	下③	を見	直す				
5.ソクラテス③『パイドン』より	チェ	ニック	テス	14	を見	直す				
6.プラトン① プラトンの生涯	チェ	ニック	テス	\ 5	を見	直す				
7.プラトン② イデア論	チェ	ニック	テス	卜⑥	を見	直す				
8.プラトン③ 想起説	チェ	ニック	テス	ト⑦	を見	直す				
9.プラトン④ 愛と美について	チェ	ニック	テス	18	を見	直す				
10.プラトン⑤ 徳と善について	チェ	ニック	テス	۱ <u>9</u>	を見	直す				
11.アリストテレス① アリストテレスの生涯	チェ	ニック	テス	├ 10	を見	直す				
12.アリストテレス② 三原理と四原因説	チェ	ェックテスト⑪を見直す								
13.アリストテレス③ 自然観、神観	チェ	ニック	テス	ト①	を見	直す				
14.アリストテレス④ 霊魂観、倫理観	チェ	ニック	テス	卜 ①	を見	直す				
15.まとめ	チェ	ニック	テス	h(1)	\sim $\boxed{3}$	を見る	直す			
B.44.1 W. +*										

履修上の注意

公欠を除いて、6回以上欠席した場合は受験資格を失う。

成績評価方法・基準

毎授業時のチェックテスト(50%)チェックテストについては次回の授業冒頭でフィードバックする。 学期末の試験(50%)

教科書 使用しない。授業時にプリントを配布する。

参考書 無し

備考

質問等については、授業終了時に受け付ける。

授業科目	名	哲学Ⅱ			単位	. (総授	間)	2(30-60)		
担当者	徳田 幸雄	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美	表1年

「人間とは何か?」この問いは、近代以降の価値観の多様化・多元化に伴い、改めて問い直されるようになった根本的な問いである。本授業では、この問いについて、中世の主役とも言える世界三大宗教(キリスト教、イスラーム、仏教)を中心とする諸宗教においてどのように捉えられていたかを概説した上で、近代以降に人類が直面している生命倫理の諸問題(脳死や中絶など)について、その基本的な議論を解説し、さらに深い考察を促してゆく。

極帯の到本日種		j	学位技	受与の	の方金	†との	関連	Ţ				
授業の到達目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
幅広い人間観を身につける。	0	0						0				
諸宗教の基本的な知識を身につける。	0	0						0				
生命倫理の問題に関する知識を身につける。	0	0				0						
授業計画の内容		自習	(事	前・	事後	学修	修の内容)					
1.ガイダンス	要し	ない	1									
2.ユダヤ教の人間観	チュ	ニック	テス	h ①	を見	直す						
3.キリスト教の人間観① 原罪とは?	チュ	ニック	テス	\ 2	を見	直す						
4.キリスト教の人間観② キリスト教史	チュ	ニック	テス	13	を見	直す						
5.イスラームの人間観① 六信より	チュ	ニック	テス	١ 4	を見	直す						
6.イスラームの人間観② 五行より	チュ	ニック	テス	ト⑤	を見	直す						
7.インドの諸宗教における人間観	チュ	ニック	テス	ト⑥	を見	直す						
8.仏教の人間観① 四諦より	チュ	ニック	テス	ト⑦	を見	直す						
9.仏教の人間観② 日本仏教より	チュ	ニック	テス	١ <u>8</u>	を見	直す						
10.近代哲学における人間観―合理論と経験論	チュ	ニック	テス	١ <u>9</u>	を見	直す						
11.近代人と死―エリアーデ宗教学より―	チュ	ニック	テス	ト①	を見	直す						
12.臓器移植と脳死について	チュ	ニック	テス	ト①	を見	直す						
13.優生思想について	チュ	ニック	テス	├ 12	を見	直す						
14.人工妊娠中絶について	チュ	チェックテスト⑬を見直す										
15.総括	チュ	チェックテスト①~⑬を見直す										
16.試験	要しない											
屋体上の注音	*											

履修上の注意

公欠を除いて、6回以上欠席した場合は受験資格を失う。

成績評価方法・基準

毎授業時のチェックテスト (50%) チェックテストについては次回の授業冒頭でフィードバックする。 学期末の試験 (50%)

教科書 使用しない。授業時にプリントを配布する。

参考書 無し

備 老

質問等については、授業終了時に受け付ける。

授業科目	名 生活文	化論		単位	立(総批	受業時間	時間)	2(30+60)			
担当者	今林 直樹	必・選	選		形態	講義	学期	前期	対象	美表1年	

生活文化について、言語、衣食住、芸能、祭礼に焦点をあて、主として文献資料を用いて具体的に理解 させるとともに、歴史的背景や社会的背景を踏まえて学ばせる。具体的には、伝統的な生活文化が現代に 生きる沖縄を対象として取り上げる。

また、課題(授業時提出)をとおして沖縄の生活文化についての考察や感想などを述べさせる。課題については、翌週の授業で解説する。

授業の到達目標		学位授与の方針との関連											
12天ツ判定日际	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
沖縄の生活文化について理解できる。	0	0											
生活文化の歴史的、社会的背景について理解できる。	0	0											
今後の生活文化の課題について考察できるようになる。	0	0											
授業計画の内容		自習	(事	前・	事後	学修	の内	容)					
1.生活文化とは何か・沖縄概説	生活	5文化	と沖	縄を	·調べ	る							
2.沖縄の言葉(1) 生活言語としての「うちなあぐち」	沖絲	沖縄の言葉の概要を整理する											
3.沖縄の言葉(2) 「うちなあぐち」は言語か方言か	沖絲	▮の言	葉の	社会	的意	味を	整理	する					
4.沖縄の言葉(3) 「うちなあぐち」の保存と継承	沖絲	▮の言	葉の	現在	と将	来を	整理	する					
5.沖縄の「衣」(1) 紅型	紅雪	型につ	いて	調べ	る								
6.沖縄の「衣」(2) ミンサー織	ミン	/サー	織に	つい	て調	べる							
7.沖縄の「食」(1) 沖縄そば	沖絲	■そば	につ	いて	調べ	る							
8.沖縄の「食」(2) チャンプルー	チャ	ンプ	°ルー	につ	いて	調べ	る						
9.沖縄の「住」(1) 赤瓦の家	沖絲	▮の住	景観	につ	いて	調べ	る						
10.沖縄の「住」(2) 風水	沖絲	▮の住	思想	につ	いて	調べ	る						
11.沖縄の芸能(1) 古典芸能	琉璃	典古郑	芸能	こつ	いて	調べ	る						
12.沖縄の芸能(2) 八重山芸能	八重	芸山道	能に	つい	て調	べる							
13.沖縄の祭(1) 信仰との関係―御嶽・ニライカナイ―	沖絲	▮の信	仰に	つい	て調	べる							
14.沖縄の祭(2) 豊年祭	沖絲	▮の豊	:年祭	につ	いて	調べ	る						
15.沖縄の祭(3) 種取祭	沖絲	▮の種	取祭	につ	いて	調べ	る						
16.期末試験													
履修上の注意													

履修上の注意

必要のない私語は慎むこと。

成績評価方法・基準

期末考査80%、課題(授業時提出)20%によって評価する。

教科書 授業前に資料を配布する

参考書 [沖縄の歴史・政治・社会] [今林直樹] [大学教育出版] [2,200円]

備考

質問等については授業終了後に受け付ける。

授業科目	名	英会話 I			単位	位(総括	受業時間	十自習	時間)	1(30+15)
担当者	上之原 博子	必•	選 選	形]	態	演習	学期	前期	対象	美表1年

中学、高校で学んだ英語を基礎にして、簡単な挨拶、自己紹介等ができるように繰り返し指導する。テキストを用い、読む、書く、聞く、話す能力を身につけ、英語で楽しくコミュニケーションがとれるようにします。グループワークとして、ロールプレイ、さらには実際に英語の会話文を作り、英語を楽しみながら学ぶことを目指す。また、授業を通して異文化を理解するよう指導します。

	į	学位排	受与の	の方象	+と σ	関連	Ĺ	
1	2	3	4	5	6	7	8	9
0			\circ					
					\bigcirc			
					0	\bigcirc		
	自習	引(事	前・	事後	学修	の内タ	容)	
自分	の好き	きな事	を考え	えてく	る。			
予習	プリン	ノトを	確認	し提出	ける。	課題	文の問	音記。
予習	プリン	ノトを	確認	し提出	ける。	課題	文の問	音記。
予習	プリン	ノトを	確認	し提出	ける。	課題	文の問	音記。
予習	プリン	ノトを	確認	し提出	ける。	課題	文の問	音記。
予習	プリン	ノトを	確認	し提出	ける。	課題	文の問	音記。
予習	プリン	ノトを	確認	し提出	ける。	課題	文の間	音記。
予習	プリン	ノトを	確認	し提出	ける。	課題	文の間	音記。
予習	プリン	/トを	確認	し提出	ける。	課題	文の問	音記。
予習	プリン	/トを	確認	し提出	ける。	課題	文の問	音記。
予習	プリン	ノトを	確認	し提出	ける。	課題	文の間	音記。
予習	プリン	/トを	確認	し提出	ける。	課題	文の間	音記。
予習	プリン	ノトを	確認	し提出	ける。	課題	文の問	音記。
復習	プリン	ノトを	確認	し提出	ける。	課題	文の問	音記。
復習	プリン	ノトを	確認	し提出	ける。			
	自予予予予予予予予予予	1 2	1 2 3	1 2 3 4 ○	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5 6 ○ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	1 2 3 4 5 6 7 ○ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	● 日曜 (事前・事後学修の内容) 自習 (事前・事後学修の内容) 自分の好きな事を考えてくる。 予習プリントを確認し提出する。課題文の時 できる。課題文の時 できるでは、 でき

履修上の注意

授業には積極的に参加し英語を話す事と、クラスメイトや講師とのコミュニケーションには積極的な態度で取り組むこと。 授業ごとの復習プリントは、必ず次の授業で提出する事。課題文は暗記する事。

成績評価方法・基準

授業態度30%、毎回の課題提出40%、学期末の試験(英語の会話文の発表)30%で評価します。

教科書: [Breakthrough Plus 2(Level 2) Student Book] 著書: [Miles Craven] 出版社: [Macmillan Language House ©] [2,700 円(税別)]

参考書:特になし。

備考

質問等については、授業終了時に受け付ける。

授業科目	名		仏語 I					単位 (総授業時間+自習時間)							
担当者		村山 茂	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	美表1年					

発音の基礎から始め、簡単なあいさつや自己紹介はもちろん、初級文法に則った読み、書き、開き、話す能力が身につくよう指導する。さらにフランスにまつわる様々な情報を盛り込み、多方面からのフランス語理解に努める。外国語を学ぶということは、単に異国の言語や文化に触れるだけではなく、自国の言語と文化を見直し、自身の言語感覚と教養をみがくことになるのだということを理解してもらう。授業中の積極的挙手や練習問題の正答率はポイントとして成績に反映する。受講生全体のレベルに合わせて進行する。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連											
グ 素の到達日保	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
初級フランス語入門レベルの文を理解し、表現できるようになる。	0	0				0		0				
フランスの文化に触れ、国際的視野が身につく。	0	0				0		0				
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)											
1.授業方針。アルファベ。	アルファベの復習が必要。											
2.アルファベ復習。発音の規則1。	P.78	3 の復	習か	必要	i.							
3.発音の規則2。	P.79	9 の復	習か	必要	i o							
4.発音の規則小テスト。フランスについて。数字1。	事前	前に小	テス	ト準	備、数	文字σ	復習	が必	要。			
5.数字2。簡単なあいさつの表現。	P.5	の復	習が。	必要 。								
6.パリに着いた!(空港)1.解説と会話文。	P.8	の復	習が。	必要 。								
7.パリに着いた !(空港)2 .文法。	P.9 の復習が必要。											
8.パリに着いた!(空港)3.練習問題。	P.10~P.11 予習、復習が必要。											
9.ホテルに着いた! (フロント)1.解説と会話文。	P.14	4 の復	習か	必要	i.							
10.ホテルに着いた! (フロント)2.文法。	P.18	5 の復	習か	必要	i o							
11.ホテルに着いた! (フロント)3.練習問題。	P.16	3∼P.	17 の)予習	、復	習が	必要。)				
12.アロー、アロー(郵便、電話)1.解説と会話文。	P.20 の復習が必要。											
13.アロー、アロー(郵便、電話)2.文法。	P.21	1 の復	習か	必要	î.							
14. アロー、アロー(郵便、電話)3.練習問題。	P.22~P.23 の予習、復習が必要。											
15.まとめの講義	事後	後に最	終試	験の	ため	の準値	浦が 』	必要。				
16.試験												
屋体上の注音												

履修上の注意

私語を慎み、積極的に授業に参加すること。辞書については初回、教室にて指示する。

成績評価方法・基準

最終回に行う確認のための筆記試験($70\sim80\%$)に $20\sim30\%$ の平常点(積極性などのポイント)を加えて算出し、評価する。試験答案は、添削してフィードバックし後日返却する。

教科書〔はじめてのパリー新・改訂版一〕〔大津、瀧川、藤井著〕〔朝日出版社〕〔2,400円〕

参考書:特にないが、必要に応じてプリントを配布する

備 老

質問等については、授業終了時にオフィスアワーまたは電子メールにて受け付ける。

授業科目	名		仏語Ⅱ			単位	1(30+15)				
担当者		村山 茂	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	1	美表1年

初級文法に則った読み、書き、聞き、話す能力が身につくよう指導する。フランスにまつわる様々な情報を盛り込み、フランス映画などをも教材に取り入れて、多方面からのフランス語理解に努める。外国語を学ぶということは、単に異国の言語や文化に触れるだけではなく、自国の言語と文化を見直し、自身の言語感覚と教養をみがくことになるのだということを理解してもらう。授業中の積極的挙手や練習問題の正答率はポイントとして成績に反映する。仏語 I を引き継ぐ形で進めてゆく。

極業の到達日種		į	学位技	受与の	の方象	計との)関連	Ĺ			
┃ 授業の到達目標 ┃	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
仏語 I を引き継ぎ、初級フランス語の基礎を固め、より一層の理	0	0				0		0			
解と表現が可能になる											
引き続きフランスの文化に触れることで、国際的視野が広がる。	0	0				0		0			
授業計画の内容		自習	(事	前・	事後	学修	の内	容)			
1.テラスでお茶を(カフェ)1.解説と会話文。	P.26	6 の復	夏習か	ぶ必要	i o						
2.テラスでお茶を(カフェ)2.文法。	P.27	7 の復	習か	ぶ必要	į o						
3.テラスでお茶を(カフェ)3.練習問題。	P.28	3∼P.	29 O	予習	、復	習が	必要。)			
4.メトロに乗ろう(地下鉄)1.解説と会話文。	P.32	2 の復	運習が	ぶ必要	i o						
5.メトロに乗ろう(地下鉄)2.文法。	P.33 の復習が必要。										
6.メトロに乗ろう(地下鉄)3.練習問題。	P.34~P.35 の予習、復習が必要。										
7.名所を廻ろう(観光バス)1.解説と会話文。	P.38	3 の復	習か	ぶ必要	į o						
8.名所を廻ろう(観光バス)2.文法。	P.39) の復	習か	ぶ必要	į o						
9.名所を廻ろう(観光バス)3.練習問題。	P.40)∼P.	41 O	予習	、復	習が	必要。)			
10.DVD による学習	事後	能に疑	問点	を整	理し	てお	くこ	と。			
11.水を買う(食料品店)1.解説と会話文。	P.44	1 の復	運習が	ぶ必要	i o						
12.水を買う(食料品店)2.文法。	P.45	5 の復	夏習か	ぶ必要	i o						
13.水を買う(食料品店)3.練習問題。	P.46	3∼P.	47 O	予習	、復	習が	必要。)			
14.まとめの講義 1。	事後	後に最	終試	験の	ため	の準	備が。	必要。			
15.まとめの講義 $ 2$ 。(補足を含む)	事後	後に最	終試	験の	ため	の準	備が。	必要。			
16.試験											
層修上の注音											

履修上の注意

初心を忘れず、根気良く継続すること。

成績評価方法・基準

最終回に行なう確認のための筆記試験($70\sim80\%$)に $20\sim30\%$ の平常点(積極性などのポイント)を加えて算出し、評価する。試験答案は後日返却可能。

教科書〔はじめてのパリー新・改訂版一〕〔大津、瀧川、藤井著〕〔朝日出版社〕〔2,400円〕

参考書:特になし。

備考

質問等については、授業終了時または電子メールにて受け付ける。

授業科目	名	中国語	吾		単位	(総授業	時間+日	自習時間	j)	1(30+15)
担当者		清水 浩一郎	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	美表1年

この授業の目標は、中国語でコミュニケーションを取る際に必要とされる基礎的な事項を学修することにあります。中国語には日本語にない発音や発声の抑揚があります。まずは発声練習をおこない、これらを正しく身につけましょう。次に、会話の練習や練習問題に取り組み、これらを通じて自己紹介や挨拶、簡単な日常会話などを習得しましょう。また、中国の文化や習慣、旅行で役立つ情報なども、随時紹介いたします。

極楽の到達日種	学位授与の方針との関連									
授業の到達目標 	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
正確な中国語の発音が身につく	0									
中国語で簡単な会話ができるようになる	0									
中国の文化や習俗についての知識が身につく		0								
授業計画の内容		自習	事	前・	事後	学修	の内タ	容)		
1.ガイダンス:中国や中国語の基礎知識	教科	書を	·購入	して	目を	通す。)			
2.発音編1回目:声調と単母音・複合母音の発音練習		ンロ	ュード	して多	通し、 発声練 がら発	習を	する。		ダウ	
3.発音編2回目:子音(声母)の発音練習	同上	<u>.</u>								
4.発音編3回目:要注意な発音と声調変化の練習	同上									
5.発音編4回目: 発音のおさらい	同上									
6.第一課:数を含んだいくつかの表現 発声練習・練習問題	同上									
7.第二課:いろいろなあいさつ① 発声練習	同上									
8.第二課:いろいろなあいさつ② 発声練習・練習問題	同上									
9.第三課:"お目にかかれてとても嬉しいです" 発声練習・練習問題	同上	<u>:</u>								
10.第四課:"あなたは中国語を勉強中ですか" 発声練習・練習問題	同上	<u>:</u>								
11.第五課: "何人家族ですか?" 発音練習・練習問題	同上	<u>.</u>								
12.第六課: "どのお茶を飲みますか?" 発音練習・練習問題	同上	<u>:</u>								
13.第七課:"一緒に行ってもいい?" 発声練習・練習問題	同上									
14.第八課:"田中さんは来た?" 発声練習・練習問題	同上									
15.発声・文法のまとめ/発音のテスト	学習した部分を全体的に復習する。									
16.文法のテスト	テス	トの	準備	をす	る。					
層修上の注音										

履修上の注意

発音の練習が非常に大切です。そのため、発音練習ではしっかりと声を出してください。また、進行状況によっては、授業計画の通りに進まない場合があります。

成績評価方法・基準

平常点 30% (授業への参加状況や発声練習の様子などを総合的に評価します)

発音テスト 20% 文法テスト 50%

教科書〔週1回1年間で学ぶ中国語の基礎〕〔上野恵司 著〕〔白帝社〕〔2,200円+税〕

参考書 なし

備考

質問等については、授業終了後に受け付けます。

授業科目	名		日才	ド語基礎			単位(総	単位(総授業時間+自習時間)						
担当者		佐藤 深雪		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美表1年			

本講義では、まず「日本語とはどういう言語か」その特徴を解説する。言葉集めや言葉遊びといった言語活動を実際に行い理解させる。次に、語から文のレベルにおける「基礎的文章表現スキル」について演習問題を通して理解させる。学んだスキルを活かして「200字作文」を書く言語活動を行う。「200字作文」の合評会を行い推敲する。スキルの理解、作文(活用)、合評会(相互評価)、推敲という文章作成の過程を通して、社会人として要求される日本語運用能力を身に付けることを目指す。

校表で対容は推	学位授与の方針との関連											
授業の到達目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
日本語の特徴、文章表現技術についての基礎的な知識を得る。	0											
学生あるいは社会人として要求される日本語運用能力を習得す	0	0										
る。 自己評価・相互評価に意欲的に取り組み推敲する習慣を身に付ける。	0	0										
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)											
1. オリエンテーション:授業の概要と目的,課題の説明 「言葉」の意義と機能 言葉の働きについて	資彩	丨「目	本語	の魅	力」	を読ん	んで、	くる				
2. 日本語の特徴について 「日本語の魅力」を読む	同音	異義	語、	多義	語を	集め	る					
3. これまでの文章表現について振り返る 文の書き方①	授業	どで課	せら	れた	作文	を仕	上げ	て提出	Ц			
4. 200 字作文を書く(自己紹介)文の書き方②	授業で課せられた作文を仕上げて提出											
5. 200 字作文を書く(大好物)文の書き方③	授業で課せられた作文を仕上げて提出											
6. 200 字作文を書く(人物)文の書き方④	授業	で課	せら	れた	作文	を仕	上げ	て提出	Ц			
7. 200 字作文を書く(風景)文の書き方⑤	授業で課せられた作文を仕上げて提出											
8. 200 字作文を書く(ある日の出来事)文の書き方⑥	授業で課せられた作文を仕上げて提出											
9. 推敲と合評会 推敲する	授業	で課	せら	れた	作文	を仕	上げ	て提出	Ц			
10. 推敲と合評会 推敲して書き直す	推敲	をして	書き	直す								
11. 「時事評論文」を書く 構想 主張 アウトライン	授業で課せられた作文を仕上げて提出								Ц			
12. 「時事評論文」を書く	授業で課せられた作文を仕上げて提出								Ц			
13. 推敲と合評会 推敲する	授業	で課	せら	れた	作文	を仕	上げ	て提出	Ц			
14. 推敲と合評会 推敲して書き直す	推敲して書き直す											
15. 文章表現学習を振り返る	文集原稿を清書する											
屋体上の注音												

履修上の注意

授業の中で課せられた作文は、時間内に書き終わらない場合、次回までの宿題とする。 後期に開講される「国語表現法」を続けて履修することが望ましい。

成績評価方法・基準

全8作の課題作文と合評会の取り組み状況を評価する。提出課題については、授業の中で適宜フィードバックする。200字作文・評論文 (60%10点×6) 振り返り作文 (20%10点×2) 合評会 (20%10点×2)

教科書 授業でワークシートを配布する。

参考書 〔二百字作文練習〕〔金子泰子著〕〔溪水社〕〔1,800円〕

備考

質問等については、授業終了時、オフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)あるいは、学習支援センター (予約制)で受け付ける。受講人数等の事情によりシラバスの修正が生じる可能性がある。

授業科目	名	国語表現法			単位	立(総授	業時間	十自習時	間)	2(30+60)
担当者	佐藤 深雪	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	7	美表1年

極業の到達日種	学位授与の方針との関連										
授業の到達目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
学生あるいは社会人として要求される実用的な文章表現の基礎	0	0									
を習得する。 実社会で活用できるコミュニケーション能力を総合的に身に付											
ける。	0	0									
授業計画の内容		自習	(事	前・	事後	学修	の内容	容)			
1. 授業の概要と目的,課題の説明	自分	か文	章表	現に	つい	て振	り返れ	5			
2. ①パラグラフの組み立て方	授業	きで課	せら	れた	作文	を仕し	上げ	て提出	Ц		
3. ②トピック文を生かして書く	授業	きで課	せら	れた	作文	を仕し	上げ	て提出	Ц		
4. ③必要十分なサポート文を書く	授業	どで課	せら	れた	作文	を仕	上げ	て提出	Ц		
5. ④主張・データ・論拠	課題	につ	いて	論点	を考	え書	き出っ	す			
6. ⑤事実と意見を書き分ける	授業	どで課	せら	れた	作文	を仕	上げ	て提出	<u>Ц</u>		
7. 「意見文を書く」⑥論点	授業	どで課	せら	れた	作文	を仕	上げ	て提出	Ц		
8. 「意見文を書く」⑦要約・引用	授業	ぎで課	せら	れた	作文	を仕	上げ	て提出	Ц		
9. 合評会 ⑧批評文の書き方	授業	どで課	せら	れた	作文	を仕	上げ	て提出	Ц		
10. 推敲と合評会 推敲して書き直す	推高	をして	書き	直す							
11. 自己 PR・エントリーシートを書く	授業	どで課	せら	れた	作文	を仕	上げ	て提片	Ц		
12. 推敲と合評会 推敲して書き直す	授業	どで課	せら	れた	作文	を仕	上げ	て提出	Ц		
13. 詫び状を書く	授業	どで課	せら	れた	作文	を仕	上げ	て提出	H		
14. 依頼文を書く (詫び状)合評会	授業	どで課	せら	れた	作文	を仕	上げ	て提出	H		
15. (依頼文) 合評会 文章表現学習を振り返る	自分	か文	章表	現に	つい	て振	り返れ	5			
日体するか。そ											

履修上の注意

授業の中で課せられた作文は、時間内に書き終わらない場合、次回までの宿題とする。課題作文は全て 評価の対象となるので必ず提出すること。

成績評価方法・基準

課題作文と合評会の取り組み状況を評価する。提出課題については、授業の中で適宜フィードバックする。未提出がある場合評価の対象としないことがある。課題作文70%、合評会及び授業への取り組み状況30%で評価する。

教科書 授業でワークシートを配布する。

参考書 講義の中で適宜紹介する。

備考

質問等については、授業終了時、オフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)あるいは、学習支援センター(予約制)で受け付ける。受講人数等の事情によりシラバスの修正が生じる可能性がある。

授業科目	名	情報	根基礎学		単	位(総括	時間)	2(30+60)		
担当者	松月	尾 広	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美表2年

データの集計・加工、グラフ作成、写真の加工を行い、それらを組み合わせて体裁の整った文書を作成したり、プレゼンテーションしたりできることを目標に、文書作成、表計算、プレゼンテーション、情報検索、簡単な画像処理などのコンピュータリテラシーについて解説する。またデータを整理、蓄積、利用する方法として簡単なデータベースの作成やほかのアプリケーションとの連携方法、データ処理の方法を論理的に考えることを目的としたプログラミングについての演習を行うことで、情報処理技術の理解を深め、ステップアップを図る。

気 歩 ひ 幻 才 口 挿		Ē	学位技	受与の	の方針	サとの)関連	Ī		
授業の到達目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
Word、Excel、PowerPoint を使って体裁が整った文書を作成できる。	0									
簡単な画像処理ができる。	0									
情報を処理するアルゴリズムを理解し、プログラムで表現できる。	0									
授業計画の内容		自習	(事	前•	事後	学修	の内	容)		
1. ガイダンス	学習	する	内容	を確	認す	る。				
2. Word による文書作成(ビジネス文書作成、表の作成)	学習	内容	を確	認し	、反	復す	る。			
3.Word による文書作成(図形の扱い)	学習	内容	を確	認し	、反	復す	る。			
4. Word による文書作成(セクション、ヘッダー・フッター、段組み)	学習	内容	を確	認し	、反	復す	る。			
5. Excel による表計算(計算式、関数)	学習内容を確認し、反復する。									
6. Excel による表計算(統計データの加工、グラフの作成)	学習内容を確認し、反復する。									
7. Excel による表計算(データベース、差し込み印刷)	学習内容を確認し、反復する。									
8. PowerPoint によるプレゼンテーション (シンプルなスライドの作成)	学習内容を確認し、反復する。									
9. PowerPoint によるプレゼンテーション(アニメーションの利用)	学習内容を確認し、反復する。									
10. PowerPoint によるプレゼンテーション(練習問題)	学習	内容	を確	認し	、反	復す	る。			
11. 簡単な画像処理	学習	内容	を確	認し	、反	復す	る。			
12. 簡単な動画の作成	学習	内容	を確	認し	、反	復す	る。			
13. プログラミング (アニメーション、タートルグラフィックス)	学習	内容	を確	認し	、反	復す	る。			
14. プログラミング (シンプルなゲーム)	学習内容を確認し、反復する。									
15. まとめの課題	学習内容を振り返る。									
履修上の注意										

履修上の注意

プリントを保存しておくこと。

成績評価方法・基準

受講態度・毎回の授業で提出するファイル 40%、まとめの課題 60%

提出されたファイルは授業中にフィードバックします。

教科書 事前にプリントを配布する。

参考書 なし

備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受け付けます。

授業科目名		スポーソ	単位(約	8授業時		2(60+30)				
担当者	Ý	也田 信文・沼澤 隆	必・選	選	形態	実技	学期	通年	対象	美表1年

年間を通して複数のスポーツ・運動を実施する。団体競技の場合には、受講者を戦力がほぼ均等になるよう偶数チームに班分けをし、リーグ戦等を行う。団体競技の面白みとチームワークの大切さ等を学ばせる。また、勝利チームや各人の競技中における課題達成度または所属チームへの貢献度等に応じて加点する方法も取り入れ、各人に奮起を促す。個人競技においては、個々人の基礎的運動能力の向上ならびにその運動・スポーツ特有の技術習得に向け努力することの大切さを学ばせる。

極業の到達日種	学位授与の方針との関連										
授業の到達目標 	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
スポーツ・運動実践を通し、体力づくりの重要性に気づく。	0										
団体・個人競技を通し礼儀や協働の大切さ等を身につける。		0		0							
今後共にスポーツ・運動を実践していける人材に成長する。						0		0			
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)										
1~2. ガイダンス身体計測・体力測定(個人票作成等)	測定	2結果	:に基	づき	今後	の自	身の	目標	を設		
17~2. ガイダン <昇仲計側・仲刀側足(個八宗作成寺)	定する										
3~5.ソフトボール (池田)	ルール等の予習、及び技術の向上										
6~13. バレーボール&バスケットボール&フットサル (池田)	同上										
14. スポーツ実技試験(池田)	復習及び自己鍛錬										
15. レポート作成【オリンピックの歴史と特徴】(池田)	予習およびレポート作成										
16~18.ターゲットバードゴルフ (沼澤)	ルール等の予習、及び技術の向上										
19.バドミントン(沼澤)	同上										
20. ミニテニス&卓球 (沼澤)	同	上									
21~26. バドミントン&ミニテニス&卓球 (沼澤)	同	上									
27. スポーツ実技試験(沼澤)	復習	及び	自己	鍛錬							
28. ラジオ体操の基本と応用の練習(沼澤)	ラジオ体操の予習と復習及び練習										
29. ラジオ体操の応用の実技試験(沼澤)	試騎	の内	容を	まと	め次	回提	出				
30. まとめ及びレポート作成【健康と生涯スポーツ】(沼澤)	本授業に関する自己評価及び授業評価										
50. まこの及いレホートTF成【健康と生涯へホーフ】(指達)	レポート作成										

履修上の注意

- •毎回、運動のできる服装(ウエアー)とシューズ等を完備した上で授業に臨むこと。
- ・正当な理由無き「連続欠席」は厳禁とする。
- ・遅刻3回で欠席1回と見なすので注意すること。
- ・レポート・課題等については授業内でフィードバックする

成績評価方法・基準

個人の運動能力・技術は勿論のこと、授業に取り組む姿勢や随時課すレポートの内容等を基に総合的に評価する。その内訳は、受講態度 25%、レポート 25%、実技試験等 50%とする。

教科書:なし

参考書:なし

備考

- 当日の天候等により、シラバス通りの運動ができないこともあります。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日日時は掲示で確認)に受付けます。

授業科目名 スタディスキルズ						単位(総	1(45+15)			
担当者		大学教職員	必・選	必	形態	演習	学期	前期	対象	美表1年

大学生活へスムーズに移行できるように大学の様々な授業で必要とされる、一般的な学習方法について学び、大学生として身につけておきたい基礎知識について指導する。本学の歴史や教育内容、大学での学びについての基礎知識、DMR・情報処理教育センター・図書館等の設備仕様の活用法、履修方法等について指導を行う。各自学習目標を設定し、入学前に取り組んだ e-learning の復習を実施すると共に、基礎学力向上のための課題を設定し、さらなる理解の向上を図る。

極業の到券日極	学位授与の方針との関連										
授業の到達目標 	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
大学生活に必要な基礎的知識・学習能力を身につける。	0										
自主体的に課題を解決する能力を身につける。	0										
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)										
1. 大学で学ぶということ(学長)	オリエンテーションで実施										
2. 大学での学び方について(美術学部長)	オリ	エンフ	テーシ	ョン	で実施	ti					
3. 学修ポートフォリオの作成 プレイスメントテスト (1 年担任)	学修	目標を	を理解	する							
4. 図書館の活用 1 (村山)	施設	の利用	用につ	いて	理解す	トる					
5.DMR の PC 利用に関する事前指導(鶴巻)	施設の利用について理解する										
6. 情報処理教育センターの活用(松尾)	施設の利用について理解する										
7. 履修の方法等(授業の受け方、試験に関する心得) (北折・鈴木)	基礎学力を確認する										
8.研究倫理について(佐々木)	授業内容について復習する										
9. 図書館の活用 2 (村山)	施設	の利用	用につ	いて	理解す	トる					
10. 基礎学力向上 国語① (落合)	基礎	学力を	を確認	はする							
11. 入学前課題の事後指導 e-learning(立花)	基礎学力を確認する										
12. 基礎学力向上 国語②(大堀)	基礎	学力で	を確認	ける							
13. ポートフォリオ制作について (三上)	授業	内容に	こつい	て復	習する	5					
14. ノートの取り方・レポートの書き方(瀬戸)	授業内容について復習する										
15. まとめ (1年担任)	課題のまとめ										
屋佐しの注意											

履修上の注意

授業内容が毎回異なるので、積極的に受講し記録を取ること。

毎回担当教員が異なるため、掲示にて必要事項を連絡する場合がある。要確認のこと。

成績評価方法・基準

提出課題(50%)、授業態度(50%)で評価します。

提出物については、授業中にフィードバックします。

教科書 e-learning の教材 (他、授業時にプリントを配布する) 適宜指示する。

参考書 適宜指示する

備考

質問などについては、授業終了時に受け付けます。

授業科目名 ライフデザイン				月	单位 (総	授業時	1	1(30+15)			
担当者		佐々木 晃	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	美表1年	

自分の今後の将来設計を描くにあたって、確かな勤労観を持ち、有為な社会人として活躍できる基本的な資質・能力を身に付ける。本学の開学理念である「人間生活を科学し、より良い生活へ」の具現化・体現化を目指して、現在の大学生活を振り返り、今後の大学生活を充実させるための手立て、できたことをノートにまとめ、具体的なライフプランを実現させるための方法、それらをグループで学びあい、集団討議させることでより確かなライフデザインを描けるようにする。知力、実践力、提案力、コミュニケーション力を兼ね備えた人間力を培う。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連											
技業の到達日保	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
ライフデザインを学修する上で必要な基礎知識を身に付ける	0	0				0		0				
学修した情報を整理・要約できる技術を身に付ける	0	0				0		0				
学修した知識・技能・態度を社会で総合的に活用できる	0	0				0		0				
授業計画の内容		自習	引(事	·前·	事後	学修	の内	容)				
1.ガイダンス、ライフデザインを学ぶ意義の説明	より	良い	生活の	のため	かに何	可が必	要か	考える	3			
2.自分史作成 ~自己を知る~	自ら	の埋	もれた	た価値	直を見	見出す	視点	を学ん	55			
3.自己分析・自己理解・自己管理	各種	重の分	析を	用い	て人	間性	を科学	学する	5			
4.学生生活のデザイン	生活を見直しより豊かな生活を見通す											
5.時事問題理解力、思考力、表現力	情報を取捨選択して活用する能力を培う											
6.社会人に求められるもの	社会で必要な行動・思考・協働を学ぶ											
7.社会で働くための資質・能力	採用担当が重視する社会人基礎力を学ぶ											
8.業界・企業研究	最新の経済動向を踏まえた学びを深める											
9.課題発見能力・協調性・提案力	現状	に満	足せて	ず次を	を考え	こる学	びを	深める	3			
10.ビジョン構築力	自分	かや組	.織の	本来	的使	命を理	理解~	する				
11.ライフステージとライフイベント	人生の節目にどんな役割があるかを学ぶ											
12.ライフデザインとライフプラン	両者の概念の違いを予習し把握する											
13.ライフデザインの作成	表現	内容	を簡	潔に	まと	める	工夫	を行う	5			
14.ライフデザインの発表	内容を平易に伝えるための工夫を行う											
15.キャリア開発に向けて	学修全体を振り返り今後に役立てる											
屋体上の注音												

履修上の注意

本学キャリア教育の1年次としての自覚を持ち受講すること。

成績評価方法・基準

平常点30%(平常点は、授業への参加状況および小テストの結果等で総合的に判断する)レポート70%(必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。)

・提出されたレポートは次回の授業内でフィードバックを行う。

教科書〔シンプルリスト〕[ドミニック・ローホー]〔講談社〕[630円]

参考書 なし

備考

- ・ ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。
- 質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受け付けます。

授業科目	名	キャリア開	発 I		東	位(総授	美 時間	十自習	時間)	1 (30+15)
担当者		三上 秀夫・鶴巻 史子	必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	美表2年

キャリア開発 I では、外部講師による講義と現場見学を通して個々のキャリアを考え、構築する力を 身につける。美術の専門分野で活躍している講師(本学卒業生他)複数名を予定し、これまでの経験を ベースに、実体験をもとにした現場のリアルな話を聞き、ディスカッションやワークショップを行い、 キャリア形成における具体的な目標を設定する。自身の望むキャリアを実現するために必要な事を理解 し、社会へ向けての準備ができるよう指導する。

極楽の到浄日極		<u> </u>	学位指	受与0	の方金	†と <i>の</i>)関連	Ē	
授業の到達目標 	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ディスカッションができる	0	0							
キャリア形成における目標設定ができる		0	0						
キャリア形成において必要な事を理解し、準備できる		0	0						
授業計画の内容		自習	(事	前·	事後	学修	の内	容)	
1. ガイダンス	掲示板で準備物等を確認し、準備する								る
2. 外部講師による講義 (美術教員)	3	ニット	· ~°-	-ノペー	提出	i			
3. 外部講師の現場見学(美術教員)	掲示	下板を	確認	以し準	備す	る			
4. 外部講師による講義 (デザイナー)	111	ニット	· ~ -	-ノペー	提出	Í			
5. 外部講師の現場見学(デザイナー)	掲示	ト板を	確認	以し準	備す	る			
6. 外部講師による講義 (写真家)	111	ニット	· ~ -	-ノペー	提出	İ			
7. 外部講師の現場見学(写真家)	掲示	ト板を	確認	以し準	備す	る			
8. 外部講師による講義(ガラス作家)	3.5	ニット	· ~ -	-パー	提出	Í			
9. 外部講師の現場見学(ガラス作家)	掲示	ト板を	確認	以し準	備す	る			
10. 外部講師による講義(造形教室)	3.5	ニット	· ~ -	-パー	提出	Í			
11. 外部講師の現場見学(造形教室)	掲示	ト板を	確認	以し準	備す	る			
12. 外部講師による講義 (イラストレーター)	ミニットペーパー提出								
13. 外部講師の現場見学(イラストレーター)	掲示板を確認し準備する								
14. 外部講師による講義 (画家)	3.5	ニット	.~-	-ノペー	提出	i		<u>-</u> -	
15. 外部講師の現場見学(画家)	掲示板を確認する								
屋板しの注意									

履修上の注意

事前に、掲示板で日程と準備物等を提示するので、確認して準備を行うこと。

成績評価方法・基準

出席を含む平常点50%、ミニットペーパー、レポート等の提出物の内容50%で評価する。

教科書 資料を配布する

参考書 適宜指示する

備 考 質問等は授業終了時に受け付ける。外部講師の都合により授業計画の順番が前後する事がある。 開講日と内容の詳細は掲示板で提示する。

授業科目	名		キャリフ	7開発Ⅱ			単位(総	授業時	間+自習	聲時間)	1(45+15)
担当者	Ξ	上 秀夫・鶴	巻 史子	必・選	選	形態	演習	学期	通年	対象	美表2年

キャリア開発IIでは、地方公共団体及びその付属機関等の公的機関、美術に関連する各種工芸工房、 デザイン事務所、画材販売等の多様な職種について事前調査を実施する。職業調査後、履修者が希望する企業・団体等でインターンシップを実施できるよう指導する。社会人としてのマナー、仕事の進め方、 グループ内のコミュニケーションの能力等のスキル向上を図る。本実習を通して、地域社会の一員としての自覚を持ち、自立的・主体的に行動し、倫理観・生涯学習能力を身につけられるよう指導する。

極業の到券日種		<u> </u>	学位技	受与0	り方金	†と <i>の</i>	関連	Ĺ	
授業の到達目標 	1	2	3	4	5	6	7	8	9
社会人として必要なコミュニケーション能力を身につける	0	0			0				
主体的に課題を解決する能力を身につける		0					0		
授業計画の内容		自習	(事	前・	事後	学修	の内	容)	
1. ガイダンス	シラバス持参する								
2. 職業調査(一般)	職業	 巻調査	· 提	出課	題の	完成			
3. 職業調査(公共団体)	職業	 護調査	・提	出課	題の	完成			
4. 職業調査 (美術関連・デザイン)	職業	 護調査	・提	出課	題の	完成			
5. 職業調査 (美術関連・工芸)	職業	 護調査	・提	出課	題の	完成			
6. 職業調査 レポート記入 (一般企業)	レオ	パート	資料	準備	・提	出課	題の	完成	
7. 職業調査 レポート記入 (美術関係)	レオ	パート	資料	準備	・提	出課	題の	完成	
8. 職業調査 レポート記入 (美術関連・デザイン)	レオ	パート	資料	準備	・提	出課	題の	完成	
9. 職業調査 レポート記入(美術関連・工芸)	レオ	パート	資料	準備	・提	出課	題の	完成	
10. 社会人としてのマナーについて	マナ	ーーに	つい	ての	調査	•提占	出課是	夏の岩	已成
11. インターンシップエントリーシート記入(下書き)	エン	ノトリ	ーシ	/ート	·下書	き準	備		
12. インターンシップエントリーシート記入(正書)	提出課題の完成								
13. 実習報告書作成(下書き)	報告書の記入・提出課題の完成								
14. 実習報告書作成(正書)	報告書の記入・提出課題の完成								
15. 実習報告書作成(まとめ)	報告書の記入・提出課題の完成								
F-16-1-35-4-									

履修上の注意

授業内容が毎回異なるので、積極的に受講し記録を取ること。毎回担当教員が異なるため、掲示にて 必要事項を連絡する場合がある。

成績評価方法・基準

実習態度80%、提出課題20%で評価する。提出物については、授業中にフィードバックする。

教科書 資料を配布する

参考書 適宜指示する

備 考 質問等は授業終了時またはオフィスアワー (曜日時間は掲示で確認) に受け付ける。

授業科目	名	キャ	・リア開発	Ш		単位(総	授業時間	十自習	時間)	1(30+15)
担当者	工点	泰 稜	必・選	選	形態	集中講義	学期	後期	対象	美表2年

近年、関心が高まっているマンガ、イラストレーションの現場で実際に活動している側からみて、学生 に現状とこれからのマンガ、イラストにおける表現の多様性を理解させる。

同時に、キャラクターの作画演習を通してより高度な描画スキルを身につけさせる。

キャラクターの作画設定を目的に応じて作成させるスキルをアップさせる。

メディア芸術領域でのマンガ、アニメ等の専門知識を身につけさせキャリアとして活用させる。

松米でかけて神			学位	授与	の方	針との	の関連	車				
授業の到達目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
・キャラクターイラストの表現方法の多様性を理解できる。			0	0								
・キャラクターの様々な表情やポーズ、状況を描ける様になる。			0	0								
・メディア芸術領域での専門知識を身につけられる。			0	0								
授業計画の内容		自習(事前・事後学修の内容)										
1.ガイダンス		事前	にキ	ャラ	クタ	一の打	架索る	をする	5			
2.イラストとは		イラ	スト	の歴	史を	予め打	把握 โ	してお	35			
3.日本のキャラクターイラスト史		キャ	ラク	ター	の定	義を詞	調べて	ておく	,			
4.日本のキャラクターイラスト史 江戸時代~大正		ネッ	トで	検索	して	おく						
5.日本のキャラクターイラスト史 昭和~現代		昔の	キャ	ラク	ター	と比	竣する	5				
6.キャラクター作画演習① スタンプキャラ作画		スタ	ンプ	を見	てお	<						
7.キャラクター作画演習② 躍動感等の追加		動きのあるものを見ておく										
8.アニメーションについて① 海外作品鑑賞、解説		海外	アニ	メを	網羅	する						
9.アニメーションについて② 日本作品鑑賞、解説		日本	アニ	メを	調べ	る						
10.キャラクター作画演習③ 模擬試験		指定	され	た用	具を	用意	しては	おく				
11.キャラクター作画演習④ 作品発表、講評		メモ	を取	り、	活用	する						
12.ヒーローデザイン史① 東洋と西洋のマスクデザインについて		参考	に東	西の	マス	クを記	調べて	ておく	<u> </u>			
13.ヒーローデザイン史② アートからの引用 商業デザイン												
としてのメカ		ルーツを探る										
14.作品鑑賞 学生時代と現代のクリエータとの関係		キャ	リア	スキ	ルと	して打	足える	5				
15.まとめ		フィ	ード	バッ	クを	行う						
履修上の注意												

履修上の注意

掲示板の支持等を見ておくこと。

成績評価方法・基準 ミニットペーパー、提出物に対して授業時にフィードバックする 授業酸化状況 50%、レポート・実技等提出物の内容 5 0 %

教科書 プリント配布

参考書 適宣指示する

備 考 質問については、授業時または授業終了後に受け付ける。

美術表現学科専攻科目

授業科目	名	絵	画基礎	I (映像	メディア	表現を含む)		単位	立(総括	受業時間	十自習	時間)	2(60)
担当者	7	北折 整	・鈴木	専	必・選	必	形態	28	実技	学期	前期	対象	美表1年

「絵画とは何か」を理解するために、絵画及び映像メディアの制作を通して社会・現実と美術の関連性を考えさせる。さらに、制作に集中する行為を通して、自己管理能力や生涯にわたって美術を愛好する心を育む。絵画の制作では、静物・石膏像を対象としたデッサン、静物を対象とした着彩を教授する。ここでは対象物を客観的に写生させることを念頭に、伝統的な絵画技術および描画材料の基本的な使用方法を指導する。映像メディアの制作では、デジタル技術による絵画表現に関わる映像の制作及び現代的な表現技術について指導する。

極業の到達日挿				学位技	受与0	の方金	サとの)関連	<u> </u>			
授業の到達目標 		1	2	3	4	5	6	7	8	9		
a.絵画の基礎的な表	見方法・技術を身に付ける。	0										
b.絵画を自分自身の	問題意識と結びつけることができる。				0							
c.集中して学習するf	態度を身に付ける。	0										
d.絵画の基礎が美術	制作全般に通じることを理解できる。		0									
授業計画の内容(1~	-12 北折・鈴木担当、13〜15 鈴木担当)	自習(事前・事後学修の内容)/伝										
1.導入	(科目・成績評価・画材等の説明)	課題	ほに使	用す	る画	材の	準備					
2.制作 I 静物デッサ	ン(構図・全体的な把握)	課題の継続制作										
3. "	(部分的な描きこみ)	ıı .										
4. "	(全体を踏まえた仕上げ)(講評会)	次回]課題	に使	用す	る画	材の	準備				
5. 制作Ⅱ石膏デッ	サン(構図・全体的な把握)	課題の継続制作										
6. "	(部分的な描きこみ)		IJ									
7. "	(全体を踏まえた仕上げ)(講評会)	次回]課題	に使	用す	る画	材の	準備				
8.制作Ⅲ静物着彩	(構図・全体的な把握)	課題	夏の縋	続制	作							
9. "	(部分的な描きこみ)		IJ									
10. "	(部分的な描きこみ)		IJ									
11. "	(全体を踏まえた仕上げ)		IJ									
12. "	(全体を踏まえた仕上げ)(講評会)	次回]課題	に使	用す	る材	料の	準備				
13.制作IV映像メディ	ア(映像表現の説明)	課題	夏の縋	続制	作(明	快像)						
14. "	(材料収集・加工・修正)		IJ									
15. "	(編集)(講評会)											

履修上の注意

- ・モチーフ等は常時セットしてあるので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。
- ・講評会では自己の作品についてのコメントを発表する。

成績評価方法・基準

- ・到達目標 a…60%(課題)、b…15%(課題・講評会)、c…15%(授業態度)、d…10%(講評会)
- ・各課題については授業中にフィードバックを行う。

教科書:特に指定しない。

参考書:随時参考となる画集・映像等を紹介する。

備考

- ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・都合により、モチーフを若干変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

授業科目	名	Á	会画基礎Ⅱ		単	位(総括	受業時間	十自習	時間)	2(60)
担当者		北折 整	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表1年

「絵画とは何か」を追求するために、絵画の制作を通して社会・現実と美術の関連性を考えさせる。絵画基礎 I の受講を踏まえ、より専門的に美術表現としての絵画の有効性を理解させる。また、個人の技術上の課題を明確にした上で、持続的に制作する行為を通して、自己管理能力や生涯にわたって美術を愛好し美術活動に取り組む姿勢を育む。石膏像・静物・人体を対象としたデッサン及び着彩を教授する。ここでは対象物を丹念に観察し客観的且つ正確に写生させることを念頭に、伝統的な表現技術および描画材料の基本的な使用方法を指導する。

原業の	刘泽日捶			Ä	学位护	受与0	り方金	†との	関連	į			
授業の	到達目標		1	2	3	4	5	6	7	8	9		
a.絵画	の基礎的な表	現方法・技術を身に付ける。	0										
b.絵画を	:自分自身が生活	舌する社会と結びつけて考えることができる。				0							
c.持続的	的に学習する	態度を身に付ける。	0										
d.絵画	の表現が美術	全般に通じることを理解できる。		0									
授業計	画の内容		自習(事前・事後学修の内容)/任意										
1.導入		(科目・成績評価・画材等の説明)	課題	ほに使	用す	る画	材の	準備					
2.制作	■Ⅰ 石膏デッサ	ナン(構図・全体的な把握)	課題	夏の縋	続制	作							
3.	11	(部分的な描きこみ)		IJ									
4.	IJ	(部分的な描きこみ)		IJ									
5.	IJ	(全体を踏まえた仕上げ)(講評会)	次回]課題	に使	用す	る画	材の	準備				
6.制作	፤Ⅱ 静物着彩	(構図・全体的な把握)	課題	夏の継	続制	作							
7.	IJ	(部分的な描きこみ)		IJ									
8.	IJ	(部分的な描きこみ)		IJ									
9.	IJ	(全体を踏まえた仕上げ)		IJ									
10.	IJ.	(全体を踏まえた仕上げ)(講評会)	次回]課題	[に使	用す	る画	材の	準備				
11.制作	■【人体デッサ	ナン・着彩(構図・全体的な把握)	課題	夏の継	続制	作							
12.	JJ	(部分的な描きこみ)		IJ									
13.	<i>II</i>	(部分的な描きこみ)		IJ									
14.	"	(全体を踏まえた仕上げ)		IJ									
15.	ıı	(全体を踏まえた仕上げ)(講評会))											
層修┕	<u></u> の注音												

履修上の注意

- ・モチーフ等は常時セットしてあるので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。
- ・講評会では自己の作品についてのコメントを発表する。

成績評価方法・基準

- ・到達目標 a…60%(課題)、b…15%(課題・講評会)、c…15%(授業態度)、d…10%(講評会)
- ・各課題については、授業中にフィードバックを行う。

教科書:特に指定しない。

参考書:随時参考となる画集等を紹介する。

備 老

- ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受け付ける。

授業科目	名	彫刻基礎 I		東	位(総哲	受業時間	十自習	時間)	2(60)
担当者	佐藤 淳-	必・選	必	形態	実技	学期	前期	対象	美表1年

彫刻とは何かを学ぶ導入部分である。教員の研究や様々な美術作品を紹介し興味を喚起し主体的に取り組むための基礎的態度を身に着けさせる。彫刻の基礎的知識、造形要素である、量感、塊、動勢、空間、表面を塑造により教授する。

デッサンを重視し紙のうえで造形要素を意識させてから友人をモデルにして心棒作りから制作、石膏取りまでを教授する。立体の意識を身に着けるために自作教材の面取りの像も参考にさせながら制作し、造形力と基礎的スキルを身に着けさせる。生動感のある彫刻作品を制作できるように指導する。

 授業の到達目標	学位授与の方針との関連 1 2 3 4 5 6 7 8												
汉未い判理日保	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
彫刻の基礎的造形力を身につける	0		0										
生動感のある作品を制作することができる			0		0								
作業を他と協働して行うことができる						0							
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)												
1.授業内容、注意事項、評価方法説明、参考作品紹介	シラバスを読む												
2.石膏像(ハイジア)のデッサン、講評	ギリ	リシャ	彫刻	につ	いて	資料	を読	to					
3.頭像の制作 友人の頭像、デッサン、生動感とは	頭傷	象の制	作に	つい	て資	料を	読む						
4.頭像の制作 心棒作り、粘土練	自習	自習プリントを読む											
5.頭像の制作 荒付け、生動感と量の構成	自習	自習プリントを読み課題を考える											
6.頭像の制作 荒付け 面を意識して	自習	自習プリントを読み課題を考える											
7.頭像の制作 面の構成と塊、	自習	3プリ	ント	を読	み面	につ	いて	考察					
8.頭像の制作 面と細部	自習	3プリ	ント	を読	み細	部を	考察						
9.頭像の制作 面と空間	自習	3プリ	ント	を読	み空	間に	OΝ.	て考察	察				
10.石膏取り 説明、型作り	石膏	雪取り	プリ	ント	を読	む							
11.石膏取り 型作り 粘土抜き	石膏	雪取り	プリ	ント	を読	む							
12.石膏取り 型張り込み 型あわせ	石膏取りプリントを読む												
13.石膏取り 割り出し	石膏	雪取り	プリ	ント									
14.石膏取り 修正	修正	Eにつ	いいて	研究	する								
15.講評会 生動感が表現されているか	石膏	雪取り	レポ	ニート	提出								
1							_		_				

履修上の注意

美術展の見学レポート、石膏取りのレポートを作成、提出します。作業の安全に留意して怪我をしないようにしてください。

成績評価方法・基準

作品評価 40%、授業態度 (集中して制作しているか 20%、学んだことを制作に活かそうとしているか 20%) 提出レポート 20% (評価して返却します)

教科書 プリント、資料を配布します。

参考書 [彫刻を作る] [美術出版社]

備考

1回目から作業します。汚れてもよい作業できる服装で来てください。準備、清掃まで全員で行います。 それもすべて彫刻の大切な内容になります、協力して作業してください。授業外の質問はオフィスアワーで対応します。

授業科目名		彫刻基礎Ⅱ				位(総括	2(60)			
担当者		佐藤 淳一	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表1年

彫刻に制作において重要な、テーマと文化、自然と社会との関係について石彫の実技を通して教授する。 軟石を使用して動物彫刻を制作する。八木山動物園で実際の動物を観察しその生動感を安山岩で表現する。 彫造の基礎的造形要素である、量感、動勢、空間、表面を教授する。マケットを制作し塑像、石膏取りを 行い、彫造の意識を身に着けるために稜線をつなぐ面取りを教授する。石を彫る身体の使い方と、造形力 の養成を行い彫刻の基礎的スキルを教授することにより、主体的に美術活動に取り組む態度を指導する。

極業の到達日種		学位授与の方針との関連										
授業の到達目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
彫造の基礎的造形技術を身につける	0		0									
身体感覚としての素材感覚を意識することができる		0						0				
制作を他と協働して安全に行うことができる				0			0					
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)											
1.授業内容、注意事項、評価方法説明、触覚トレーニング	シラバスを読む。課題提出											
2.動物の骨格研究、制作素材(安山岩)説明と実技	動物骨格研究、課題提出											
3.動物のデッサン、マケット制作	動物骨格研究、自由課題デッサン、											
4.マケット制作(芯作り、荒付け 面)	マケット完成まで進める											
5.石膏取り (稜線をつなぐ面) 講評	制作継続											
6.荒彫り (稜線をつなぐ面、動勢、全体と部分)	制作継続											
7.制作(谷彫、量感表現法)	制作継続											
8.制作(塊と量感)	制作継続											
9.制作(動勢表現法)	制作継続											
10.制作(全体と部分、空間)	制作継続											
11.制作(細部、密度)	制作継続											
12.制作(密度表現、)	作業到達目標まで進める											
13.制作(空間表現、)	作業到達目標まで進める											
14.制作(場と彫刻、)	作業到達目標まで進める											
15.講評会	まとめ											
屋板しの沿立												

履修上の注意

各種美術展の見学レポートの提出は別途支持します。作業中は自分だけでなく、他の人も怪我をしないように充分に安全に配慮してください。石彫の場合作業が遅れると作品ができません、欠席しないように充分体調を管理してください。

成績評価方法・基準

作品評価 40%、授業態度(集中して制作しているか 20%、学んだことを制作に活かそうとしているか 20%) 提出レポート 20%(評価して返却します)

教科書 授業前に資料配布

参考書 〔彫刻をつくる〕〔美術出版社〕、授業内で紹介

備考

1回目から作業します。汚れてもよい作業できる服装で来てください。準備、清掃まで全員で行います。それもすべて彫刻の大切な内容になります、協力して作業してください。授業外の質問はオフィスアワーで対応します。

授業科目名	各	工芸基礎(プロク	ダクト制作	乍を含む) I		单	位(総括	受業時間	十自習	時間)	2(60)
担当者		直美・佐々木輝子・ 流美子・森合暢子 山口綾子	必・選	必	形	患	実技	学期	前期	対象	美表1年

工芸とは、ものづくりとは何かを歴史や文化、現代の工芸などの多種多様な視点から工芸に関する理解を深める。この授業は、染色・陶芸・漆芸・グラスアートの 4 分野を学ぶ。各分野の素材、材料、道具を含めた基礎知識を修得する。また、作業工程を理解した上で各技法、装飾を活かし、用途や目的、機能性を含めた制作を通して工芸の可能性について探求していく。各分野進度が異なるため、作品への管理能力と、効率良く制作ができるための判断力を身につけていくよう指導していく。

極業の到達日種		7	学位哲	受与∅)方金	トとの	関連	į			
授業の到達目標 	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
工芸に関する基礎知識・学習能力を身につけることができる。	0										
工芸分野における基本的な体系を理解することができる。	0										
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)										
1.ガイダンス 基礎工芸Ⅰ・Ⅱについて (立花・佐々木)											
2. [陶芸] ① (立花) 作業工程・釉薬・粘土について	配布プリント参照(特に作業工程)										
3. [陶芸] ② (立花) やきものの歴史	配布	プリン	/ 卜参	:照							
4. [陶芸] ③ (立花) 東北 (宮城) の陶芸	東北	(宮坎	成) の	陶芸は	こ関す	る資料	料収集	1			
5. [漆芸] ① (井上) 漆についての説明 木地の調整の固め	持ち物の確認をする										
6. [漆芸] ② (井上) 箸の摺漆	配布プリント参照										
7. [漆芸] ③ (井上) 箸の摺漆 漆器の使用方法についての説明	配布	プリン	ノト参	:照							
8. [染織] ① (佐々木) 染織の基礎知識について	染織に関する資料収集・制作ノート作成										
9. [染織] ② (佐々木) 色糸効果 平織りの組織図と色糸配列について	織物	に関す	よる資	料調	査・制	作ノ	ートの	まと	め		
10. [染織] ③ (佐々木) 織計画 デザイン・糸量の計算	図案	に関っ	ける研	究調	査・制	作ノ	−	まと	め		
11. [グラスアート] ① (森合) 酸素バーナーの基礎知識	配布プリント参照										
12. [グラスアート] ② (森合) 酸素バーナーワークの実演	配布	プリン	/ 卜参	:照							
13. [グラスアート] ① (山口) ガラス工芸の基礎知識 トンボ玉とは	配布	プリン	/ 卜参	:照							
14. 〔グラスアート〕②(山口)トンボ玉制作体験	配布	プリン	ノト参	:照							
15.講評会(立花・佐々木)	まと	め									
層修上の注音									_		

履修上の注意

- ・授業ごと内容が異なるため、積極的に受講し記録を取ること。
- ・担当教員が異なるため、掲示にて必要事項を連絡する場合がある。要確認のこと。

成績評価方法・基準

- ・授業の取り組みに対する意欲と姿勢(80%)、提出物(20%)による評価。
- ・提出物については、後日フィードバックを行う。

教科書 授業の中で各担当教員が指示する。

参考書 授業の中で各担当教員が指示する。

備考

- 各担当都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。

授業科目	名		工芸基礎Ⅱ	[(陶芸)			単位	工(総授業時	間+自習問	時間)	2(60)
担当者	立	花 布美子	必・選	選	形態	実	技	学期	後期	対象	美表1年

工芸基礎IIでは、制作や鑑賞を通して現代の"やきもの"の文化、生活の関わりについて理解を深めるよう、工芸基礎Iで学んだ基礎的知識であるやきものの歴史、陶土と磁土の違いについて復習する。また、土練りの特徴、手びねりにおける3つの基礎的な成形方法を経て、乾燥から本焼きまでの作業工程を習得できるよう指導する。同時に各技法により使用する道具、機械、窯(種類)の特徴について教授した上で、完成作品のデザイン性、用途、機能性を含めたプレゼンテーションができるよう、主体的に制作に取り組む力を身につけさせる。

松米の到本日種		į	学位	受与(の方針	計との	関連	Ē			
授業の到達目標 	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
やきものに関する基礎知識を身につけることができる。	0										
やきものに関する文化、生活での関わりについて理解を深めるこ とができる。		0									
主体的に制作に取り組む力を身につけることができる。			\circ								
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)										
1. ガイダンス 製陶法 (歴史、陶土・磁土、釉薬、作業工程等) の復習	配布プリントを熟読すること(特に作業工程)						1)				
2.土練り(荒練り、菊練り)、紐づくり練習	参考書、配布プリント参照、復習										
3. 【手びねり成形】①つまみ出し成形による飯碗制作	とみと	出し成	は形の	特徴	を復習	1					
4. ②つまみ出し成形による飯碗仕上げ 仕上げ作業の復習											
5. ③紐づくり成形によるマグカップ制作(切立・各自デザインの2種)	紐づくり成形の特徴を復習(切立とは						t)				
6. ④紐づくり成形によるマグカップ仕上げ(切立)	仕」	こげ化	乍業の)復習]						
7. ⑤紐づくり成形によるマグカップ仕上げ(各自デザイン)		,	IJ								
8.【タタラ(板)成形】①板皿制作 粘土をスライスする	タタ	ョラ	(板)	成形	の特	徴を復	習				
9. ②板皿制作 形のデザイン、(石膏による押し型成形も含)	押し	型原	戊形に	こつり	て予	習					
10. ③陶箱制作 顔料の練込み・粘土をスライスする	練り) 込み	タにつ	ついて	予習						
11. ④陶箱制作 カット・組み立て、仕上げ	仕」	こげ化	乍業の)復習]						
12. 釉掛け (飯碗・マグカップ) *釉薬の掛け分け	. 釉掛け(飯碗・マグカップ) *釉薬の掛け分け 釉掛け作業の復習										
13. 釉掛け (板皿) *下絵付けによる装飾	下絵付けについて予習										
14. 釉掛け (陶箱) → 窯詰め (本焼き)	釉掛け作業の復習										
15. 窯出し 講評	まとめ										
屋体上の注音											

履修上の注意

- ・工芸基礎科目であるため、欠席・遅刻の無いよう授業に臨むこと。
- ・遅刻・欠席のルールとして、遅刻3回で欠席1回とする。

成績評価方法・基準

- ・授業参加状況 50% (各回の制作日誌の記入内容も含む)、課題作品 50%
- ・各課題について、講評会でフィードバックを行う。

教科書 授業前にプリントを配布する。

参考書 [基礎の陶芸1:器のつくりかた] [田中見依] [美術出版] [2,376円]

〔新技法シリーズ 102 陶芸の基本〕〔東京芸術大学美術学部工芸科陶芸講座〕〔美術出版〕〔3,024 円〕

備考

- ・作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。
- ・ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照すること。

授業科目	名	工芸基礎	Ⅲ (染	織)	单	位(総括	受業時間	十自習時	排)	2(60)
担当者		佐々木 輝子	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表1年

染織技法の基礎となる「染め」「織り」について実習を行う。織計画に基づく組織図の記入方法及び浸染による糸染めについて指導を行い、色糸効果では平織の色糸配列によるパターンの可能性に関する研究を行う。染め実習では染色器具・染料・助剤等の役割、織り実習では三原組織と織機の構造を理解し、染織分野における基礎的な工程を把握する。織設計では図案に基づき素材を選択、浸染実習による糸染めを行う。卓上機を用いた制作工程を通して、織機の構造を理解しながら、設計したデザイン案に沿って織り作品を制作できるよう指導する。

極米の到達日種	学位授与の方針との関連						į				
授業の到達目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
染織実習を学習する上で必要な基礎知識を身につける。	0	0									
織物の基礎である平織の技術を身につける。	0	0									
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)										
1. ガイダンス染織の基礎知識について	染色に関する資料収集・制作ノート作成							F成			
2.織り実習:色糸効果 平織りの組織図と色糸配列について	で 織物に関する資料調査・制作ノートのまと							まと	め		
3. ":織計画 デザイン	図案に関する研究調査・制作ノートのまとめ										
4. ": 糸量の計算	素材	に関っ	する研	究・治	制作ノ	<u>- </u>	のまと	め			
5. 浸染実習: 糸の綛分け	浸染	実習2	準備・	制作	ノート	のま	とめ				
6. ": 精練	浸染	実習2	準備・	制作	ノート	のま	とめ				
7. ": 浸染 1色目	染色	実習望	準備・	制作	ノート	のま	とめ				
8. ": 浸染 2色目	染色	実習望	準備・	制作	ノート	のま	とめ				
9. ": 糸巻き 色見本帳制作	見本	帳作品	战準備	・制作	作ノー	-トの	まとめ	5			
10. 織り実習: 整経	織機に関する調査・制作ノートのまとめ										
11. ":機上げ(卓上機)	織実	習準例	備・制	作ノ	ートの	まとる	め				
12. ":織り作業① (下部)	織実	習準例	帯・制	作ノ	ートの	まとる	め				
13. ":織り作業②(上部)	織実	習準例	帯・制	 作ノ [、]	<u>ートの</u>	まとる	め				
14. ":仕上げ	講評	会用值	備品準	備・	制作ノ	<u>- </u>	のまと	め			
15. 講評会	講評	会準備	帯・制	作ノ	ートを	完成	させる	5			
アルス・アンス・アンス・アンス・アンス・アンス・アンス・アンス・アンス・アンス・アン	•										

履修上の注意

染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。

実習費として実費(4,000円程度)を徴収する。

成績評価方法・基準

提出課題 (80%)、授業態度 (20%) で評価します。

作品課題については、授業中にフィードバックします。

教科書 授業前にプリントを配布する。

参考書〔図解 染織技術事典〕〔田中清香 土肥悦子〕〔理工学社〕〔4,200円〕

備考

受講人数等の事情により、シラバスの修正(授業計画等)が生じる場合あります。

質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受け付けます。

授業科目	名	工芸基础	楚Ⅱ (漆芸	芸)	単	位(総括	受業時間	十自習時	間)	2(60)
担当者		井上 直美	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表1年

漆芸技法の中でも基礎といえる摺漆技法を通し、漆の特性と可能性を理解出来る様に指導する。摺漆は お椀2客に10回以上漆を抜き重ねる。さらに漆の特性と性質を理解する為に、後半にお椀の制作と並行し て、塗り皿への加飾を指導する。塗り皿の表面へ金箔、銀箔を使った箔絵の加飾(箔の扱いも覚える事が 出来る)と色漆を使った文様、柄などの色付、絵付をして、加飾の多様な表現が出来る力を身に付けられ る様に指導する。漆芸作家の経験を基に並行してエンドユーザーのニーズを踏まえた上での作家の姿勢を 学ばせる。

核米の到本日種				<u> </u>	学位技	受与の	の方金	†との	関連	<u>į</u>	
授業の到達目標 			1	2	3	4	5	6	7	8	9
摺漆を理解し、お椀を完成	出来る。		0		0						
箔絵を通し、箔の扱いが出	出来る様になる。		0		0						
漆の特性を活かし、漆絵を	表現出来る様に	なる。	0 0								
授業計画の内容			自習(事前・事後学修の内容)							容)	
1. 講義・漆について。授業の	説明・注意、作品の	の紹介、ビデオ鑑賞復習	配布	iした	プリ	ント	を読	んで	くる		
2.材料配布・木地調整・オ	ド地固め		プリ	ント	を基に	に素材	オにつ	ついて	理解	して・	くる
3.目止め、塗り皿のデザイ	イン考察		絵の	デザ	イン	の資	料を	用意	しては	おく	
4.目止め研ぎ、箔絵作業(金	金箔、銀箔を貼っ	て絵や文様を見せる)	る) 箔絵のデザインを考察しておく								
5.述べ摺り 漆1:灯油2	箔絵下書き 沼	際絵作業 (既存の色漆	您必	へデ	゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙	いた	完成	ナル	Z.		
を使って自由に絵を描く)		沿口拉	3 V) /	9 1	18	元队	G. F.	J		
6.述べ摺り 漆1:灯油1	箔絵マスキング	ゲ 漆絵下書き	漆絵	のデ	ザイ	ンを	考察	して	おく		
7.述べ摺り 漆2:灯油1	箔貼り1回目	マスキング	漆絵	のデ	ザイ	ンを	完成	させん	3		
8.述べ摺り 漆3:灯油1	箔貼り2回目	色漆塗り1色目	色漆	ぎの色	を決	めて	おく				
9.生摺り1回目	箔貼り3回目	色漆塗り2色目	色漆	その残	りの	色を	決め	てお	<		
10.生摺り 2 回目	箔仕上げ	色漆塗り3色目	箔紿	の足	りな	い部	分を	完成	させる	5	
11.生摺り3回目	摺り漆	色漆塗り4色目	色漆の色塗りを完成させる								
12.生摺り 4 回目	調整	仕上げ	摺りの足りない回数を終わらせる								
13.生摺り 5 回目	サイン	サイン	サインを考察しておく								
14.生摺り 6 回目	サイン		足り	ない	仕上	げを	して	おく			
15.磨き・合評会			完成	後の	扱い	方を	まと	めてこ	おく		
層修上の注音											

履修上の注意

作業着を着用の上、授業に臨む。漆かぶれに注意しながらすすめる。忘れ物をしない。

成績評価方法・基準

授業態度 (50%) ➡積極性、普段の姿勢、理解度など

作品提出(50%) ➡完成度、デザイン、センス、成長率

講評会でフィードバックする。

教科書 授業中に適宜資料を配布する。

参考書 [やさしく身に付くうるしのはなし1][日本漆工協会][2,160円]

備 考 質問等については、授業終了時、あるいはオフィスアワーに受付けます。

授業科目	名	工芸基礎Ⅱ	(グ	ラスアート)		東	位(総括	受業時間	十自習時	時間)	2(60)
担当者	Ī	森合 暢子・山口 綾子		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表1年

ガラス工芸の"バーナーワーク"という分野から、①軟質ガラス+エアバーナー②硬質ガラス+酸素バーナーの性質の異なるガラス素材と作業用器具を扱い、それぞれの違いと制作の多様性を学ばせる。前半の①では、柔らかい性質のガラスを用い"トンボ玉"の制作を指導する。主にガラスの扱いと炎の性質を理解し、安全に基本の作業や道具の扱い方を身に付けさせる。後半の②では、ガラス工芸の種類と酸素バーナーワークの基礎的な技術を指導する。

極業の到達日種			学位	受与(の方象	<u> </u>)関連	<u> </u>	
授業の到達目標 	1	2	3	4	5	6	7	8	9
安全なバーナーの取り扱いができるようになる。	0								
イメージした形をガラスで作れるようになる。							0		
ガラスと炎の特性を知ることができる。	0		0						
授業計画の内容		自習	(事	前・	事後	学修	の内	容)	
1.トンボ玉ガイダンス(授業内容について)作業手順や道具の)								
説明、ガラスを溶かしてみる (山口)									
2.トンボ玉基本の作業:ガラスを溶かすことに慣れる。伸ばす・丸。									
する・回転だけで玉を作る・離形剤の付け方 (山口)									
3.トンボ玉基本の作業: 芯棒の外し方、トンボ玉の掃除の仕方、コラ	-	* * * *	っガラ	・フ目目	連の	次业日	アロン	ナ.2高~	-
を使って玉にする。基本技法:点打ち①水玉文様 (山口)		る音へ	~ <i>D</i> /	ク関	建り	貝付	(C 1	2)	9 0
4.基本技法:点打ち②同心円文様 (山口)									
5.基本技法:点打ち③花文様 (山口)									
6.トンボ玉課題制作「点打ち技法のトンボ玉をつくる」(山口)									
7.トンボ玉講評会 (山口)									
8. ガイダンス (森合)									
9. ガラス工芸の種類について 作品鑑賞 (座学) (森合									
10. 酸素バーナーワークについて 作品鑑賞(座学) (森合									
11. 酸素バーナーの取り扱いについて 作品実演 (森合)	参考	き書き	ッガラ	ス関	連の	資料	に目	を通	す。
12. 制作実演 酸素バーナーの取り扱い実技(安全講習)(森合	自他	也作品	をよ	く見	る。				
13. ①ガラスを溶かしてみる (実技) (森合)								
14. ②ガラスを溶かしてみる (実技) (森合)								
15. ガラス作品鑑賞 (学外研修) (森合)								

履修上の注意

・安全のため、服装や髪型(結ぶ)など講師の指示に従うこと。

成績評価方法・基準

- ・授業中の態度(50%)、制作への姿勢(50%)
- ・各課題について、講評会でフィードバックを行う。

教科書 事前にプリントなどを配布する。

参考書 [トンボ玉] [小暮紀一] [ぽるぷ出版] [2,808円]

備考

- ・材料費の徴収があります。都合により、授業計画等を変更することがあります。
- ・質問等については、授業後にオフィスアワーを設けます。

授業科目名デザイン基礎 I (映像メディア表現を含む)単位 (総授業時間+自習時間)2(60)担当者三上 秀夫・落合 里麻必・選必 形態実技学期前期対象美表 1 年

授業概要

デザインの基本的な知識やスキルを身につけことを目的とし、平面と立体に分けて課題制作に取り組ませる。 平面では、抽象的な図形による画面構成に取り組ませ、制作意図に沿った表現ができるように指導する。立体では、平面状の紙から立体が生成する仕組みを通して、素材の特性による効果と造形表現の美しさ、可能性を見出せるよう指導する。〈立体課題 1〉では直線・曲線による折り、〈立体課題 2〉ではポップアップを制作させる。 平面(三上 / 8 回)、立体(落合 / 7 回)によるオムニバス授業である。

<u> </u>	・面(二上/8回)、立体(洛台/1回)によるオムニハス授業で	<u>める。</u>								
極光	の到達目標	学位授与の方針との関連					Ī			
汉 未 	(2) 到连日保	1	2	3	4	5	6	7	8	9
図	形を丁寧に描く技術を身につけることができる。	0								
制	作意図に沿ったイメージ表現ができるようになる。		0							
素	材の特性を造形表現として活かすことができる。									
幾	何形体についての基本的な内容を理解できる。	0								
授業	計画の内容	自習(事前・事後学修の内容								
1.	ガイダンス (授業の進め方、課題の発表、評価方法について)) 次回課題の準備として情報を集める。								
2.	〈平面課題 1〉レタリング イラスト 名刺をつくる	フォントについて調べる。								
3.	" 名刺をつくる/講評	を 修正を加え再提出する。								
4.	〈平面課題 2〉平面構成「点による構成」/課題説明	プリ	ント	を完	成さ	せ提	出す	る。		
5.	" / 下描き	彩色	色の道	具に	つい.	て各	自、硝	を認し しょうしん しゅうしゅう しゅうしゅう かいしん しゅうしん おいしん しゅうしん しゅうしん しゅうしん しゅうしん しゅうしゅう しゅう	てお	3<.
6.	/彩色	彩色	用具	をそ	ろえ	る。		·—·—·		
7.	# /講評	修正	Eを加	え再	提出	する	0			
8.	〈平面課題3〉映像メディア表現「点を動かす」/講義と演習	完成	えさせ	提出	する	0		·—·—·		
9.	〈立体課題1〉平面から立体を生成する 1/課題説明・練習	道具	を捕	iえる	。練	習課	題、討	式作を	進め	る。
10.	// / 課題制作	直線折りの課題を完成させる。								
11.	ル / 課題制作・講評	評 曲線折りの課題を完成させる。								
12.	〈立体課題 2〉平面から立体を生成する 2/課題説明・練習	解説内容を復習し、練習課題を進める。						5。		
13.	# /課題制作・講評	評 課題を完成させる。								
14.	〈立体課題3〉正多面体/正多面体についての講義・練習	習 各自で紙を購入し、課題を完成させる。						5。		

/課題制作・講評 │授業を振り返り、ポイント等を整理する。

履修上の注意

15.

絵具は、不透明を使用する。他の用具、材料については授業でその都度指示する。

はさみ、カッター、定規、接着剤等は各自で用意すること。立体の初回授業で指示をする。

成績評価方法・基準

平面課題

提出課題 60%、講評での発表の内容 40%で評価する。

立体課題

提出課題 70%授業態度 30%で評価する。

講評会でフィードバックを行う。

教科書 特に定めない。 必要に応じて授業時にプリントを配布する。

参考書 その都度、紹介する。

備 考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

授業科目	名	デザイン	∕基礎Ⅱ			单	位(総授	業時間-	+自習時	間)	2(60)
担当者		三上秀夫・落合里麻	必・選	選	形	態	実技	学期	後期	対象	美表1年

デザインの基本的な知識やスキルを身につけことを目的とし、平面と立体に分けて課題制作に取り組ませる。 平面では、抽象的な形体とイメージ表現による画面構成に取り組ませ、制作意図に沿った表現ができるように指導する。立体では、意図に沿った造形、問いに対する答えを探す試行錯誤、手を使った思考の訓練を行わせる。 〈立体課題 1〉ではスタイロフォーム、〈立体課題 2〉では木材を使ったデザインの展開に取り組ませる。 平面(三上 / 8 回) 立体(落合 / 7 回)によるオムニバス授業である

<u> 立体(洛台/7回)によるオムニバス授業である。</u>										
	<u> </u>	学位	受与の	の方金	<u> </u> ナとの)関連	<u> </u>			
1	2	3	4	5	6	7	8	9		
0										
	0									
0										
	0									
	自習	(事	前・	事後	学修	の内	容)			
次回	回の課	題の	準備	とし	て画	像を急	集める	5.		
課題	夏を進	める	0							
修正	三を加	1え再	提出	する	0					
彩色	由用具	につ	いて	各自	、確	認し	ておく	\ 0		
彩色	由用具	を捕	iえる	0		·—·—·				
修正	三を加	1え再	提出	する	0					
修正を加え再提出する。										
本番材の前の試作を進める。										
課題を完成させる。										
アイディアスケッチを進め、デザインを決定する										
制作図を完成させる。										
切肖	り加工	を進	める	0						
塗装	もの前	 段階	まで	完成	させ	る。				
授業	美を振	きり返	ら、	ポイン	ノト等	争を惠	を理す	⁻ る。		
	1 ○ 次課修次彩彩修修本課ア制切塗 の と で と で 正 正 番 題 イ 作 肖 岁	1 2 1 2 次 次 の の り の の の の の の の の の の を の の <th< td=""><td>学位123000自習(事)次題変題変更修四をかいののののであるがいののであるののであるがいののであるののであるがいののであるののであるがいののであるののであるがいののであるののであるでのでのののであるでのののであるののである<</td><td>学位授与の 1 2 3 4 ○ ○ ○ ○ 自習(事前・ 次回の課題の準備 改画を進める。 修正を加えるの課題ので調題ので調題ので調題ので調度を開発している。 後近年を加えるのである。 彩色用具を前えるのである。 修正を加えるのである。 修正を材の前の成させる。 アイディアスケッチを関する。 切削加工を進める。 ではある。 塗装の前段階まで ではある。</td><td>学位授与の方針 1 2 3 4 5 ○ ○ ○ ○ 自習(事前・事後 次回の課題の準備とし 課題を進める。 修正を加え再提出する 次回の課題の準備、資 彩色用具について各自 彩色用具を揃える。 修正を加え再提出する 体番材の前の試作を進 課題を完成させる。 アイディアスケッチを進め、 制作図を完成させる。 切削加工を進める。 塗装の前段階まで完成</td><td>学位授与の方針との 1 2 3 4 5 6 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</td><td>学位授与の方針との関連 1 2 3 4 5 6 7 ○</td><td>学位授与の方針との関連 1 2 3 4 5 6 7 8 ○</td></th<>	学位123000自習(事)次題変題変更修四をかいののののであるがいののであるののであるがいののであるののであるがいののであるののであるがいののであるののであるがいののであるののであるでのでのののであるでのののであるののである<	学位授与の 1 2 3 4 ○ ○ ○ ○ 自習(事前・ 次回の課題の準備 改画を進める。 修正を加えるの課題ので調題ので調題ので調題ので調度を開発している。 後近年を加えるのである。 彩色用具を前えるのである。 修正を加えるのである。 修正を材の前の成させる。 アイディアスケッチを関する。 切削加工を進める。 ではある。 塗装の前段階まで ではある。	学位授与の方針 1 2 3 4 5 ○ ○ ○ ○ 自習(事前・事後 次回の課題の準備とし 課題を進める。 修正を加え再提出する 次回の課題の準備、資 彩色用具について各自 彩色用具を揃える。 修正を加え再提出する 体番材の前の試作を進 課題を完成させる。 アイディアスケッチを進め、 制作図を完成させる。 切削加工を進める。 塗装の前段階まで完成	学位授与の方針との 1 2 3 4 5 6 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	学位授与の方針との関連 1 2 3 4 5 6 7 ○	学位授与の方針との関連 1 2 3 4 5 6 7 8 ○		

履修上の注意

絵具は、不透明を使用する。他の用具、材料については授業でその都度指示する。

三角定規、各種筆記用具は各自で用意すること。小刀を持っていない場合は購入する必要がある。

成績評価方法・基準

平面課題

提出課題 60%、講評での発表の内容 40%で評価する。

立体課題

提出課題 70%授業態度 30%で評価する。

講評会でフィードバックを行う。

教科書 特に定めない。 必要に応じて授業時にプリントを配布する。

参考書 その都度、紹介する。

備 考 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

授業科目名 メディア芸術基礎 I 単位(総授業時間+自習時間)										2(60)
担当者	金	合木専・鶴巻史子・草野裕樹	必・選	必	形態	実技	学期	前期	対象	美表1年

メディア芸術基礎 I では、コンピューターを使用するための知識と技能を学び、コンピューターリテラシーを身につける。グラフィックソフト(Illustrator、Photoshop)を用いた演習を通して、今後の作品制作に必要となるグラフィックソフトの基本的な操作と表現技法を身につけられるよう指導する。メディア芸術の事例を紹介しながら、メディア芸術への理解を促すと共に、様々なデジタル表現を理解し、視野を広げられるよう教授する。草野氏は実務経験を活かし、グラフィックデザイン・企画・アートディレクションなどを教授する。

極来の到本日種			j	学位护	受与の	の方金	†との	関連	į		
授業の到達目標 		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
コンピューターリテラシーを身につける		0									
Illustrator の基本的な操作と表現技法を身につ	ける	0	0								
Photoshop の基本的な操作と表現技法を身につ	ける	0	0								
授業計画の内容		自習(事前・事後学修の内容)									
1. ガイダンス		CP	操作に	こつレ	いての	調査					
2. 課題1 Illustrator 基礎演習①	鶴巻・草野	ソフ	トに	つい	ての記	周査・	制作	準備			
3. テーマ設定、アイデアスケッチ	鶴巻・草野	デザ	゚゙イン	の調	査・制	制作フ	プロセ	スま	とめ		
4. 制作、仕上げ、発表	鶴巻・草野	制作	技法	の調	査・制	制作フ	プロセ	スま	とめ		
5. 課題 2 Illustrator 基礎演習②	鶴巻・草野	ソフ	トに	つい	ての記	周査・	制作	準備			
6. テーマ設定、アイデアスケッチ	鶴巻・草野	デザ	゚゙イン	の調	査・制	制作フ	プロセ	スま	とめ		
7. 制作、仕上げ	鶴巻・草野	制作	技法	の調	査・制	制作フ	プロセ	スま	とめ		
8. 発表、講評	鶴巻・草野	発表	準備	• 課	題のる	まとめ	Ď				
9. 課題 3 Photoshop 基礎演習①	鈴木・草野	ソフ	トに	つい	ての記	周査・	制作	準備			
10. テーマ設定、アイデアスケッチ	鈴木・草野	テー	マの	調査	・制作	乍プロ	ュセス	まと	め		
11. 制作、仕上げ	鈴木・草野	野 制作技法の調査・制作プロセスまと							とめ		
12. 課題 4 Photoshop 基礎演習②	鈴木・草野	ソフトについての調査・制作準備									
13. テーマ設定、アイデアスケッチ	鈴木・草野	テー	マの	調査	・制作	乍プロ	ュセス	まと	め		
14. 制作、仕上げ	鈴木・草野	制作	技法	の調	査・制	制作フ	プロセ	スま	とめ		
15. 発表、講評	鈴木・草野	発表	準備	• 課	題のる	まとめ	<u> </u>				
アイス	<u> </u>										

履修上の注意

授業開始時に重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。グループワークでは相互に協力・協働して 積極的に課題に取組むよう心がける。制作データは USB メモリ等に保存し持参すること。教材・材料費 (500 円程度) を徴収する。

成績評価方法・基準

課題(制作物、発表)50%、出席を含む平常点(授業態度、取り組みの姿勢、ふりかえり等)50%、課題作品については、授業中にフィードバックする。

教科書 ワークシートを配布する、適宜指示する

参考書 これからはじめる Illustrator の本、これからはじめる Photoshop の本(技術評論社)

備 考機器台数に限りがあるため 2 グループ制 $(A \cdot B)$ で行う場合がある。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受け付ける。

授業科目	名		メ	ディア芸	装術基礎 Ⅱ	[直	单位 (総括	受業時間	十自習	時間)	2(60)
担当者		鈴木 専	• 鶴巻	史子	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表1年

メディア芸術基礎IIでは、コンピューターを使用するための応用的な知識と技能を学ぶ。グラフィックソフトを用いた演習を通して、今後の作品制作に必要となるグラフィックソフトの応用的な操作と表現技法を身につける。プレゼンテーションを通して他者に作品の制作意図を伝えられるよう指導する。メディア芸術の事例を紹介しながら、メディア芸術への理解を促すと共に、様々なデジタル表現を理解し、視野を広げられるよう教授する。

極楽の到浄日種			į	学位	受与の	の方金	+との)関連	Ĺ			
授業の到達目標 		1	2	3	4	5	6	7	8	9		
Illustrator の応用的な操作と表現技法を身につける				0	0							
Photoshop の応用的な操作と表現技法を身につける				0	0							
プレゼンテーションを通して他者に制作意図を伝え	られる			0								
授業計画の内容		自習(事前・事後学修の内容)										
1. ガイダンス		CP 3	操作に	こつレ	いての	調査						
2. 課題 1 グラフィックソフト演習①	鶴巻	ソフ	トに	つい	ての訳	周査・	制作	準備				
3. テーマ設定、アイデアスケッチ	鶴巻	制作	技法	の調	査・制	訓作フ	プロセ	スま	とめ			
4. 制作、仕上げ												
5. 課題 2 グラフィックソフト演習②	鶴巻	ソフ	トに	つい	ての訳	周査・	制作	準備				
6. テーマ設定、アイデアスケッチ	鶴巻	制作	技法	の調	査・制	訓作フ	プロセ	スま	とめ			
7. 制作、仕上げ	鶴巻	デザ	ビイン	の調	査・制	訓作フ	プロセ	スま	とめ			
8. プレゼンテーション、講評	鶴巻	プレゼン準備・課題のまとめ										
9. 課題 3 グラフィックソフト演習③	鈴木	ソフ	トに	つい	ての訳	周査・	制作	準備				
10. テーマ設定、アイデアスケッチ	鈴木	テー	マの	調査	・制作	乍プロ	ロセス	まと	め			
11. 制作、仕上げ	鈴木	制作	技法	の調	査・制	訓作フ	プロセ	スま	とめ			
12. 課題 4 グラフィックソフト演習④	鈴木	ソフ	トに	つい	ての訳	周査・	制作	準備				
13. テーマ設定、アイデアスケッチ	鈴木	テー	マの	調査	・制作	乍プロ	コセス	まと	め			
14. 制作、仕上げ	鈴木	制作	技法	の調	査・制	訓作フ	プロセ	スま	とめ			
15. プレゼンテーション、講評	鈴木	プレ	ゼン	準備	• 課是	夏のま	ミとめ)				
屋佐しの注意												

履修上の注意

授業開始時に重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。グループワークでは相互に協力・協働 して積極的に課題に取組むよう心がける。制作データは USB メモリ等に保存し持参すること。材料費 (500 円程度) を徴収する。

成績評価方法・基準

課題(制作物、プレゼンテーション)50%、出席を含む平常点(授業態度、取り組みの姿勢、ふりかえり等)50%、課題作品については、授業中にフィードバックする。

教科書 ワークシートを配布する、適宜指示する

参考書 これからはじめる Illustrator の本、これからはじめる Photoshop の本(技術評論社)

備 考 機器台数に限りがあるため定員を定める場合がある。受講人数等の状況により課題内容を変更することがある。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受け付ける。

授業科目	名	洋画 I		単	位(総批	授業科目名 洋画 I 単位 (総授業時間+自習時間)									
担当者	北折 整	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美表 2 年						

洋画の基礎となるテーマ及び技術を学び、主体的に美術活動に取り組む姿勢や態度を身に付けさせる。 絵画基礎 $I \cdot II$ での経験を踏まえて、写生を原則として、明暗・色彩・立体態・空間等の洋画表現の諸要素への理解を促がす。実制作に当たっては、制作に対する基本的な姿勢や態度を養うと共に、洋画に伝統的に使用されてきた画材料の使用法等技術面での指導を行う。課題は大きく $I \sim III$ まで設定し、 $I \in III$ は全員が同一のモチーフを着彩によって描画、IIIは各自設定したモチーフ(風景を含む)を、自ら立案した計画に沿って制作させ、基本的な制作過程を意識させる。

極光	の到法	- D 195		<u>i</u>	学位	受与の	の方針	+との	つ関連	Ē		
1文来	の到達	日保	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
a.洋	画表現	について基本的な知識を身に付け、生活の中での意		0								
議	を理解	する。										
b.洋	画の専	門的な表現方法・技術を身に付ける。	0									
c.制	作のプロ	ロセスを理解し、問題意識を持って主体的・持続的	0									
に	制作す	る態度を獲得する。										
授業	計画の	内容	自	習 (事前	・事行	後学値	多の内	内容)	/任	意	
1. 3	受業の	導入(科目・成績評価・画材等の説明)	課題	ほに使	用す	る画	材の	準備				
2. 1	制作I	静物着彩(エスキース・構図・下地)	課題の継続制作									
3.	IJ	(全体的な把握)		IJ								
4.	IJ	(部分的な描きこみ)		IJ								
5.	IJ	(全体を踏まえた仕上げ)(講評会)	次回]課題	に使	用す	る画	材の:	準備			
6. f	制作Ⅱ。	人物着彩(エスキース・構図・下地)	課題	夏の継	続制	作						
7.	IJ	(全体的な把握)		IJ								
8.	IJ	(部分的な描きこみ)		IJ								
9.	IJ	(全体を踏まえた仕上げ)(講評会)	次回]課題	に使	用す	る画	材の:	準備			
10.	制作Ⅲ	自由制作(制作意図・エスキース・構図・下地)	課題	夏の継	続制	作						
11.	11	(全体的な把握)		IJ								
12.	"	(部分的な描きこみ)		IJ								
13.	"	(部分的な描きこみ)		IJ								
14.	"	(全体を踏まえた仕上げ)		IJ								
15.	"	(全体を踏まえた仕上げ)(講評会)										
層修	トの注											

履修上の注意

- ・制作スペースは常時確保されているので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。
- ・講評会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。

成績評価方法・基準

- ・到達目標 a…10%(講評会)、b…65%(課題)、c…25%(授業態度、課題)
- ・各課題については、授業中にフィードバックを行う。

教科書:特に指定しない。

参考書:随時参考となる画集等を紹介する。

備考

- ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・都合により、モチーフを若干変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

授業科目	名	洋画Ⅱ		単	位(総括	受業時間	十自習	時間)	2(60)
担当者	北折 整	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表2年

洋画で扱うテーマ及び技術を学び、主体的に美術活動に取り組む姿勢や態度を養い、洋画表現と自分自身を含む実社会との関係性を自覚させる。洋画 I で経験した洋画表現の諸要素への理解を踏まえ、個々人の創造力の基礎を育む。課題は大きく I ~III まで設定し、I では写生、II では構想、III ではそれらを統合した表現を指導する。テーマにあった画材料を選択、自ら立案した計画に沿って制作させることで、各自に合った基本的な制作過程及び表現を意識させる。

松米	の到金口	1966		4	学位	授与の	の方針	計との	り関連	Ē				
欠 果 	の到達目	像	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
		ついて専門的な知識を身に付け、社会の中での意議を		0		0								
	解する。 ∃の課題は	こ有用となる洋画の専門的な表現方法・技術を身に付	<u> </u>											
け		C行用になる作画の寺門が表先がは 民間で列に行	\circ											
		マスや描画材の特性を十分に理解し、問題意識を持っ 制作する態度を獲得する。	0			0								
授業	計画の内	容	自習(事前・事後学修の内容)/任意											
1. 3	尊入(科目	・成績評価・画材等の説明)	課題	夏に使	用す	る画	材の	準備						
2. †	制作I人	物デッサン or 着彩(エスキース・構図・下地)	課題	夏の縋	続制	作								
3.	IJ	(全体的な把握)	n .											
4.	IJ	(部分的な描きこみ)		IJ										
5.	IJ	(全体を踏まえた仕上げ)(講評会)	次回	可課題	に使	用す	る画	材の	準備					
6. f	制作Ⅱ文	章題 (エスキース・構図・下地)	課題	夏の縋	統制	作								
7.	IJ	(全体的な把握)		IJ										
8.	IJ	(部分的な描きこみ)		IJ										
9.	IJ	(全体を踏まえた仕上げ)(講評会)	次回	可課題	ほに使	用す	る画	材の	準備					
10. f	制作Ⅲ自	由制作(制作の意図・エスキース・構図・下地)	課題	夏の縋	続制	作								
11.	"	(全体的な把握)		IJ										
12.	IJ	(部分的な描きこみ)		IJ										
13.	IJ	(部分的な描きこみ)		IJ										
14.	IJ	(全体を踏まえた仕上げ)		IJ										
15.	11	(全体を踏まえた仕上げ)(講評会)												
層修	トの注音	.												

履修上の注意

- ・制作スペースは常時確保されているので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。
- ・講評会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。

成績評価方法・基準

- ・到達目標 a…10%(講評会)、b…65%(課題)、c…25%(授業態度、課題)
- ・課題については、授業中にフィードバックを行う。

教科書:特に指定しない。

参考書:随時参考となる画集等を紹介する。

備考

- ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・都合により、モチーフを若干変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

授業科目	名	日	本画 I		単位 (総	授業時間	間+自習	時間)	2(60)
担当者		安住 英之	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美表 2 年

日本画の初歩的な知識・技法の修得を目的とさせる。日本画制作のトータルプロセスをひと通り体験して学びながら、その成果を1点の作品(10号サイズ以上)に仕上げて課題を提出させる。デッサン(写生・素描)からエスキース(作品の構想や構図などを練る下図)へと進み、最終的にタブロー(本画)完成に至るまで、プロセスごとに具体的な技術指導を行いつつ、履修者の進度に応じて概論的な知識の伝授も随時行う。

	j	学位护	受与の	の方象	サとの)関連	Ĭ	
1	2	3	4	5	6	7	8	9
	0	0						
0		0		0				
0 0 0 0								
	自習	(事	前・	事後	学修	の内	容)	
東洋	三、目	本の	絵画	の鑑	賞。			
モチ	ーフ	やテ	ーマ	の模	索。			
出来	こるだ	け対	象を	観察	し描	写を	する。	
			-		づい	たと	ころ	を丁
						-		
				・ジし	、構	図と	とも	に細
骨描	きの	ため	線の	引き	方を	練習~	する。	
墨の	ぼか	しの	練習	をす	る。			
して	おく	0		, –			, .	
					と岩	絵の	具に [、]	つい
出来	そるだ	〕け制	作を	進め	る。」	膠の智	管理。	
13. タブロー (本画) 制作 水干及び、岩絵具での細部の描き 出来るだけ完成度を高めるべく制								作す
描き始めのイメージを思い起こし、現 をよく認識する。								
難し	かつ	た点	、努	力し	た点	を言	葉で	まと
	〇 ○ 東 モ 出 観寧 デ 仕部 骨 墨 備し備て 出 出る描を難 が の 品て品下 来 来。きよし	1 2○ 東 モ 出観寧 デ 仕部 骨 墨 備し備て 出 出る描を難 が確き ぼ 陰のおの調 る る膠始くかの か 影技く技べ だ たのめ認っ	1 2 3 ○ ○ ○ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	1 2 3 4	1 2 3 4 5 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1 2 3 4 5 6 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1 2 3 4 5 6 7	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

履修上の注意

丹念に対象を観察すること。基本技法を素直な気持ちで習得すること。

毒性のある赤系の絵の具は水道に流さない。朱を使用した皿は、ふき取り後、洗浄。

成績評価方法・基準

課題作品70% (完成度50% 意図・発想20%)

授業態度30%(出席数。創作意欲や、創作の自主性等)

講評会等でフィードバックを行う。

教科書 適宜指示する。

参考書 適宜指示する。

備考

授業日 12 時半から 13 時までをオフィスアワーとする。スケッチブック、鉛筆、練り消しを常備すること。

授業科目	名		日本	画 II		単位 (総	授業時間	間+自習	時間)		2(60)
担当者		安住 英之		必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表2年

日本画の基礎的な知識・技法の修得を目的とさせる。1単位(総授業時間+自習時間)を「制作1/制作2」と2期に大別し、制作1では、主にマチエール研究(墨・岩絵具・箔・胡粉・和紙などの伝統画材だけでなく、他分野の画材とのミクストメディア的な研究を含む)を行わせる。制作2では、制作1の研究で学んだ表現技術を活用して日本画制作を実習し、その成果を1点の作品(10号サイズ以上)に仕上げ、課題を提出させる。

核米の到本日種	学位授与の方針との関連											
授業の到達目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
箔押しや盛り上げ等のマチエール技法の修得ができる。			0		0							
アクリル絵具や版技法等、他の画材や技法との併用の体験できる。			0		0							
ドーサ引き (滲み止め) により、支持体への意識を高めることができる。			0									
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)											
1. 導入 科目の説明	指す	抱負	を言	葉に	をふ して	まと	めて	おく。				
2. 制作1: テストプレート ドーサ引き					いる 過去							
3. 制作1: テストプレート 盛り上げ	自分	か思	らと	ころ	まで	盛り.	上げ	ておく	` o			
4. 制作1:テストプレート 重ね塗り・たらし込み アクリルとの併用	思い	10h.	たこ	とは	実行	して	おく。					
5. 制作1:テストプレート 箔押し・絵具を焼く	箔か	が施さ	れた	作品	を鑑	賞し	てお	<。				
6. 制作2:デッサン・資料研究 テーマの探求	モチ	ーフ	やテ	ーマ	を事	前に	考え、	ておく	> 0			
7. 制作2:デッサン・資料研究 テーマの探究			-				, -	調べておく				
8. 制作2:エスキース(小下図)制作開始			でい 込ん	-	と気 く。	づい	たと	ころ	を丁			
9. 制作2:エスキース(小下図)仕上げとトレース	念紙	氏作り	を済	ませ	てお	<。						
10. 制作2:タブロー(本画)制作 墨での下描き、もしくは下地作り 開始	0114	らの技 ごおく	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	等で	下地	につ	いて	下調、	べを			
11. 制作2:タブロー(本画)制作 墨での下描き、もしくは下地作り 仕上げ			送書 :して	•	·水干 。	と岩	絵具	につ	いて			
12. 制作2:タブロー(本画)制作 水干及び岩絵具での制作開始	出来	そるだ	け制	作を	進め	る。」	摎の ⁸	管理。				
13. 制作2:タブロー(本画)制作 水干及び岩絵具での制作描き込み	る。膠の官理。						りるべく制作					
14. 制作2:タブロー(本画)制作 水干及び岩絵具での制作仕上げ	をよ	く認	識す	る。	・ジを			- ,	> = 0 0			
15. 講評	難し く。	かっ	た点	、努	力し	た点	をま	とめ、	てお			
屋依上の注音												

履修上の注意

丹念に対象を観察すること。必要な知識、技法を積極的に習得すること。 毒性のある赤系の絵の具は水道に流さない。朱を使用した皿は、ふき取り後、洗浄。

成績評価方法・基準

課題作品 7 0 % (完成度 5 0 % 意図・発想 2 0 %) 授業態度 3 0 % (出席数。創作意欲や、創作の自主性等) 講評会等でフィードバックを行う。

教科書 適宜指示する。

参考書 適宜指示する。

備考

授業日12時半から13時までをオフィスアワーとする。 スケッチブック、鉛筆、練り消しを常備すること。

授業科目名 版画 I					(総授業	時間+	自習時間	引)	2(60)
担当者	大堀 恵子	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美表2年

版画とは何かを理解するために下絵を描き製版・印刷をし、創作版画を制作し、版画表現の深さに気付かせる。「シルクスクリーン」は、製版方法の感光の原理を工夫し、「木版画」は、板目木版の特性をいかしそれぞれに思考力、創造的実践力を主体的に制作に取り入れ、基本的知識や発想力、スキルを身につける。版画表現は、工程の計画的な表現の工夫により、多様な表現効果を生み出せる。その技法を理解できるように指導する。

核状の切存日種	学位授与の方針との関連										
授業の到達目標 	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
孔版、木版の基礎的な技法と工程を理解し身につける。	0	0									
孔版、木版の表現力(色と支持体の工夫)を身につける。				0	0						
皆と協働し作品について意見交換し自律的に制作ができる。						0					
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)							字)			
1. ガイダンス・授業内容の説明	記録	する	ための	の制化	乍ノー	ートを	を用意	まする) 0		
2. シルクスクリーンについて (ビデオ・作品鑑賞) 色料の三原色の実験	2回	作業	内容?	をま。	とめど	欠回提	是出。				
3. イメージ決定後、 版下を作り製版工程を行なう。	3回	作業	内容?	をま。	とめど	欠回提	是出。				
4. 印刷工程の流れを経験する。	4回	作業	内容?	をま。	とめど	欠回提	是出。				
5. 版を重ねてみる。	5回	作業	为容.	と課題	題を認	まとぬ	り次回	回提出	10		
6. 版を重ねる順番をかえてみる。	6回	作業	内容.	と課題	題を言	まとぬ	か次回	回提出	10 1		
7. 印刷する紙の素材をかえてみる。	7回	作業	为容.	と課題	題を言	まとぬ	り次回	可提出	10		
8. 講評会	講評	会の	内容?	をま。	とめど	欠回提	是出。				
9. 木版画について(ビデオ・作品鑑賞)	9回	作業	内容?	をま。	とめど	欠回提	是出。				
10. 白黒の対比のエスキースを考え版にうつし彫版する。	10 回	作業	内容	をま	とめ	次回	是出。				
11. 印刷工程の流れを経験する。	11 回	作業	内容	をま	とめ	次回	提出。				
12. 色の三原色のエスキースを考え版にうつし彫版する。	12 巨	作業	内容	をま	とめ	次回	是出。				
13. 版を重ねてみる。	13 垣	作業	内容	と課	題を	まとる	め次[回提と	Ц.		
14. 版を重ねる順番をかえてみる。	14 回作業内容と課題をまとめ次回提出。										
15. 講評会	講評業のトと		を 40)0 字	でま	とめ					

履修上の注意

作品の計画又は、途中経過と版種別プロセスを記録する制作ノートを作成する。

成績評価方法・基準

ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照してください。

課題と作業内容のまとめは、授業中にフィードバックをします。提出されたレポートは、後日添削して返却する。 1課題作品 (50%) 2制作ノート(30%) 3受講態度(積極的に参加している 20%)

教科書 授業前にプリントを配布する

参考書 〔版画ガイドブック〕〔町田国際版画美術館〕〔2,500円〕

備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日と時間は掲示)で受け付けます。

授業科目	名	版画Ⅱ		単	時間)	2(60)			
担当者	大堀 恵子	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表2年

版画とは何かをさらに理解するために創作版画を制作し、版画表現の深さに気付きさらに鑑賞の能力を 高めることが目標である。「リトグラフ」は、水と油の反発作用の原理を利用した効果的な表現を工夫し、 「銅版画」は、版面にできたみぞ(凹部)にインクをつめプレス機で紙に写し取る技法を、それぞれ制作 に取り入れ基本的知識や発想力、スキルを身につける。版画表現は、工程の計画的な表現の工夫によって、 主体的に美術活動に取り組む能力と課題発見力が高められるように指導する。

核米の利達日種	学位授与の方針との関連										
授業の到達目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
平版、銅版の基礎的な技法と工程を理解し身につける。	0	0									
平版、銅版の表現力(色と支持体の工夫)を身につける。				0	0						
皆と協働し作品について意見交換し自律的に制作ができる。						0					
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)										
1. ガイダンス 授業内容の説明	記鉤	まする	ため	の制	作ノ	ート	を用え	用意する。			
2. リトグラフについて (ビデオ・作品鑑賞)	2回]作業	内容	をま	とめ	次回	提出。)			
3. 転写カーボン紙、 紙の空刷り、 版をつくる。	3 🖪]作業	内容	をま	とめ	次回	提出。)			
4. 版に描画を行なう。	4 🖪]作業	内容	をま	とめ	次回	提出。)			
5. 製版工程を行なう。	5回]作業	内容	をま	とめ	次回	提出。)			
6. 印刷工程(主版)を行なう。	6回]作業	内容	と課	題を	まと	め次[可提出	出。		
7. 印刷工程(グラデーション)を行なう。	7回]作業	内容	と課	題を	まと	め次[可提出	出。		
8. 講評会	講部	会の	内容	をま	とめ	次回	提出。)			
9. 銅版(板紙凸凹版含む)について (ビデオ・作品鑑賞)	9回]作業	内容	をま	とめ	次回	提出。)			
10. 版に描画をする。	10	回作業		マをま	とと	次回	提出	0			
11. 製版工程を行なう。	11	回作業		マ をま	とと	次回	提出	0			
12. 印刷工程の流れを経験する。	12	回作業		ぎと調	題を	まと	め次	回提	出。		
13. 印刷する紙の素材をかえてみる。	13 回作業内容と課題をまとめ次[回提	出。		
14. 印刷する紙の色をかえてみる。	14回作業内容と課題をまとめ次回提出。										
15. 講評会	業の	F会の の感想 : いっ	を 4	00 字	でま	とめ					

履修上の注意

作品の計画又は途中経過と版種別プロセスを記録する制作ノートを作成する。

成績評価方法・基準

ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照してください。

課題と作業内容のまとめは授業中に74ート、 $^{\circ}$ $^{\circ$

教科書 授業前にプリントを配布する

参考書 〔版画ガイドブック〕〔町田国際版画美術館〕〔2,500円〕

備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日と時間は掲示)で受け付けます。

授業科目	名	壁画 I		単	2(60)				
担当者	森 敏美	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美表 2 年

絵画のルーツ(美術・工芸・デザインの源)としての壁画を見直し、様々な壁画の技法を学ばせる。ここでは建築アートとしての壁画のうち、モザイクの技法を修得させる。モザイクの技法も様々あるが、実際の建築物或いは造形物に取り付けることを想定し、その取り付ける場所の環境、状況を把握する論理的思考力、創造的実践力と表現力を身につけ、美術を通して地域社会に貢献できる(生活と美の融合を実践し得る数少ない美術のジャンルの一つ)ものとして壁画を学ばせる。

核米の口的(20) 本口種(学位授与の方針との関連									
授業の目的(到達目標)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・モザイクの歴史と技法を、制作を通して身に付ける事ができる。	0		0							
・建築アートがどのようなものか知ることが出来る。	0		0							
・地域社会と協働でプロジェクトを行う術を学べる。								\circ		
授業計画の内容			事前	・事	後学	修の	内容			
1.ガイダンス:画集で作品紹介。材料、用具等の説明。	予め	関連	画集	等を	、図	書館	等で	調べる	5	
2.協働で行う実践例を紹介し、具体例を通し計画を立てる。	出来	たら	設置	され	てい	る施	設を	見学		
3.下絵制作:模写をする為、画集から選考し下絵を作る。	図書	館等	で適	当な	画集	を調	べる			
4.材料研究:模写の材料を選択し、材料の加工に入る。	材料や下絵の準備を計画									
5.制作:パネル制作・材料加工準備。	時間	内に	間に	合う	よう	に段	取り、	する		
6.パネル周辺からモザイクをはり出す。	モサ	・イク	片の	大き	さに	注意	して!	貼る		
7.モチーフの中心部を手がける。	モサ	・イク	の流	れを	見直	す				
8.モチーフを仕上げて行く。	時間	をか	けて	丁寧	に					
9.モチーフと周辺のバランスを見て行く。	ト。ー	-スの	大き	さを	揃え	る				
10.周辺部分とモチーフ絵柄の部分を合わせて行く。	モサ	゙イク	の流	れを	見て	ゆく				
11.次第に完成に近づける。	足り	ない	時間	は、	授業	の合	間に			
12.細部を仕上げて行く。	丁寧に仕上げ修正も行う									
13.全体のバランスを見て仕上げる。	時間外も有効に活用									
14.作品完成,片付け、材料整理。	不備な点は修正する									
15.講評会 (作品に関するフィードバック)	各自	、制	作に	関し	ての	意見	を述	べる		
	·									

履修上の注意

時間に遅れない事、授業内で足りない分は、空き時間も利用し完成させる。

成績評価方法・基準

課題制作90%、平常点10%(平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する)

課題に関しては、毎回講評会を通じて学生と相互の作品に関するフィールドバックを行う。

教科書 資料配布(壁画制作の手引き)

参考書 図書館、壁画工房所蔵のモザイク関係の図書

備考

オフィスアワーの有効活用を

授業科目名 壁画Ⅱ					(授業時		2(60)		
担当者	森 敏美	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表 2 年

絵画のルーツとしての壁画を見直し、美術・工芸・デザインに関連させる様々な壁画の技法を学ばせる。 ここでは建築アートとしての壁画のうち、ステンドグラスの技法を修得させる。

光の壁画としてステンドグラスは壁画の中に位置付けられるが、ここでは基本的なステンドグラスの技法を修得し、表現力と創造力の育成を図らせる。建築空間に美的感性を見出し、空間演出を実践し得る美術表現分野における高度な専門知識を身に付け、文化・自然・社会に関連付けて壁画を学ばせる。

極米の日的(到法日種)	学位授与の方針との関連										
授業の目的(到達目標)	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
・モザイクの歴史と技法を、制作を通して身に付ける事ができ る。	0	0	0								
・建築アートがどのようなものか知ることが出来る。	0	0	0								
・地域社会と協働でプロジェクトを行う術を学べる。					0		0				
授業計画の内容	事前・事後学修の内容										
1. ガイダンス:図書館の画集や工房の資料を利用し説明。	予め)関連	画集	等を	、図	書館	等で詞	調べる	5		
2. 下絵制作: 模写をする為、画集等を見てコピーしトレー	学卢	引に設	と置が	れた	ステ	ンド	を予	め見	てお		
スする。実際に取り付けられた実践例を示し参考にする	<										
3. 制作:型紙制作とガラスのカット練習。	怪我	とに注	意し	練習	を繰	り返	す				
4. ガラスカット練習 (型紙を使う)	正確	能に作	れる	よう	に留	意す	る				
5. 絵付け(ラインをひく)練習。	筆拐	削きの	練習	を繰	り返	す					
6. ぼかし絵付け 練習。	きオ	いいに	ぼか	せる	様に	する					
7. 本制作用作品カット・ガラス組み。	失則	なした	もの	は作	り直	す					
8. 本番絵付け(ライン入れ) 釜入れ。	デサ	ドイン	によ	って	何回	か行	う				
9. 本番ぼかし絵付け 釜入れ。	ライ	ンに	沿う	よう	に絵	付け					
10. シルバーステイン作業 釜入れ。	必要	見の無	い人	はし	ませ	ん					
11. ガラス調整。	大き	ささを	正確	に							
12. コパーテープ巻き。	中心を外さないように正確に巻く										
13. ハンダ付け。	火傷	易をし	ない	よう	に練	習					
14. 仕上げ。	表面	īがき	れい	にな	る様	に仕.	上げ	る			
15. 講評会 (作品に関するフィールドバック)	反省	育点等	シスモ	をす	る						
層修上の注音	•										

履修上の注意

時間に遅れない事、授業内で足りない分は、空き時間も利用し制作を行なう。

成績評価方法・基準

課題制作 90%、 平常点 10% (平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する) 課題に関しては、毎回講評会を通じて学生と相互の作品に関するフィードバックを行う。

教科書 資料配布(壁画制作の手引き)

参考書 図書館、壁画工房内のステンド関係の図書

備考

わからない事はオフィスアワーを有効に利用すること

授業科目	名		彫刻 I		単	時間)	2(60)			
担当者		佐藤 淳一	必・選	教必	形態	実技	学期	前期	対象	美表2年

人体像の制作を行う。彫刻作家の作品等を紹介し興味を喚起し、造形活動に積極的に取り組む態度を 指導する。人体彫刻の基礎的造形要素である、立つということ、量感、塊、動勢、空間、表面を教授す る。心作りから塑造、石膏造形までの作業を教授し素材の扱いを指導する。人体から感得したイメージ を生動感のある抽象造形に転化する方法を教授し、造形力と自己イメージの彫刻的展開力を身につけさ せる。

授業の到達目標	学位授与の方針との関連										
(文素の判)連り保	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
人体彫刻の基礎的造形要素を把握できる	0	0									
人体の抽象化と生動感について理解できる		0							0		
石膏作業に習熟し、他と協働して行うことができる						0					
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)							容)			
1.授業内容、注意事項、評価方法説明、触覚デッサン	シラ	ラバス	を読	きむ							
2.人体のデッサン(モデル使用)、人体の構造、説明と実技	プリ	レント	を読	み自	習し	てく	る				
3.人体のデッサン(モデル使用)、講評	人体	なにつ	いいて	プリ	ント	を読	む				
4.心棒作り、心の意味、デッサンを基にして、石膏使用法	彫刻制作プリント1を読む										
5.制作実技 荒付け1、	彫刻	彫刻制作プリント2を読む									
6.制作実技 荒付け2	彫刻	削制作	ミプリ	ント	3を	読む					
7.制作実技 荒付け3、	彫刻	削制作	ミプリ	ント	4を	読む					
8.制作実技 量と量の関係 生動感 1	彫刻	削制作	ミプリ	ント	5を	読む					
9.制作実技 量と量の動き 生動感 2	彫刻	削制作	ミプリ	ント	6を	読む					
10.制作実技 量と量の動き 生動感3	彫刻	削制作	ミプリ	ント	7を	読む					
11.講評											
12.人体をモチーフにした抽象彫刻 1 (心作り荒付け)	なをモチーフにした抽象彫刻 1 (心作り荒付け) 抽象彫刻制作プリント1を読む										
13.人体をモチーフにした抽象彫刻 2 (生動感 1)	抽象彫刻制作プリント2を読む										
14.人体をモチーフにした抽象彫刻 3 (生動感 2)	抽象	息彫刻	制作	プリ	ント	3を	読む				
15.講評											

履修上の注意

各種美術展の見学レポートの提出、時間外も自習する事。作業の安全に留意すること。

成績評価方法・基準

作品評価 40%、授業態度(集中して制作しているか 20%、学んだことを制作に活かそうとしているか 20%)提出レポート 20%(評価して返却します)

教科書 彫刻についてのレポートを配布します

参考書 〔彫塑〕〔日貿出版社〕

備考

1回目から作業します。汚れてもよい作業できる服装で来てください。準備、清掃まで全員で行います。 それもすべて彫刻の大切な内容になります、協力して作業してください。授業外の質問はオフイスアワーで対応します。

授業科目	名	彫	刻Ⅱ		耳	時間)	2(60)			
担当者		佐藤 淳一	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表2年

石材、木材 等を素材として取り上げ、造形思考を進化させる。主として抽象表現を取り上げて自己のイメージを独創的に作品として表現させる。教員の活動や様々なアートによる環境造形活動を紹介し興味を喚起し、場所との関連による造形活動に主体的に取り組むための基本的態度を身に着けさせる。環境彫刻の要素である、場と空間を意識させる。野外アート展、各種公募展に出品させることにより、自己の作品のオリジナリテイを確認し、場や空間、環境とどのように自己の作品を調和させてゆくのか研究させる。

極業の到達日種		学位授与の方針との関連										
授業の到達目標 	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
様々な素材による基礎的造形力を身につける			0									
場と空間を意識し生動感を表現することができる			0	0								
制作活動を他と協働して行うことができる				0								
授業計画の内容		自習	事	前·	事後	学修	の内容	容)				
1.授業内容、注意事項、評価方法説明、	シ	ラバス	を読	it.	課題	提出						
2場と空間 説明と実技	ア	ートフ	゜ロジ	ュク	ト作	品集、	、課題	9提と	Ц			
3.学内の仮設置場所、公募展を想定	ア	イデア	フケ	ッチ	•••••			•••••				
4.素材選択作業	ア	アイデアスケッチ										
5.制作1(デッサン、荒作り、生動感)	制	乍継続	Ž									
6.制作2(場と動勢)	制	乍継続	Ž									
7.制作3(場と量感)	制	乍継網	Ž									
8.制作4(場と空間)	制	乍継続	Ž									
9.制作5 (密度)	制	乍継続	Ž									
10.制作 6 (全体と部分、空間)	制	乍継続	Ž									
11.制作7(細部、密度)	制作継続											
12.制作8 (対侯性)	制作継続											
13.制作 9(安全性)	制	制作継続										
14.制作 10 (設置準備)	作	作業到達目標まで進める										
15 野外アート展、公募展.設置	制	乍のま	ことめ	作成								
屋板!の注意												

履修上の注意

各種美術展の見学レポートの提出、時間外も自習する事。自分だけでなく他の人の作業の安全にも充分 留意してください。

成績評価方法・基準

作品評価 40%、授業態度(集中して制作しているか 20%、学んだことを制作に活かそうとしているか 20%)提出レポート 20%(評価して返却します)

教科書 授業前に資料配布

参考書 〔彫刻をつくる〕〔美術出版社〕、授業内で紹介

備考

1回目から作業します。汚れてもよい作業できる服装で来てください。準備、清掃まで全員で行います。それもすべて彫刻の大切な内容になります、協力して作業してください。授業外の質問はオフイスアワーで対応します。

授業科目	名	単	位(総括	美 時間	十自習明	寺間)	2(60)		
担当者	福田 一実	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美表2年

創作人形作家として会得した技術などをもとに身近な人形、玩具などの存在について考えさせ、球体関節人形の仕組みを学び、オリジナルの球体関節人形を制作できるよう指導する。作品は人体の形をモデルとし、イメージを膨らませて実寸代でデッサンをさせ、設計図を作り、オリジナルのキャラクターを考えながら制作させる。関節は首、肩、股間のみとし、サイズは頭部 $8\,\mathrm{c}\,\mathrm{m}$ の $3.5\,\mathrm{gg}$ 身もしくは $4\,\mathrm{gg}$ 身のデフォルメの人形を制作させる。原則として人形 I ではドールアイを使用せず描き目にし、その表現について研究させる。

核米の対体ロ種	学位授与の方針との関連										
授業の到達目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
人形の造形について研究しながら学ぶことが出来る。			\bigcirc				0				
球体関節人形を制作するための技法を理解することが出来る。	0				0						
オリジナルな人形を完成させることができる。					0		0				
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)										
1. 授業の説明 方眼紙に実寸大の下図をかく。	料集	め。			を膨						
2. 下図を元に型紙をつくり、心材にあててカッター等で削り 形をつくる。		学の る。	本な	どを	参考	にし	、人	体の	研究		
3.芯を削り、形を作る。											
4. 粘土を練り芯材に3~5mm厚さに粘土を巻く。	しっかり乾燥させてくる。										
5. ステンレス製の針金で手の芯をつくる。顔の造形をする。	顔の	造形	、表	情に	つい	て観響	察して	てくる	5.		
6. 手の芯に粘土を巻き、手の造形をする。胴、腕の造形。	やすりがけ										
7. 足、脚の造形。	やす	-りが	け								
8. 乾燥させ、すべてを磨く。	やす	りが	け								
9. 関節の球を作る。芯材を抜く。頭部に耳を造形する。	やす	-りが	け								
10. 球を磨き、各関節に固定する。	穴を	開け	る場	所を	しつ	かりる	確認~	する。			
11. 球に対する受けを作る。各球に穴を開け、ステンレス線を頭、肩、脚に固定する。	全体	いべ	ラン	ス確	認。						
12. 仮組をし、やすりをかけ、調整する。	細かなキズなどをチェックする										
13. 塗装する。着色、メイク。	メイ	クの	イメ	ージ	、資	料集	め				
14. 髪を貼る。	ヘア	フタ	イル	のイ	メー	ジ、	資料負	集め			
15. 組み立て完成させる。講評。											
履修上の注意											

履修上の注意

人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。

成績評価方法・基準

課題作品 50%、授業態度 50% (出席率、忘れ物の有無、創作意欲など) 講評会でフィードバックします。

教科書〔吉田式球体関節人形制作技法書〕〔吉田良〕〔ホビージャパン〕〔2,880〕

参考書 [美術解剖図ノート] [視覚デザイン研究所] [2.700]

〔はじめて作る球体関節人形〕〔アイミ〕〔秀和システム〕〔2,000〕

〔人形論〕〔金森 修〕〔平凡社〕〔3,200〕

備考

ルーブリックと評価については第一回目の授業で説明します。 質問等については授業終了時にオフィスアワーで受け付けます。

授業科目	名	,		单	位(総括	寺間)	2(60)			
担当者	福日	日 一実	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表2年

創作人形作家として会得した技術などをもとに人形の表現について考えさせ、球体関節人形の仕組みを学び、オリジナルの球体関節人形を制作できるよう指導する。作品は人体の形をモデルとし、イメージをふくらませて実寸大でデッサンをさせ、設計図を作り、人形を通して自己の潜在意識を表現できるようにする。人形 Π では頭部8cmの5頭身の人形を制作し、関節は首、肩、股間、手首、足首とする。個々の進行状況により腕、脚のカットやドールアイの使用を習得させ、人形の表現について研究させる。

極类の到券日種	学位授与の方針との関連									
授業の到達目標 	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
人形の造形について研究しながら学ぶことが出来る。			0				0			
球体関節人形を制作するための技法を理解することが出来る。					0					
オリジナルな人形を完成させる。					0		0			
授業計画の内容		自習	(事	前・	事後	学修	の内	容)		
1.授業の説明 方眼紙に実寸大の下図をかく。	完成料集		ハイメ	ージ	を膨	らま	せて	おく。	資	
2. 下図を元に型紙をつくり、心材にあててカッター等で削り 形をつくる。		リ学の ⁻る。	本な	どを	参考	にし	、人	体の	研究	
3. 芯を削り、形を作る。										
4. 粘土を練り芯材に3~5mm厚さに粘土を巻く。	しっ	かり	乾燥	させ	てく	る。				
5. ステンレス製の針金で手の芯をつくる。顔の造形をする。	顔の	造形	、表	情に	つい	て観	察し、	てくる	5.	
6.手の芯に粘土を巻き、手の造形をする。胴、腕の造形。	やす	-りが	け							
7. 足、脚の造形。	やす	-りが	け							
8. 乾燥させ、すべてを磨く。	やす	-りが	け							
9. 関節の球を作る。芯材を抜く。頭部に耳を造形する。	やす	-りが	け	•••••			•••••••	•••••		
10. 球を磨き、各関節に固定する。(頭を開き、瞳を入れる)	穴を	:開け	る場	所を	しつ	かりる	確認。	する。		
11. 球に対する受けを作る。各球に穴を開け、ステンレス線を頭、手、足に固定する。	全体	ぶ のバ	ミラン	ス確	認。					
12. 仮組をし、やすりをかけ、調整する。	細かなキズなどをチェックする									
13. 塗装する。着色、メイク。	メイクのイメージ、資料集め									
14. 髪を貼る。	ヘア	゚゚スタ	イル	のイ	メー	ジ、	資料缜	長め		
15. 組み立て完成させる。講評。										
屋修上の注音										

履修上の注意

人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。

成績評価方法・基準

課題作品 50%、授業態度 50% (出席率、忘れ物の有無、創作意欲など) 講習会でフィードバックします。

教科書〔吉田式球体関節人形制作技法書〕〔吉田良〕〔ホビージャパン〕〔2,880〕

参考書〔美術解剖図ノート〕〔視覚デザイン研究所〕〔2,700〕

〔はじめて作る球体関節人形〕〔アイミ〕〔秀和システム〕〔2,000〕

〔人形論〕〔金森 修〕〔平凡社〕〔3,200〕

備考

ルーブリックと評価については第一回目の授業で説明します。質問等については授業終了時にオフィスアワーで受け付けます。

授業科目名 陶芸 I						位(総批	受業時間	十自習	時間)	2(60)
担当者		立花 布美子	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美表2年

工芸基礎で修得した知識や技法、作業工程などを含めた基礎的スキルを更に深める。石膏型による型おこし成形に取組み、より完成度の高い「製品」を意識した機能性且つ美的デザインに仕上げさせる。石膏の特徴や保存について、また、原型づくりの注意点を説明する。各自施す装飾技法により進度が異なるため、作品への管理能力と、効率良く制作ができるための判断力を身につけていくよう指導していく。完成作品のデザイン性、用途、機能性を含めたプレゼンテーションを行うことで発想の展開力を追求させる。

極米の到春日種	学位授与の方針との関連										
授業の到達目標 	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
石膏型による型おこし制作において基礎知識を含めた専門技術を身につ	0										
けることができる。											
「型」を使用した制作についての意味を理解することができる。		\circ	0								
授業計画の内容		自習	事	前・	事後	学修	の内	容)			
1. ガイダンス 型おこし(押し型)成形とは 石膏について	型お	まこし	(押)	し型)	成形	につ	いて	予習			
2. デザイン ①原型づくり											
3. ②原型づくり 仕上げ											
4. ③原型づくり 仕上げ	石膏	野取り	につ	いて	予習						
5. 石膏型づくり (凹型)	カリ石鹸について予習										
6. 石膏型づくり (凸型) カリ石鹸の理解											
7. 石膏型仕上げ ①型おこし											
8. ②型おこし後、随時バリ取り仕上げ	各自の計画表の見直し、修正										
9. ③型おこし後、随時バリ取り仕上げ											
10. バリ取り仕上げ											
11. ①仕上げ 各自装飾											
12. ②仕上げ 各自装飾											
13. ①各自装飾 釉掛け (掛け分けも可)											
14. ②各自装飾 釉掛け (掛け分けも可)											
15. 窯出し プレゼンテーション 講評	まと	め									
屋体上の注音											

履修上の注意

- ・工芸基礎Ⅱ (陶芸) を履修していることが望ましい。
- ・各自の計画表に沿って作業を進めること。
- ・遅刻・欠席のルールとして、遅刻3回で欠席1回とする。

成績評価方法・基準

- ・授業参加状況 50% (各回の制作日誌の記入内容も含む)、課題作品 50%
- ・各課題について、講評会でフィードバックを行う。

教科書 授業前にプリントを配布する

参考書〔陶芸を学ぶ①〕〔京都造形芸術大学編〕〔角川書店〕〔7,480円〕

備考

- ・作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。
- ・ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照すること。

授業科	目名	陶芸	₹Ⅱ		単位	(総授業時	間+自習	時間)		2(60)
担当者	<u>1</u> /	花 布美子	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表 2 年

工芸基礎で修得した知識や技法、作業工程を含めた基礎的スキルを更に深める。組み物制作に取り組むことにより同じ形・大きさに揃える観察力を高め、計画的に制作を行わせる。機能的且つ美的デザインによる加飾を施し、窯詰め作業、土練機の使用において、学生同士協動するためのコミュニケーションを図りながら、自他作品への管理能力と、効率良く制作ができるための判断力を身につけるよう教授する。完成作品のデザイン性、用途、機能性を含めたプレゼンテーションを行うよう指導していく。

核状の対体ロ種	学位授与の方針との関連											
授業の到達目標 		1	2	3	4	5	6	7	8	9		
組み物制作において基礎知識を含めた専門技術	を身につけることができる。	0		0								
電動ろくろ制作において基礎知識、技術を身	につけることができる。	0										
粘土、作品の保存管理において主体的に問題 とができるようになる。	解決し、作業計画を立てるこ		0									
授業計画の内容					自習	(事前	う 事	後学修	の内容	支)		
1. ガイダンス 製陶法の復習 トンボ、化				トン	ボ、化	粧掛り	ナにつ	ハて手	習			
2. どちらかを選択【A】電動ろくろ成形:菊練り	練習 【B】手びねり成形:組	み物う	デザイ	ン								
3.【A】練習1 菊練り、土殺し	【B】デザインに合わせたトン	ノボの	制作		各自の制作工程の予習							
4.練習2 土殺し~土取り~バイ挽きまで	①-1 制作(つまみ出し or 紐づく	り)										
5.練習3 "	①-2 制作、削り仕上げ(化粧泥に	こよるフ	加飾)									
6.①-1 土殺し∼水挽きまで	①-3削り仕上げ(化粧泥によるカ	叩飾)										
7. ①-2 削り仕上げ (化粧泥による加飾)	②-1 制作、削り仕上げ(化粧泥に	こよるカ	加飾)									
8. ②-1 土殺し~水挽きまで	②-2制作、削り仕上げ				各自	の計画	画表の	見直	し、修	₹正		
9. ②-2 削り仕上げ (化粧泥による加飾)	②-3 制作、削り仕上げ(化粧泥に	こよるカ	加飾)									
10. ③-1 土殺し~水挽きまで	①②仕上げ (化粧泥による加飾)											
11. ③-2 削り仕上げ(化粧泥による加飾)	①②仕上げ (化粧泥による加飾)											
12. ④-1 土殺し~水挽きまで	釉掛け(透明釉)											
13. ④-2 削り仕上げ (化粧泥による加飾)												
14. 釉掛け:透明釉(掛け分けも可)												
15. 窯出し 講評					まと	め						
屋修上の注音												

履修上の注意

- ・工芸基礎Ⅱ(陶芸)を履修していることが望ましい。
- ・各自の計画表に沿って作業を進めること。
- ・遅刻・欠席のルールとして、遅刻3回で欠席1回とする。

成績評価方法・基準

- ・授業参加状況 50% (各回の制作日誌の記入内容も含む)、課題作品 50%
- ・各課題について、講評会でフィードバックを行う。

教科書 授業前にプリントを配布する。

参考書 〔基礎の陶芸 2:器の飾りかた〕 〔田中見依〕 〔美術出版〕 〔2,420 円〕 〔新技法シリーズ 102 陶芸の基本〕 〔東京芸術大学美術学部工芸科陶芸講座〕 〔美術出版〕 〔3,080 円〕

備考

- ・作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。
- ・ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照すること。

授業科目	授業科目名								十自習	時間)	2(60)
担当者		井上 直美		必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美表2年

木地の下地と塗りの基礎を学び、塗りの技術を身に付けるために、既存の木地・皿盆を利用して、漆芸の基本の1つである漆塗り(髹漆:きゅうしつ)の工程を指導する。木地は、径 27cm と径 30cm の皿盆 2 枚を用意し、木地の調整から固めをし、丈夫にする為に、下地を地の粉や斫の粉斫を用いた錆などで丁寧にすすめて行く。下地工程の後、黒中塗りと塗面の水研ぎを何回か繰り返し、塗りと砥ぎの工程を理解出来る様に指導する。漆芸作家の経験を基に並行してエンドユーザーに対する作品の土台制作の重要性を理解できる様に指導する。

学位授与の方針との関連											
1	2	3	4	5	6	7	8	9			
0	0	0									
0	0	0									
\circ	0	0									
自習(事前・事後学修の内容)											
ビデオの内容をまとめておく											
プリ	ント	を基	に工	程を	復習						
地の	粉に	つい	て復	習し	てお	<					
前回のムラがないか確認											
1回目の蒔地との違いを覚える											
地の粉との違いを覚える											
錆の特性をまとめる											
ムラ	がな	いか	確認								
1回	目の	錆付	との	違いる	を覚え	える					
空矿	fぎを	8割	して	おく							
空研	fぎを	完成	させ	てお	<						
はみ出した部分を研いでおく											
終わ	らな	い水	研ぎ	を終	了さ	せる					
足りない塗りを重ねておく											
水研ぎをすすめておく											
	〇〇〇 ビプ地前1地錆ム1空空は終足がりのの ラリの回回ののラ回ののみれり	 1 2 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ● ** ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1 2 3 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1 2 3 4 ○ ○ ○ ○ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	1 2 3 4 5 ○ ○ ○ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	1 2 3 4 5 6 ○ ○ ○ ○ □ □ □ ○ ○ ○ ○ □ □ □ □ ○ ○ ○ ○ □ □ □ □	1 2 3 4 5 6 7 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1 2 3 4 5 6 7 8 ○ ○ ○ ○ □ □ □ □ □ □ ○ ○ ○ □ □ □ □ □ □			

履修上の注意 作業着を着用の上、授業に臨む。漆かぶれに注意しながらすすめる。(工芸基礎 $I \cdot II$ (漆芸) を履修していなくても受講可)

成績評価方法・基準

授業態度(50%) ➡意欲、柔軟性、理解度など。

作品進度(50%) ⇒完成度、デザイン、センス、個性の表現。

講評会でフィードバックする。

教科書 授業中に適宜資料を配布する。

参考書 〔やさしく身に付くうるしのはなし 2〕 〔日本漆工協会〕〔2,160 円]

備 考 質問等については、授業終了時、あるいはオフィスアワーに受付けます。 工芸基礎で漆を選択していなくても履修可能です。

授業科目名 漆芸Ⅱ 単位(総授業時間+自習								十自習	時間)	2(60)	
担当者	井上 直美 必・選 選						実技	学期	後期	対象	美表2年

色漆を用いて絞漆、仕掛け漆を制作させ、変わり塗りの皿盆 2 枚(径 27cm 30cm)の制作を指導する。 (前期に黒塗りをした盆皿に加飾を施す)変わり塗りの為の色漆を、顔料と木地呂漆を練り合わせ、作り、ゴミを除く為に和紙を使って漉させる。その色漆を使い、絞漆を作ったり、仕掛けの漆を調合し、色わり塗りの仕掛けを施して土台を作らせる。その後、希望の仕上げをする為に色を塗り重ね、終了したら丁寧に研ぎ出し、仕上げをして自在に色彩・柄などを楽しみ、表現出来る能力が身に付く様に指導する。 作家として作品に個性を表現する事の重要性を学ばせる。

核米の列を日極	学位授与の方針との関連											
授業の到達目標 	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
色漆を作れる様になり、色漆が出来上がる工程を理解すること												
が出来る。	0		0									
変わり塗りの仕組みを理解し、自己表現出来る様になる。	0		0									
研ぎ出しや磨きの仕上げを出来る様になる。	0		0									
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)											
1.中塗 表 変わり塗りの説明と色漆の調合	黒塗	りと	研ぎ	を終	わら	せて	おく					
2.中塗 裏 漆の特性と絞漆の作り方(しぼうるし)	色の	組み	合わ	せを	考慮	して	おく					
3.水研ぎ・固め 変わり塗りの応用と下付方法	変わ	り塗	りの	仕方	を考	えてこ	おく					
4.裏・上塗り 絞漆で下付 1回目	カラーチャートや作品集を用意する											
5.種蒔き 絞漆で下付 2回目	実験希望者は手板を用意											
6.種を落とす・掃除 色漆 1色目	手板での実験1回目											
7.色漆 1色目 色漆 2色目	手板での実験2回目											
8.色漆 2色目 色漆 3色目	手板での実験3回目											
9.研ぎ出し ぬり込み	下付	を終	了さ	せて	おく							
10.述べ摺り 1回目 漆1:灯油1	塗り	込み	を終	了さ	せて	おく						
11.述べ摺り 2回目 漆3:灯油1	研き	出し	を終	了さ	せて	おく						
12.生摺り	述べ	摺り	を追	加す	る							
13.磨き・生摺り	摺り	を追	加す	る								
14.磨き・サイン・仕上げ	磨きを終了させておく											
15.まとめ・合評会	仕用	上の	注意	をま	とめ	る						

履修上の注意 作業着を着用の上、授業に臨む。漆かぶれに注意しながらすすめる(工芸基礎 $I \cdot II$ (漆 芸) を履修していなくても受講可)

成績評価方法・基準

授業態度(50%) ➡授業に対する意欲、積極性、理解度など。

作品進度(50%) ➡完成度、デザイン、センス、個性の表現

講評会でフィードバックする。

教科書 授業中に適宜資料を配布する。

参考書 〔やさしく身に付くうるしのはなし 2〕 〔日本漆工協会〕 〔2,160 円〕

備 考 質問等については、授業終了時、あるいはオフィスアワーに受付けます。

授業科目	名	染織 I	受業時間	十自習時	時間)	2(60)				
担当者		佐々木 輝子	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美表2年

絞り染め、蝋けつ染に関する技術の取得、伝統的な染色技法を用いた作品制作を行う。絞り染めでは、 技法の調査・研究を行い、手ぬぐいを制作する。デザインの考案、技法の検討、染色等の工程を通し、染 色技法の基礎的知識を教授する。ろうけつ染では、ソーピングワックスを使用した風呂敷制作を行い、防 染素材、道具の使用方法について指導する。絞り、蝋の素材による表現効果の違いを理解し、素材研究に ついて深く考察できる力を養う。作品制作を通し、染織に関する専門知識を身に付けることができる。

1 () () () () () () () () () () () () ()	2	3	4	5	6	7	8	9				
		「事										
染色		」 (事										
染色	自習	」 (事										
染色	自習	(事										
染色		自習(事前・事後学修の内容)										
	染色に関する資料収集・制作ノート作成											
下図	に関す	トる研	究・制	制作ノ	−	のまと	め					
下図に関する研究・制作ノートのまとめ												
4. " : 絞り 絞り技法の調												
絞り	技法の)調査	・制化	乍ノー	トの	まとめ)					
制作	に関す	┝る資	料収组	集・制	作ノ	ートの	まと	め				
制作	に関す	┝る資	料収组	集・制	作ノ	ートの	まと	め				
蝋け	つ染に	上関す	る資料	料収集	・制作	乍ノー	・ト作り	成				
図案	作成·	制作	ノー	トのま	とめ							
制作	準備・	制作	シノー	トのま	とめ							
制作に関する材料準備・制作ノートのまとめ												
制作に関する材料準備・制作ノートのまとめ												
染料計算等の準備・制作ノートのまとめ												
講評会用備品準備・制作ノートのまとめ												
講評	会準備	前・制	作ノ	ートを	完成	させる	1					
	下下絞絞制制蝋図制制制染講図図りり作作け案作作作料評	下図に関する かい で が が が が が が が が が が が が が が が が が が	下図に関する研 下図に関する研 絞り技法の調査 絞り技法の調査 制作に関する資 蝋けつ染に関す 図案作成・制作 制作に関する材 制作に関する材 制作に関する材 染料計算等の準 講評会用備品準	下図に関する研究・行下図に関する研究・行下図に関する研究・行 絞り技法の調査・制作 制作に関する資料収割 制作に関する資料収割 関案作成・制作ノー 制作準備・制作ノー 制作に関する材料準付 制作に関する材料準付 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	下図に関する研究・制作ノ 下図に関する研究・制作ノー 絞り技法の調査・制作ノー 絞り技法の調査・制作ノー 続り技法の調査・制作ノー 制作に関する資料収集・制 増けつ染に関する資料収集 図案作成・制作ノートのま 制作に関する材料準備・制 制作に関する材料準備・制 制作に関する材料準備・制 製料計算等の準備・制作ノ 講評会用備品準備・制作ノ	下図に関する研究・制作ノートの	下図に関する研究・制作ノートのまと 下図に関する研究・制作ノートのまとめ 絞り技法の調査・制作ノートのまとめ 絞り技法の調査・制作ノートのまとめ 制作に関する資料収集・制作ノートの 制作に関する資料収集・制作ノートの 増けつ染に関する資料収集・制作ノートの 製業作成・制作ノートのまとめ 制作に関する材料準備・制作ノートの 制作に関する材料準備・制作ノートの 制作に関する材料準備・制作ノートの 染料計算等の準備・制作ノートのまと 講評会用備品準備・制作ノートのまと 講評会用備品準備・制作ノートのまと	下図に関する研究・制作ノートのまとめ 下図に関する研究・制作ノートのまとめ 絞り技法の調査・制作ノートのまとめ 絞り技法の調査・制作ノートのまとめ 制作に関する資料収集・制作ノートのまとら 制作に関する資料収集・制作ノートのまとら 増けつ染に関する資料収集・制作ノート作 図案作成・制作ノートのまとめ 制作準備・制作ノートのまとめ 制作に関する材料準備・制作ノートのまとら 制作に関する材料準備・制作ノートのまとら 執料計算等の準備・制作ノートのまとめ				

履修上の注意

染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。

実習費として実費(3,000円程度)を徴収します。

工芸基礎Ⅱ(染織)を履修していることが望ましい。

成績評価方法・基準

提出課題 (80%)、授業態度 (20%) で評価します。

作品課題については、授業中にフィードバックします。

教科書 授業前にプリントを配布する。

参考書 〔図解 染織技術事典〕〔田中清香 土肥悦子〕〔理工学社〕〔4,200 円〕

備考

受講人数等の事情により、シラバスの修正(授業計画等)が生じる場合あります。

質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受け付けます。

授業科目	名		単	位(総括	間)	2(60)				
担当者		佐々木 輝子	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表2年

高機実習前の実習として、卓上機を使用した織実習を実施する。織機の構造、制作工程を理解し、組織図等の織計画を設計する。織設計を基に制作を行い、織物制作に関する一連の工程を理解できるよう教授する。ノッティング・綴織の技法を用い、タピストリー又は敷物を制作させる。必要に応じて、糸の精錬・天然染料を用いた染色実習等も実施する。織物の使用目的に応じた素材選択の研究を行い、染織に関する専門的な知識と高機制作に備えた基礎的スキルを修得できるよう指導する。

 授業の到達目標	学位授与の方針との関連											
文未の判定日保	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
織り実習を学習する上で必要な基礎知識を身につける。	0	0										
織の工程・卓上機の構造及び使用手順を身につける。	0	0										
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)											
1. ガイダンス 授業概要 織機の構造・用具について	染織に関する資料収集・制作ノートのまとめ											
2. ノッティング 下図作成 資料調査	下図	に関す	つる研	究・制	訓作ノ	- ⊦ 0	のまと	め				
3. 下図完成・下図原寸拡大	下図	に関す	つる研	究・制	訓作ノ	- ⊦ 0	のまと	め				
4. 糸巻き・整経	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ											
5. 筬通し・綜絖通し	作品	に関す	でる資	料収缜	集・制	作ノー	ートの	まとり	り			
6. 織り① (下部)	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ											
7. 織り②(上部)	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ											
8. 端糸の始末	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ											
9. 綴織 下図作成 資料調査	下図	に関す	る研	究・制	割作ノ	-	のまと	め				
10. 下図完成・下図原寸拡大	下図	に関す	つる研	究・制	訓作ノ	- ⊦ 0	のまと	め				
11. 糸巻き・整経	作品に関する資料収集・制作ノートのまと											
12. 筬通し・綜絖通し	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ											
13. 織り① (下部)	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ											
14. 織り② (上部)	講評	会用備	情品準	備・制	削作ノ	<u>- </u>	のまと	め				
15. 端糸の始末 講評会	講評	会準備	前・制	作ノ -	ートを	完成	させる					

履修上の注意

染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。

教材費として実費(2,000円程度)を徴収します。教材費の他、作品に使用する糸は各自購入すること。 織に関する基礎知識が必要なため、工芸基礎Ⅱ(染織)を履修していること。

成績評価方法·基準

提出課題 (80%)、授業態度 (20%) で評価します。

作品課題については、授業中にフィードバックします。

教科書 授業前にプリントを配布する。

参考書 〔図解 染織技術事典〕〔田中清香 土肥悦子〕〔理工学社〕〔4,200円〕

備考

受講人数等の事情により、シラバスの修正(授業計画等)が生じる場合あります。

質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受け付けます。

授業科目名 グラスアート I						単位(総括	2(60)			
担当者		森合 暢子	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美表2年

講師が理化学ガラス製作で習得した、ガラス工芸の技法の1つであるバーナーワークを酸素バーナーの構造、エアバーナーとの違い、道具の扱い方、安全面への考慮、後かたづけを含めて基本的な技法を教える。ガラス素材の性質や知識も学び、後半は自分で酸素バーナーの扱い方を覚え安全で自由にガラス作品を制作出来るようになるのが目標。使用するガラスは耐熱ガラスで、割れにくいので加工しやすく、色も様々あり、混色も可能で小さい物から組み合わせて大きな作品まで作ることが出来る。バーナーワークで作るガラス作品の可能性を感じる授業を行う。

極楽の到浄日極	学位授与の方針との関連											
授業の到達目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
① 安全なバーナーの取り扱いが出来るようになる。	0											
② 自分でイメージした形をガラスで形作れるようになる							0					
③ 様々な技法を学びガラスの可能性を知る事が出来る。			0		0							
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)											
1. ガラス工芸の知識と授業の内容について(座学)(ガイダンス)	指定する参考書かガラス関連の本に目を通し ておく。											
2. 安全な作業の手順 道具の説明 ガラスを熔かしてみよう。	配布	したこ	プリン	/トを詞	読む。							
3. ガラスを熔かすに慣れる 基礎的な形の制作	事前	方に参	考書	籍や	プリ	ント	を読む	ځ.				
4. 基礎的な形を作れるようになる ・丸い形や葉っぱの実演	ű											
5. 自由制作 ・くまの実演												
6. 自由制作 ・ブタ、猫の実演	«											
7. 自由制作 ・魚の実演	"											
8. 自由制作 ・鳥などの実演	ш											
9. 自由制作 ・イルカの実演					"							
10リクエストの実演	事	手前に	作り	たい	物を	絵に	描く。					
11リクエストの実演					"							
12. 自分の作りたい物をイメージを自由制作する。	и											
13. 自由制作 ・花の実演					"							
14. 講評会					"							
15. 学外研修 松島藤田喬平ガラス美術館での見学					"							
履修上の注意												

安全のため、服装や髪型(結ぶ)など講師の指示に従うこと。

成績評価方法・基準

授業中の態度 (50%)

制作への姿勢 (50%)

講評会での作品はその日のうちに返却します。講評会でフィードバックを行います。

教科書 授業前にプリント配布

参考書〔家庭ガラス工房バーナーワーク〕〔松村潔〕〔ぽるぷ出版〕〔2,800円〕

備考

・材料費を徴収。・質問等は授業中に受け付けます。

授業科目	名	グラスア-	グラスアートⅡ 単位(総授業時間+自習時間)							2(60)
担当者		山口 綾子	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表2年

ガラス工芸の中でも "バーナーワーク" という分野から "トンボ玉" を中心に制作を指導する。 主に、軟質ガラス (佐竹ガラス) とエアバーナーを使用する。この授業では、グラスアート I・IVで扱う ガラスと器具が異なる。素材や器具の違い・種類によって扱いが変わることを理解し、正しく安全に扱え るようにする。基本的なトンボ玉の技法を紹介しながら、基礎造形と技法を身につけられるようにしたい。 ガラス造形に携わる者として、作品の活用方法も、合わせて指導する。

極業の到達日種	学位授与の方針との関連										
授業の到達目標 	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
・ガラスと炎の特性を知ることができる。	0		0								
・素材の扱い方の習得と、トンボ玉の基本技法が身につけられる。					0		0				
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)										
1. オリエンテーション 授業内容の説明											
2. 技法1 点打ち模様	Hall 1/e	-) - N		/ /x vini /	D II⊐ Æ	ヒィユ	-ファ l				
3. 技法2 巻付模様① (線の縦巻き)		に必						-	2 12		
4. 技法2 巻付模様② (マーブル文様)		制作とめ							よと		
5. 技法3 ひっかき① (ジグザグ模様)	* とま	. C (X)	る。	11 1	日 <i>(</i>)	1文未	て1年	Ц,			
6. 技法3 ひっかき② (リーフ)											
7. 技法4 スキ掛け (被せガラス)											
8. 技法5 レース (レース棒を引く)	ガラ	スに~	ついて	てまめ	知識	を出	題。目	自身で	で調		
9. 技法6 パーツ (小菊文様)	べる。11回目の授業で提出										
10. レース玉、パーツ玉											
11. 自由制作 基本技法1~6を使用したトンボ玉制作 ① デザイン・テーマを決める 12. 自由制作 基本技法1~6を使用したトンボ玉制作 ② 試作・練習 (テストピース作成) 13. 自由制作 基本技法1~6を使用したトンボ玉制作 ③ 練習 14. 自由制作 基本技法1~6を使用したトンボ玉制作	制作 - 時行	内容	をま	とめ	、技	法のる	考察力	よどを	を随		
① 仕上げ 15. 自由制作 基本技法1~6を使用したトンボ玉制作 ⑤ 講評 履修上の注意	-										

履修上の注意

初心者の受講も可能だが、工芸基礎 I を履修することが望ましい。

成績評価方法・基準

課題達成(30%) 作品の完成度(30%) 制作への取組(40%)(出席・作業に対する姿勢・進捗状況) 課題については講評会の時にフィードバックします。

教科書 事前にプリントなどを配布する。

参考書 [トンボ玉] [小暮紀一] [ほるぷ出版] [2,808円]

備考

材料費の徴収、ガラス棒・消耗品は自己負担があります。質問などは、授業後にオフィスアワーを設けます。 都合により、授業計画等を変更することがあります。

授業科目	名	視覚デザク	インI		員	単位 (総括	受業時間	引+自習	時間)	2(60)
担当者		三上 秀夫	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美表2年

この授業は、デザインにおける表現力とイメージの伝達力を身につけることを目的とする。「描写力」「構成力」「色彩感覚」を養うことで、制作の意図が他者に伝わる表現ができるよう指導する。マスコットキャラクターのデザインでは、チームによる PBL 授業とし、グループ討論を行い、描写ソフト、スライドソフト、視聴覚器機を使ったプレゼンテーションに取り組ませる。作品評価は平常の授業態度に加えプレゼンテーション時での作者の発言内容と他学生の意見を重視する。

 授業の到達目標	学位授与の方針との関連										
汉未ツ判建口伝	1 2 3 4 5 6 7 8							8	9		
基本的なデザインスキルと描写力を身につける。		0									
調べたことを図やイラストにまとめる力を身につける。			0								
地域との関連からデザインを考える方法を身につける。				0							
授業計画の内容		自習	引(事	¥前•	事後	後学修	の内	容)			
1. ガイダンス (授業の進め方、課題の発表、評価方法について)	次回	回の調	題に	こつし	って情	青報を	集め	る。			
2. キャラクターデザイン 調べた情報の発表 テーマ設定	テー	ーマに	沿っ	って情	青報を	集め	調べ	る			
3. キャラクターデザイン 情報収集	各自	の役	と割に	- 沿っ	って調	間べる	0 0				
4. キャラクターデザイン 色彩計画 プロモーション計画	完成させ提出する。										
5. キャラクターデザイン 発表 次の課題の説明	水引	長りに	心要	草な月	具を	/準備	する	0			
6. イラスト 「自分を表現する 1」 アイディアスケッチ コピー 下描き 水張りパネルの説明と制作	制作を進める。										
7. イラスト 「自分を表現する 1」 彩色	透明水彩、不透明水彩について調べる。										
8. イラスト 「自分を表現する 1」 講評 次の課題の説明	次の課題の準備、取材を進める。										
9. イラスト 「自分を表現する 2」 アイディアスケッチ	В3	ケン	卜紙	水張	りを	事前	にす	る。			
10. イラスト 「自分を表現する 2」 彩色	制化	ドを進	きめる) _o							
11. イラスト 「自分を表現する 2」 講評 次の課題の説明	制化	ドを進	きめ、	完成	えさせ	ける。					
12. イラスト 「新聞広告1」 アイディアスケッチ 制作	B3ケント紙水張りを事前にする。										
13. イラスト 「新聞広告1」 講評 次課題の説明 準備 取材	完成	はさせ	提出	ける)。						
14. イラスト 「新聞広告2」 アイディアスケッチ 制作	В3	ケン	卜紙	水張	りを	事前	にす	る。			
15. イラスト 「新聞広告2」 講評 次課題の説明 準備 取材	完成	はさせ	提出	はする) 。						
見休しゃ次本											

履修上の注意

B3パネル、ケント紙水張りを事前にしておくこと。絵具は不透明絵具を使用する。他、材料について授業で指示する。

成績評価方法・基準

提出課題 (60%)、講評での発表の内容 (40%) で評価する。

教科書 無し 授業時にプリントを配布する

参考書 無し

備 考 授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー(曜日日時は掲示で確認)に受け付けます。

授業科目	名	視覚デザク	インⅡ			単位(約	8授美	業時間	十自習問	時間)	2(60)
担当者		三上 秀夫	必・選	選	形態	美 実技	ž <u>+</u>	学期	後期	対象	美表 2 年

この授業は、グラフィックデザインにおける表現力とイメージの伝達力を身につけることを目的とする。 イラストでよりよい説明・伝達が行えるための課題を設定し、各自の特徴や個性を盛り込んだ表現を目指 す。表現は手描き、グラフィックソフト等を用い、プレゼンテーションは、紙芝居形式から視聴覚器機を 使ったものまで幅を持たせた指導を行う。作品評価は平常の授業態度に加えプレゼンテーション時での作 者の発言内容と他学生の意見を重視する。

核米の対法口種		4	学位技	受与の	の方針	計との	り関連	Ē	
授業の到達目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9
基本的なデザインスキルを身につける。		0							
情報を図やイラストにまとめる力を身につける。			0						
思考力、創造力、表現力を身につける。					0				
授業計画の内容		自翟	(事	前・	事後	学修	の内	容)	
1. ガイダンス (授業の進め方、課題の発表、評価方法について)	次回	回の課	題に	つい	て情	報を	集め	る。	
2. 絵本制作 テーマ設定	テー	ーマに	沿っ	て情	報を	集め	調べ	る	
3. 絵本制作 情報収集	各自	のテ	ーマ	に沿	って	調べ	る。		
4. 絵本制作 計画、スケジュール確認	完成	えさせ	提出	する	0				
5. 絵本制作 素材、材料の確認 アイディアスケッチ 下描き	必要	見な用	具を	準備	する	0			
6. 絵本制作 ストーリー確認	制作	Fを進	める	0					
7. 絵本制作 中間発表(進捗状況確認)	途中	2経過	をま	とめ	る。				
8. 絵本制作 中間発表での意見や感想を制作に生かす。	制作	を進	める。)					
9. 絵本制作 完成	制作	を完	成さ	せる。					
10. 絵本制作 発表 次課題の説明 準備物の確認	発表	きでの	反応	を整	理し	、ま	とめ	る。	
11. ポートフォリオ制作 課題説明 作例紹介	制作	Fを進	め、	完成	させ	る。			
12. ポートフォリオ制作 資料確認	材料	1等必	要な	もの	を事	前に	準備	する。	
13. ポートフォリオ制作 資料の加工 整理	予定	ごを見	直し	制作	を進	める。	>		
14. ポートフォリオ制作 ファイリング 製本	制作	Fを進	め完	成さ	せる	0			
15. ポートフォリオ制作 提出 講評	完成	えさせ	提出	する	0				
歴修しの注音									

履修上の注意

用具、材料については授業でその都度指示する。

成績評価方法・基準

提出課題 (60%)、講評での発表の内容 (40%) で評価する。

教科書 無し 授業時にプリントを配布する

参考書 無し

備考

授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー (曜日日時は掲示で確認) に受け付けます。

授業科目	名	情報デザイ	ンI		単	位(総括	時間)	2(60)		
担当者		鶴巻 史子	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美表2年

情報デザインとは、モノ・コト・ヒトの関係性に"かたち"を与える方法論であり、複雑な情報や仕組みを整理し、わかりやすく伝えるための手法である。情報デザインIでは、グラフィックソフト (Illustrator、Photoshop) を用いた「情報の可視化 (Information Visualization)」演習に取り組み、情報をグラフィカルに表現し、他者にわかりやすく情報を伝えるための知識・技法・スキルを修得する。情報デザインの基礎的な考え方を理解し、表現力を身につけられるよう指導する。

極業の到達日種		<u> </u>	学位技	受与0	の方金	†と <i>の</i>)関連	Ĺ			
授業の到達目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
情報デザインの基礎的な考え方を理解する		0									
グラフィックソフトを用いて、情報の可視化ができる			0								
情報をわかりやすく伝える表現ができる						0					
授業計画の内容		自習	(事	前·	事後	学修	の内	容)			
1. ガイダンス	ソフトについての調査・制作準備										
2. 情報デザイン概論	制作準備・制作プロセスまとめ										
3. 課題1 情報の可視化基礎演習	制作技法の調査・課題のまとめ										
4.課題2 情報の可視化① 情報収集	情報の収集・制作プロセスまとめ										
5. 情報収集・整理、テーマ設定	情報	め整	理・	制作	プロー	ヒスま	きとめ)			
6. アイデアスケッチ、ヴィジュアル化	制作	準備	• 制	作プ	ロセン	スまと	: め				
7. デザイン検討	デサ	゚゙イン	の調	査・	制作に	プロセ	アスま	ミとめ)		
8. 制作	制作技法の調査・課題のまとめ										
9. プレゼン、講評、リフレクション	プレゼン準備・課題のまとめ										
10. 課題 3 情報の可視化②	制作準備・制作プロセスまとめ										
11. 情報収集・整理、テーマ設定	情報	め整	理・	制作	プロー	ヒスま	きとめ)			
12. アイデアスケッチ、ヴィジュアル化	制作準備・制作プロセスまとめ										
13. デザイン検討	デサ	゚゙イン	の調	査・	制作に	プロセ	アスま	ミとめ)		
14. 制作	制作	技法	の調	査・	課題の	のまと	: め				
15. プレゼン、講評、リフレクション	プレ	ゼン	準備	• 課	題のる	まとぬ	5				
屋体しの決立											

履修上の注意

メディア芸術基礎Ⅱを履修していることが望ましい。授業開始時に重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。グループワークでは相互に協力・協働して積極的に課題に取組むよう心がける。制作データは USB メモリ等に保存し持参する。教材・材料費(500円)を徴収する。

成績評価方法・基準

課題(制作物、プレゼンテ 3ーション) 60%、出席を含む平常点(授業態度、取り組みの姿勢、リフレクションシート等) 40%、課題作品については、授業中にフィードバックする。

教科書 適宜指示する

参考書 プリントを配布する

備 考 機器台数に限りがあるため定員を定める場合がある。質問等については、授業終了時あるいは オフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受け付ける。

授業科目	名	情報デザク						十自習	時間)	2(60)
担当者		鶴巻 史子	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表 2 年

情報デザインとは、モノ・コト・ヒトの関係性に"かたち"を与える方法論であり、複雑な情報や仕組みを整理し、わかりやすく伝えるための手法である。情報デザインⅡでは、グラフィックソフトとアニメーションソフト(Animate)を用いた「プロジェクションマッピング」演習に取り組み、特殊な視覚効果を生み出す動画表現の知識・技法・スキルを修得する。動画表現の基礎的な考え方を理解し、表現の幅を広げられるよう指導する。

1	2	3	4	5		学位授与の方針との関連 授業の到達目標						
	_	\cap			6	7	8	9				
		\cup										
			0									
					0							
自習(事前・事後学修の内容)												
ソフトについての調査・制作準備												
制作準備・制作プロセスまとめ												
制作技法の調査・課題のまとめ												
情報	の収	集・台	制作プロセスまとめ									
情報の整理・制作プロセスまとめ												
制作	準備	• 制	作プロ	コセフ	くまと	め						
デザ	イン	の調	査・制	制作に	プロセ	スま	とめ					
制作	技法	の調	査・制	制作に	プロセ	スま	とめ					
プレ	ゼン	準備	• 課是	題のま	ミとめ	,						
情報	の収	集・治	制作に	プロセ	アスま	とめ						
情報	の整	理・治	制作に	プロセ	アスま	とめ						
制作準備・制作プロセスまとめ												
デザ	イン	の調	査・制	制作に	プロセ	スま	とめ					
制作技法の調査・制作プロセスまとと							とめ					
プレ	ゼン	準備	• 課是	題のま	ミとめ	1						
	制情情制デ制プ情情制デ制	ソ制作報報で制プトを指すのの準イオ技でのの準イオ技でのの準イオ技でのの準イオ技をである。	ソフトについ 制作準備・制 制作技法の調 情報の整理・ 制作準備・制 デザインの調 制作技法の調 プレゼン準備 情報の整理・ 情報の整理・ 情報の整理・ 制作準備・制 デザインの調 制作準備・制 デザインの調 制作進備・制 デザインの調 制作を表の調	ソフトについての記 制作準備・制作プロ 制作技法の調査・記 情報の整理・制作ご 制作準備・制作プロ デザインの調査・記 情報の収集・制作ご 情報の収集・制作ご 情報の整理・制作ご 情報の整理・制作ご 情報の整理・制作ご 情報の整理・制作ご 同様でデザインの調査・記 がずインの調査・記 がずインの調査・記 がずインの調査・記	ソフトについての調査・ 制作準備・制作プロセラ 制作技法の調査・課題の 情報の収集・制作プロセラ 情報の整理・制作プロセラ デザインの調査・制作プロセラ でザインの調査・制作プロセラ 情報の整理・制作プロセラ 情報の整理・制作プロセラ 情報の整理・制作プロセラ 情報の整理・制作プロセラ 制作準備・制作プロセラ デザインの調査・制作プロセラ デザインの調査・制作プロセラ デザインの調査・制作プロセラ	自習(事前・事後学修 ソフトについての調査・制作 制作準備・制作プロセスまと 制作技法の調査・課題のまと 情報の収集・制作プロセスま 情報の整理・制作プロセスま 制作準備・制作プロセスまと デザインの調査・制作プロセ プレゼン準備・課題のまとめ 情報の整理・制作プロセスま 情報の整理・制作プロセスま 情報の整理・制作プロセスま 情報の整理・制作プロセスま 制作準備・制作プロセスま 制作準備・制作プロセスまと デザインの調査・制作プロセスまと デザインの調査・制作プロセ	自習(事前・事後学修の内: ソフトについての調査・制作準備 制作準備・制作プロセスまとめ 制作技法の調査・課題のまとめ 情報の収集・制作プロセスまとめ 情報の整理・制作プロセスまとめ デザインの調査・制作プロセスま 制作技法の調査・制作プロセスま 制作技法の調査・制作プロセスま プレゼン準備・課題のまとめ 情報の収集・制作プロセスまとめ 情報の整理・制作プロセスまとめ 制作準備・制作プロセスまとめ	自習(事前・事後学修の内容) ソフトについての調査・制作準備 制作準備・制作プロセスまとめ 制作技法の調査・課題のまとめ 情報の収集・制作プロセスまとめ 情報の整理・制作プロセスまとめ デザインの調査・制作プロセスまとめ 制作技法の調査・制作プロセスまとめ プレゼン準備・課題のまとめ 情報の整理・制作プロセスまとめ ずずるの収集・制作プロセスまとめ ずずの収集・制作プロセスまとめ 情報の整理・制作プロセスまとめ 情報の整理・制作プロセスまとめ 情報の整理・制作プロセスまとめ 制作準備・制作プロセスまとめ				

履修上の注意

情報デザイン I を履修していることが望ましい。授業開始時に重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。グループワークでは相互に協力・協働して積極的に課題に取組むよう心がける。制作データは USB メモリ等に保存し持参する。教材・材料費(500円)を徴収する。

成績評価方法・基準

課題(制作物、プレゼンテーション)60%、出席を含む平常点(授業態度、取り組みの姿勢、リフレクションジャーナル等)40%、課題作品については、授業中にフィードバックする。

教科書 適宜指示する

参考書 プリントを配布する

備 考 機器台数に限りがあるため定員を定める場合がある。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受け付ける。

授業科目	名 プロダクトデ	ザイン I		单	位(総批	受業時間	十自習	時間)	2(60)
担当者	落合 里麻	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美表2年

プロダクトデザインの基礎となる知識・技法・スキルを学び、基礎的な表現力と発想力を身につけさせる。様々な分野における工業製品の事例(文房具、生活雑貨、家電、家具、インテリア等)を参考にしながら、デザインへの理解を促すとともに、その概念を把握できるよう指導する。〈課題 1~3〉ではスケッチと三面図の作図を行うことで、物の構造を把握し、アイディアを外在化させるために必要な技術を習得させる。〈課題 4〉では素材の種類と加工方法について学び、イメージを形状化できるよう指導する。

極楽の到券日極		į	学位	受与の	の方針	サとの	関連	<u>[</u>				
授業の到達目標 	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
物の形状を短時間で的確に描くことができる。	0											
工業製品のデザインと構造を理解し、相手に伝えることができる。				0								
素材の種類と加工方法について理解できる。			0									
素材の特性を造形表現として活用できる。							0					
業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)						学修の内容)					
1.ガイダンス、プロダクトデザインの事例	プロ	ダク	トデサ	ドイン	の事	例につ	いいて	調べ	る			
2.〈課題 1〉内容説明、モチーフの構成、ラフスケッチ	構成を検討し、スケッチを進める							5				
3. "スケッチの実践、講評	構成を検討し、スケッチを進める											
4.〈課題 2〉内容説明、工業製品のスケッチの練習	描きたい工業製品を選び、準備する											
5. "工業製品のスケッチの実践、講評	スケ	゚゚ッチ	を練	習す	る							
6.〈課題 3〉内容説明、比較する工業製品を検討する	比較	きする	工業	製品	を決	定し、	準值	備する	5			
7. "工業製品のデザインを比較する					IJ							
8. " デザインを比較し、図示する	デサ	・イン	の比	較を	進め	る						
9. " プレゼンボード制作	デサ	・イン	の比	較を	進め	る						
10. " プレゼンテーション	プレ	ゼン	゙ボー	ドを	完成	させる	5					
11.〈課題 4〉内容説明、アイディアスケッチ、コンセプト立案	デサ	・イン	′、コ	ンセ	プト	を確定	定する	5				
12. " 材料、構造の検討	材料を選び、購入する											
13. "制作(加工)	制作	を進	める									
14. " 制作(仕上げ、調整)、プレゼンボード制作	制作を進める											
15. " プレゼンテーション	プレ	ゼン	゙ボー	ドを	完成	させる	5					

履修上の注意

- ・材料や道具類、比較に使用する工業製品を各自で購入する必要がある。その点を考慮して履修すること。
- ・授業外に制作を進めておくこと。

成績評価方法・基準

課題 70%、授業態度(材料、道具の準備、整頓、清掃等を含む)30%で評価する。 授業中、講評会にてフィードバックを行う。

教科書 特に定めない。

参考書 [デザインを学び始めた人のためのデザイン製図] [青木英明 他] [(株) ボーンデジタル] [2,500円+税] [プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する 71の知識] [JIDA「プロダクトデザインの基礎」編集委員会] [ワークスコーポレーション] [2,400円+税]

備考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。

授業科目	名	プロダクトデザ	インⅡ		単	位 (総授	業時間·	十自習時	寺間)	2(60)
担当者	•	落合 里麻	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表2年

〈課題 1〉では、生活の中や身の周りにある工業製品についてリサーチし、その中から課題を見つけ、問題の解決策を考えさせる。はじめに工業製品の観察を行い、用途、機能、素材等を総合的に判断することを指導する。さらに使う人の視点で課題に向き合い、「外観のデザインの良さ」と「使いやすさ」の両方を満たすことの意味について考察させる。〈課題 2〉では、ものづくりに適した素材や構造、生産技術について学ぶ。合板による椅子のモデル制作を通して、ものが完成するまでの基本的な工程を教授し、人体の寸法、動き、重量とのバランス感覚を身につけさせる。

松本で対方日本		•	学位	受与の	の方針	計と の)関連	Ĭ	
授業の到達目標 	1	2	3	4	5	6	7	8	9
工業製品の用途、機能、素材等について課題を見つけることができる。				0					
工業製品や他者の作品を使う人の視点で考察できる。							0		
材料の加工方法や塗装方法を身につけることができる。			0						
人体の寸法、動き、重量を考慮したデザインができる。				0					
業計画の内容		自翟	(事	前・	事後	学修	の内	容)	
1.ガイダンス	学外	トでリ	サー	チを	進め	る			
2.〈課題 1〉内容説明、リサーチ	学外	トでリ	サー	チを	進め	る			
3. " リサーチ、解決策の検討	リサーチの内容をまとめる								
4. " 解決策の検討	解決策をより深く検討する								
5. " プレゼンボード制作	プレ	/ゼン	゚ボー	ドの	制作	を進	める		
6. " プレゼンテーション	他学	生のこ	プレゼ	シかり	ら学ん	だこ	とをま	ミとめ	る
7.〈課題 2〉内容説明、加工の練習	物と	: 人体	寸法	の関	係を	調べ	る		
8. " モデル制作(加工)	材彩	∤を購	入し	、モ	デル	制作	を進る	める	
9. " モデル制作(仕上げ)	モラ	゛ルを	完成	させ	る				
10. " アイディアスケッチ、コンセプト立案	デサ	ドイン	′、コ	ンセ	プト	を確定	定す	3	
11. " 構造と材料の検討	材彩	∤を購	入し	、制	作を	進め	る		
12. "制作(加工)	制作を進める								
13. "制作(仕上げ)	制作	三を進	める	ı					
14. 〃 細部の調整、プレゼンボードの制作	プレゼンボードを完成させる								
15. " プレゼンテーション	他学	生のこ	プレゼ	シかり	ら学ん	だこ	とをま	ミとめ	る
屋依しの注音									

履修上の注意

- ・材料や道具類を各自で購入する必要がある。その点を考慮して履修すること。
- ・授業外に制作を進めておくこと。

成績評価方法・基準

課題 70%、授業態度(材料、道具の準備、整頓、清掃等を含む)30%で評価する。 授業中、講評会にてフィードバックを行う。

教科書 特に定めない。

参考書 [デザインを学び始めた人のためのデザイン製図] [青木英明 他] [(株) ボーンデジタル] [2,500円+税] [プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する 71の知識] [JIDA「プロダクトデザインの基礎」編集委員会] [ワークスコーポレーション] [2,400円+税]

備 考 質問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。

授業科目	名 マンガ・イラ	マンカ・オフストー					単位 (総授業時間+自習時間)						
担当者	鹿野 明子	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美表2年				

マンガ・イラストレーションとそれを取り巻く様々なコンテンツと社会とのかかわりについて教授する。マンガの発生から現在に至る歴史の解説を代表的な作品を示し教授する。マンガ・イラストレーションの定義づけを様々な観点から、或いは事例を示し理解させる。フランスやアメリカ等の海外マンガの現状を伝え、日本のマンガと対比させる。マンガと著作権の関係を取り上げコンプライアンスの重要さを認識させる。また、雑誌等の広告を想定した小作品の制作を課し、情報伝達手段としてのマンガの技法と魅力を教授する。

な 本 シ 切 本 口 揺		学位授与の方針との関連												
授業の到達目標 		1	2	3	4	5	6	7	8	9				
マンガの定義と歴史を知ることができる。				0										
マンガを用いてわかりやすく情報を伝える技術を習得で	きる。					\circ								
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)													
1.ガイダンス マンガの定義/マンガを構成する要素	道具を	しを用意する												
2.マンガ史① マンガの作りかた 前			前マンガや、手塚治虫以前のマンガを読んでみる											
3.マンガ史② 4コママンガ I 現在			現在のマンガの、土台となった作品を読んでみる											
4.プロとアマチュア 4コママンガ II 作品			作品の元になる事象を書き出しておく											
5.マンガとタブー 4コママンガ III	オチにとらわれすぎずにネームを作成する													
6.著作権とマンガ 4 コママンガ IV	作品の	作品のおもしろさを生かす画面の構成に留意する る												
7.キャラクターについて 4コママンガ V	丁寧は	こ作業	を進	めて	おく									
8.マンガのジャンル① 4コママンガ VI	レポーしてお		・ンガ	・イ	ラス	トエッ	ッセィ	(の主	三題を	用意				
9.マンガのジャンル② レポートマンガ・イラストエッセイ I	広告の作にお							を多数	対読み	ょ、制				
10.マンガのジャンル③ レポートマンガ・イラストエッセイ II	画面の華やかさについて考慮しネームを進める													
11.マンガと文学 レポートマンガ・イラストエッセイ III	作画に必要な資料を収集しておく。24 年組の作品を読んでみる													
12.外国から見た日本のマンガ レポートマンガ・イラストエッセイ IV 13.宮城県出身のマンガ家① レポートマンガ・イラストエッセイ V 14.宮城県出身のマンガ家② レポートマンガ VI・イラストエッセイ	丁寧 <i>l</i> 興味 <i>0</i>	こ作業	を進	める	んで	みる								
		` ` .		. н. э.	,, ,	. 19								

履修上の注意

自身に合った画材を用意する。必須ではないが、デザイン・絵画・製図の知識と技術は課題の作成の大きな力となる。遅刻 3 回で欠席 1 とする。

講評会までに作品を仕上げる

成績評価方法 · 基準

課題作品 70% 授業態度 30% 課題提出の際、フィードバックを行なう。

15.講評会 まとめ (学生にフィードバックする)

教科書 なし

参考書 なし

備 考 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。オフィスアワーはガイダンスにて公表する。

授業科目	名	マンガ	ランガ・イラフト II				受業時間	十自習	時間)	2(60)
担当者		安孫子 三和	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表 2 年

漫画家歴 25 年の経験と実績をふまえて、マンガ制作の面白さと発想方法、画面の見せ方を教授する。ストーリー制作の基礎に当たるテーマ(世界観)やキャラクターのビジュアルによる印象の違い、性格設定、役割、セリフ、モノローグ、コマの割り方などを実践形式で指導する。また、つけペンとインク、スクリーントーンの練習課題をもうけ、画面構成に必要な背景や効果も身につけられるようにすると同時に、年代別の人物や動物クロッキーカラデフォルメ化の練習を起こして、より豊かな表現が出来るようにする。

代別の人物や動物クロッキーカラデフォルメ化の繍	て、よ	り豊	かな	表現	が出	来る。	ようし	こする	5 。				
 授業の到達目標			<u> </u>	学位技	受与0	の方金	† と	関連	Ĺ				
技業の判)連り係		1	2	3	4	5	6	7	8	9			
マンガの基礎的な技術習得と考え方を身につける		0		0				\circ					
学修した内容を深めて発展した表現を身につける				\bigcirc		\bigcirc		\circ					
授業計画の内容		自習	(事前	前・事	後学	修の	内容	:)					
1.授業説明 原稿基本枠制作 キャラクタートレーニング	原稿用紙 2	紙2枚·筆記具持参。											
2.好きなマンガ丸ごと 1 ページ模写 (1) 下絵トレス		既存マンガ 1p コピー持参。人物・背景・効果入り。											
3. " (2) ペン入れ	トレス台で <完成提出		ログィ	ペンフ	れ								
4.ペントーン効果トレーニング (1) 擬音・ふきだし・集中線	用紙配布・	アナロ	ログ制	制作									
5. " (2) トーンフラッシュ・背景	(2) トーンフラッシュ・背景 背景(山自然・教室・玄関先風景) をよく見て イメージしてくる							て作	画を				
6. " (3) 背景	<完成提出	>											

8. " (2) 動物 資料写真セレクト持参 9. 詩小説童話のマンガ化 2 ページ 超材を準備し読み込み、どこをどう表現するか決めて おく。授業時間には即制作に入ること必須。

(1) プロット・ネーム

中高老年

(デジタル制作も可) (2) 下絵 ネームチェックのち原稿用紙に下絵作画

資料写真セレクト持参

11. " (3) ペン入れ 主線、背景

" (4) ペン入れ 効果、ベタ、ホワイト、トーン

13. " (5) 仕上げ (5) 仕上げ (7) く完成提出 (7) アウトして提出

14. カラー作画(1) ハガキサイズ、画材自由(デジタル可)

15. " (2) / まとめ講評会 <全完成提出> コメント票配布。

履修上の注意

10.

12.

授業の始まりにその回の説明をするのできちんと定刻に来る。時間厳守。(遅刻は 45 分単位で 0.25 欠席とする。)制作に遅れの出た者は自宅制作に努める。

成績評価方法·基準

7. クロッキー(1)

出席、課題などから総合的に評価。課題作品:アイデア 40%(発想・視点・キャラクター・ストーリー構成)絵 40%(画力・丁寧さ・仕上げ) 受講態度 20%(準備物・集中度・進行速度)提出された課題は、期末後コメントとフィードバックを記して返却します。

教科書 必要に応じて、そのつど資料を配布する

参考書〔人を惹きつける技術〕〔小池一夫〕〔講談社〕〔838円〕 〔快描教室プラス〕〔菅野博之〕〔美術出版社〕〔1,512円〕

備 考 オフィスアワーは授業後にも受付けますが、各人ごとに席を回って制作指導に努めるので、極力 時間内に質問疑問は申し出てください。授業計画の順が変更なる場合もあります。

授業科目	名	アニメ・ク	ゲーム I		1	单位(総括	受業時間	+自習時	持間)	2(60)
担当者	鈴	沐 専・柴田 広大	必・選	選	形態	実技	学期	前期	対象	美表 2 年

アニメ・ゲーム I のアニメーションの授業では、メディア芸術基礎 I の演習で用いたグラフィックソフトに加え、映像制作ソフト(After Effects、Premiere 等)を使用し、短編アニメまたは映像作品を制作する。

ゲームの授業では実務経験を活かし、モバイルコンテンツ創成期から様々なゲーム開発・映像作品に携わった柴田氏が教授し、ゲーム制作の一端を実際に経験し理解を深める(Adobe XD、Unity 等を使用)。アニメ・ゲームのいずれも、テーマ・表現力・技術的な事柄について様々な気づきと展開を促し、次段階へ繋がるよう指導する。アニメ(鈴木/11 回+1 回ガイダンス)、ゲーム(柴田/3 回)のオムニバス授業である。

極業の到達日種			Ä	学位护	受与の	の方金	†との)関連	Ī	
授業の到達目標 		1	2	3	4	5	6	7	8	9
・基本的な知識・学習能力を身につける。		0								
・作品を自分自身の問題意識と結びつけることが出来る。		\bigcirc								
・画像・映像ソフト等を用いて表現力を向上させる。		\bigcirc								
授業計画の内容			自習	(事	前・	事後	学修	の内	容)	
1.ガイダンスとアニメ課題・1 (短編作品の構想) 鈴	鈴木	説明と準備。制作ノートの用意。								
2.アニメ課題・1制作(構想+スケッチ+コンテ等) 鈴	鈴木	作品	の方	向性	を決	め、	内容	を詰る	める。	
3.アニメ制作(暫定的に全体をタイムライン化) 鈴	鈴木	編集	ソフ	卜説	明•	制作	ノー	トを征	確認。	
4.ゲーム①(ソフトの説明、課題の提示、制作)	柴田	概要と課題についての説明と制作。								
5.アニメ制作(タイムライン上のものを部分的に動画化) 釒	鈴木	カッ	卜割	りや	時間	につ	いて	確認。		
6.アニメ小講評会(制作意図と改善箇所等を確認)	鈴木	作品	につ	いて	感想	や意	見を	交わっ	す。	
7.アニメ課題・2 (アニメ課題1から展開したもの) 鈴	鈴木	課題	[1カ	ら発	展し	た作	品を	考える	る 。	
8.ゲーム②(制作の継続、まとめに向かう)	柴田	前回	の授	業を	踏ま	えて	展開。)		
9.アニメ制作(演出、効果等について若干説明) 銀	鈴木	カッ	ト毎	の時	間を	それ	ぞれる	確認~	する。	
10.アニメ制作 (継続)	鈴木	全体	像を	想定	しな	がら	進めん	る。		
11.アニメ制作、場合により中間講評(進行具合を考慮) 鈴	鈴木	良い	点、	難し	い点	を確	認す	る。		
12.ゲーム③ (制作の継続、まとめ)	柴田	前回	1、前	々回	の授	業を	踏まだ	えて月	展開。	
13.アニメ制作(場合により音・音響の説明、導入) 鈴	鈴木	授業	後半	に編	集と	出力	につい	ハて記	说明。	
14.アニメ制作(主に編集。出力時の映像形式の説明) 鈴	鈴木	最終	的な	編集	を詰	める。) 			
15.アニメ講評(制作意図や工程など一人ずつ発表) 鈴	鈴木	作品	につ	いて	感想	• 意	見を	交わっ	す。	

履修上の注意

※前述の通り、ガイダンス1・アニメ11・ゲーム3の授業日数となる。アニメとゲームの授業日程および準備等について、変更のある場合は随時指示する。※講評会では自己の作品についてコメントを発表する。 ※制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。また、バックアップも各々取ること。

成績評価方法・基準

- ・課題 (80%) と授業態度 (20%)
- ・各課題については、授業中にフィードバックを行う。

教科書:特に指示しない。

参考書:随時参考となる書籍、映像作品やゲーム作品等を紹介する。

備 老

- ・場合により課題を若干変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日日時は掲示で確認)で受け付ける。

授業科目	名	アニメ・ゲ	ームⅡ		東	位(総批	受業時間	+自習時	時間)	2(60)
担当者		鈴木 専・柴田 広大	必・選	選	形態	実技	学期	後期	対象	美表2年

アニメ・ゲームIIでは、Iで学習した内容をさらに深化し実践する。最初に、様々なアニメやゲームコンテンツにおいて重要な「相手に伝える」技術に重点を置く。アイディアをテキストや図式に表し、グラフィックの作成方法・画面設計・キャラクター設定などを決め、ビジュアル的要素を中心に作品の世界観を構築し制作する。講評では作品を発表し、制作の意図・設定・プロセス等の説明をし、鑑賞者にどのように伝わったか?を客観的な視点で記録・分析を行う。アニメ(11回)は鈴木が教授し、ゲーム(3回)は実務経験を活かし、様々なコンテンツ制作で活躍中の柴田氏が教授する。オムニバス授業である。

核米の利辛日種	学位授与の方針との関連					Ī					
授業の到達目標 		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
・基本的な知識・学習能力を身につけること。		\bigcirc									
・作品を自分自身の問題意識と結びつけることが出来る		\circ									
・画像・映像ソフト等を用いて表現力を向上させる。		0									
授業計画の内容			自習	(事	前・	事後	学修	の内	容)		
1.ガイダンスとアニメ課題・1の構想を練る	鈴木	説明と準備。制作ノートの用意。									
2.アニメ課題・1制作(構想+スケッチ+コンテ等)	鈴木	制作の方向性を決定、制作開始。									
3.ゲーム① (課題の提示、制作)	柴田	概要	、課	題に	つい	てよ	く考え	える。			
4.アニメ制作(設定を決定、試験的要素も含め制作)	鈴木	制作ノートを確認しながら制作。									
5.アニメ制作(場合によりデジカメ等を使う)	鈴木	「静	止画	を動	かす	ے ر	とをす	確認。			
6.アニメ制作(全体の流れを探りながら)	鈴木	カッ	卜割	りや	時間	を確	認し	制作。			
7.アニメ講評会(場合により中間報告)	鈴木	作品	につ	いて	感想	や意	見を	交わっ	す。		
8.ゲーム②(制作、場合により次回授業への課題も提示)	柴田	前回	から	発展	、内	容を	詰めん	る。			
9.アニメ課題・2 (課題・1 を発展させる形)	鈴木	制作	シノー	トを	確認	、制	作続	行。			
10.アニメ制作(映像ソフトでの特殊効果等について説明)	鈴木	予音	音響	につ	いて	も考	える	こと。			
11.アニメ制作(協力できる箇所について提案)	鈴木	個々	の良	い点	、難	しい	点を	確認~	する。		
12.アニメ制作(設定等を確認しながら継続)	鈴木	制作	シノー	トを	確認	、制	作続	行。			
13.ゲーム③ (制作・まとめ。場合により講評会)	柴田	良い	、悪	い箇	所を	それ	ぞれ	認識	する。		
14.アニメ制作(主に編集作業)	鈴木	完成	へ向	けて	の制	作。					
15.講評会 作品の上映とプレゼンテーション	鈴木	作品	につ	いて	感想	や意	見を	交わっ	す。		

履修上の注意

※ガイダンス1、アニメ11、ゲーム3の授業日数となる。なお、アニメとゲームの授業日程の変更および準備等については、随時指示する。

※講評会では作品についてプレゼンテーションを行う。

※制作データは USB メモリ等に保存し持参すること。なお、バックアップは各々で取ること。

成績評価方法・基準

- ・課題 (80%) と授業態度 (20%)
- ・各課題については、授業中にフィードバックを行う。

教科書:特に指示しない。

参考書:随時参考となる書籍、映像作品やゲーム作品等を紹介する。

備考

- ・都合により、課題を若干変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日日時は掲示で確認)で受け付ける。

授業科目	名	色彩学			単	位(総括	業時間	十自習	時間)	2(30+60)
担当者	大堀 恵子		必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美表1年

美術における純粋美術(絵画、彫刻分野等)と応用美術(デザイン、工芸分野、メディア芸術分野等) に関する実学教育に必要となる、色彩の基礎的知識から基礎的発想力と、創造的に実践する能力を身につ ける。目的に合った配色を得るために、色材を使って色再現を行ない色の基本概念である色料の三原色の 基本原則を理解する。また、指定された場所に色票を貼付し演習することで、色への理解を深めるととも に作品鑑賞により外国と日本の色彩感覚の違いを理解できるように指導する。

核キャンスを日本		<u>ج</u>	学位哲	受与の)方金	トとの	関連				
授業の到達目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
色彩学を学習する上で必要な基礎知識を身につける。	0	0	\circ								
学習した知識を深めることができる能力を身につける。			0								
授業計画の内容		自習	(事	前・耳	事後当	学修の	內容	:)			
1. 「授業内容と進め方」「評価方法と試験」の説明	課題	ファイ	ルと	講義	ノー	トを用	意する	ること			
2. 色相環をつくる (色再現)	定規、パレット、筆、水彩絵具を用意すること										
3. 明度スケール、 彩度スケールをつくる (色再現)	定規、パレット、筆、水彩絵具を用意するこ										
4. 色が見える仕組みについて (光、物、視覚)	復習してくること。										
5. 色の混色について(加法、並置、減法)	復習	して〈	くるこ	こと。							
6. 色の属性について(有彩色と無彩色、色相、明度、彩度)	復習	してく	くるこ	こと。							
7. 色の属性について (トーン)	課題	を完成	えさせ	るこ	と。1	复習し	てく	るこ	と		
8. 色の対比について	課題	を完成	ささせ	るこ	と。1	复習し	てく	るこ	と		
9. 色の感じ方について	課題	を完成	ささせ	るこ	と。1	复習し	てく	るこ	と		
10. 配色について ・色相をもとにした配色	課題	を完成	えさせ	るこ	と。1	复習し	てく	るこ	と		
11. "・彩度をもとにした配色	課題	を完成	えさせ	るこ	と。1	复習し	てく	るこ	と		
12. "・トーンをもとにした配色	課題	を完成	ささせ	るこ	と。1	复習し	てく	るこ	と		
13. "・配色の応用-1	課題	を完成	えさせ	るこ	と。1	复習し	てく	るこ	と		
14. "・配色の応用-2	課題	を完成	ささせ	るこ	と。1	复習し	てく	るこ	と		
15. まとめ	課題の	の整理	1								
16. 期末試験											
日本1-55字	•										

履修上の注意

準備物 (着彩用具、ハーモニックカラーチャート、配色カード、はさみ、のり) と毎回出される課題を忘れないこと。

成績評価方法・基準

ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照してください。

演習課題については、授業中にフィードバックをします。

1.試験 (40%) 2.講義ノート・演習課題ファイル (40%) 3.受講態度 (20%)

教科書〔ハーモニックカラーチャート、配色カード〕〔日本色彩研究所〕〔2,500円〕

参考書 無し

備者

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日と時間は掲示)で受け付けます。

授業科目名	美術史 I			単位	(総授業	美時間 +	自習時	間)	2(30+60)
担当者	瀬戸 典彦	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美表1年

①ヴィレンドルフのビーナスから近代に至る西洋美術史の過程に触れ、個々の作品の社会的背景及び作品間の関連性について教授する。②それぞれの受講生が穴埋めと補修によって完成させる「つくる美術史のテキスト」と「美術史脳を刺激する曖昧な絵-クイズ集」、「美術史脳を刺激する曖昧な絵-解答・解説集」を用い理解の深化を図る。③西洋の美術史おける「オリジナリティー」の意味と価値について考察を促す。④作品と作品、美術家と美術家の関係性の中で歴史の脈絡が形成され、その流れの中で価値が構築されることを示唆する。

極業の到達日種		7	学位的	受与の)方金	トとの	関連	į	
授業の到達目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9
19 世紀までの西洋美術史の脈絡について、自分の言葉で説明できる。	0	0							
作品間、美術家間の関係を説明できる。	0	0							
授業計画の内容		自習	(事	前•	事後	学修の	の内タ	容)	•
1. 美術史における「個人」について	[~]	つくる	美術	史の	テキ	スト	に。	よる予	· 習
2. メソポタミア文明以前の美術	「ク	イズ	集」、	「解名	答 • 角	 解說集		~9 復	習
3. エジプト文明の美術	「ク	イズ	集」、	「解答	答・解	説集	」10°	~13 復	夏習
4. ギリシャ文明化~ヘレニズム時代の美術	「ク	'イズ	集」、	「解答	答・解	説集	」 14′	~23 復	建習
5. エトルリア美術~初期キリスト教美術	「ク	イズ	集」、	「解答	答・解	説集	」24 [′]	~28 復	建習
6. ビザンティン美術	「ク	イズ	集」、	「解答	答・解	説集	J 29	~31 復	建習
7. 初期中世美術	「ク	'イズ	集」、	「解答	答・解	説集	J 32′	~35 復	建習
8. 中間テスト	中間	ラテス	トの	復習					
9. ロマネスク・ゴシックの美術	「ク	イズ	集」、	「解答	答・解	説集	J 36	~40 復	建習
10. ルネッサンス	「ク	イズ	集」、	「解答	答・解	説集	」41 [′]	~47 復	建習
11. ルネッサンスとベネチア派	「ク	イズ	集」、	「解答	答・解	説集	J 48	~53 復	建習
12. マニエリスム~北方ルネッサンス	「ク	'イズ	集」、	「解答	答・解	説集	∫ 54′	~59 復	建習
13. バロック・ロココ	「ク	イズ	集」、	「解答	答・解	説集	∫ 60 [′]	~65 復	夏習
14. 新古典主義・ロマン主義・写実主義の美術	「ク	'イズ	集」、	「解答	答・解	説集	J 66	~69 復	建習
15. 産業革命と美術	「ク	'イズ	集」、	「解答	答・解	説集	J 70	~74 復	習
16. 試験	テキ	トスト	、参	:考書	を用	いて目	自己挖	采点	

履修上の注意

毎回、クイズを課す。(必ず提出してから退出すること)中間テスト、期末試験を行う。

成績評価方法·基準

中間テスト:20%(フィードバックを行う) 期末試験:70%、クイズ提出:10%(フィードバックを行う)

期末試験では「つくる美術史のテキスト」の参照を認める。但し、その場合は、満点を 80 点とする。(参照なしの解答については、満点を 120 点とする)

教科書 [つくる美術史のテキスト] [瀬戸典彦] [自費出版] [無料]

参考書 [美術史脳を刺激する曖昧な絵-クイズ集] [瀬戸典彦] [自費出版] [無料] [美術史脳を刺激する曖昧な絵-解答・解説] [瀬戸典彦] [自費出版] [無料]

備 考 オフィスアワー:2時間/1週(曜日/時間については、初回授業の際に連絡する)

授業科目	名	美術史Ⅱ			単位	(総授業	美時間 +	自習時	間)	2(30+60)
担当者		瀬戸 典彦	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美表1年

①縄文土器から浮世絵に至る日本美術史の過程に触れ、個々の作品の社会的背景及び作品間の関連性について教授する。②仏教美術の概要に触れ、日本美術への影響について理解を促す。③釈迦の思想と仏教美術の関係に触れ、仏教思想の体現としての仏教美術のあり方とその乖離について考察を促す。④それぞれの受講生が穴埋めと補修によって完成させるワークシートとクイズ、解答例を用い理解の深化を図る。⑤日本の美術史おける変化の背景について考察を促す。

核株の到途日蓮	学位授与の方針との関連 1 2 3 4 5 6 7 8 ○ ○ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □								
授業の到達目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9
日本美術史の流れについて説明できる。	0	0							
東洋美術史と日本美術史の関係について説明できる。	0	0							
授業計画の内容		自習	(事	前・	事後	学修	の内	容)	
1. オリエンテーション (縄文人が築いたもの一弥生人が築いたもの)	ワー	-クシ	〜 ト	によ	る予	習			
2. 縄文時代	クイ	ズ(解答	例)1	~12	復習			
3. 弥生時代・古墳時代の美術	クイ	ズ(解答	例)1	3~24	復習			
4. 仏教、仏像について	クイ	ズ (解答	例) 2	25~30	復習			
5. 飛鳥時代の美術	クイ	ズ (解答	例)3	31~45	復習			
6. 奈良(白凰)時代の美術	クイ	ズ(解答	例) 4	6~52	復習			
7. 奈良(天平)時代の美術1(塑像等)	クイ	ズ(解答	例)5	3~81	復習			
8. 中間テスト	中間	テス	ト復 ^x	習					
9. 奈良(天平)時代の美術2(乾漆像等)	クイ	ズ(解答	例) 8	32~10	3 復習	¥		
10. 密教美術 1(仏像)	クイ	ズ (解答	例)1	04~1	16 復	習		
11. 密教美術 2(曼荼羅)	クイ	ズ(解答	例)1	17~1	19 復	習		
12. 平安時代の美術(立体)	クイ	ズ(解答	例)1	20~1	32 復	習		
13. 平安時代の美術(平面)	クイズ(解答例)133~151 復習								
14. 鎌倉時代・南北朝時代・室町時代の美術	クイ	ズ(解答	例)1	52~1	57 復	習		
15. 桃山・江戸時代以降の美術	クイズ(解答例)157~162 復習								
16. 試験	ワー	-クシ	/ート	、配石	布資料	斗を用	いて	自己	採点

履修上の注意

毎回、クイズを行います。中間テスト、期末試験を行います。

成績評価方法·基準

中間テスト:20%(フィードバックを行う) 期末試験:70%、クイズ提出:10%(フィードバックを行う)

期末試験では「つくる美術史のテキスト」の参照を認める。但し、その場合は、満点を 80 点とする。(参照なしの解答については、満点を 120 点とする)

教科書〔つくる美術史のテキスト 日本・東洋編〕〔瀬戸典彦〕〔自費製作〕〔無料〕

参考書 [つくる美術史のテキスト-クイズ集 日本・東洋編] [瀬戸典彦] [自費製作] [無料]

[つくる美術史のテキスト-解答・解説集 日本・東洋編] [瀬戸典彦] [自費製作] [無料]

備 考 オフィスアワー:2時間/1週(曜日/時間については、初回授業の際に連絡する)

授業科目	名	デザイン	デザイン概論				位(総括	受業時間	十自習問	時間)	2(30+60)
担当者		三上 秀夫	必・選	選	形	態	講義	学期	後期	対象	美表2年

デザインの事例を画像や映像で紹介し簡単な課題を課す。それをとおしてデザインの基礎概念を受講者 全員で確認する授業である。それをきっかけとして客観的、理論的思考力を身に付け、身の回りから人間 生活、社会、自然と、様々な状況において自発的にデザインできるように指導する。また「よいデザイン とは」を問題意識として掲げ倫理観と総合的な思考力を養うことで社会の問題をデザインで柔軟に対応し 解決できるように指導を行う。

極米の到法日種	学位授与の方針との関連										
授業の到達目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
デザインの基本的な知識を身につける	0										
デザインの専門的な知識を身につける			0								
倫理観と総合的な思考力を身につける							0				
授業計画の内容		自習	事	前・	事後	学修	の内	容)			
1. ガイダンス (授業の進め方、課題の発表、評価方法について)	日常の中から「デザイン」に注目する。										
2. 「デザインとは何か」 デザインの用語、 ジャンルについて	デザインの専門用語を整理する。										
3.「デザインとは何か」 美術とデザインの違いについて	美術	ずの各	分野	、ジ	ヤン	ルを	確認	する。			
4.「デザインとは何か」 主にデザインで用いられる材料や加工	大量	量生產	ミに 遙	iした	素材	を調	べる	。気	に入		
の方法について	った	製品	を選	び、	次回	紹介	する。)			
5.「デザインとは何か」 著名なデザイナーと、そのデザインに	授業	きで紹	引介し	た製	今品!	デザ	イナ	ーに	つい		
ついて	てき	ららに	調べ	る。							
6. 「デザインとは何か」のまとめとモダンデザイン	まと	とめや	感想	を次	回発	表す	る。				
7. 「デザインとは何か」のまとめとユニバーサルデザイン	ユニ	こバー	-サル	デザ	イン	の例	を調べ	べる。			
8. 「デザインとは何か」のまとめとグッドデザイン	過去	きのク	ッド	゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙	イン	につ	いて	調べる	5.		
9. デザインの問題点を考える	身近	丘な間	題点	に注	意し	てみ	る。				
10. 広告について (新聞、 雑誌、 テレビ他)	広告	5媒体	を調	べる	0						
11. デザイン史概略 産業革命	プリ	リント	から	時代	の流	れを	整理	する。			
12. デザイン史概略 19世紀の建築、 工芸、 工業製品	プリ	リント	から	時代	の流	れを	整理	する。			
13. デザイン史概略 美術工芸運動	プリ	リント	から	時代	の流	れを	整理	する。			
14. 現代のデザインの仕事からモダンデザインを考える	身近	子な製	見品の	デザ	イン	を自	分で	考える	5.		
15. タイプフェイスからモダンデザインを考える まとめ	モタ	ブンラ	゙゙ザイ	ンに	つい	てレ	ポー	トを	作成		
10. アイファエイ ヘル・ウェクマナッインを与える まこめ	する	; ;									
屋体上の注音											

履修上の注意

課題(レポート、実技)の提出あり。

成績評価方法・基準

提出課題 (60%)、講評での発表の内容 (40%) で評価する。

教科書 無し 授業時にプリントを配布する

参考書 無し

備考

授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー (曜日日時は掲示で確認) に受け付けます。

授業科目	名	美学 I			单	時間)	2(30+60)			
担当者		太田 峰夫	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美表 2 年

美しいものや恐ろしいものにふれた時の精神の働きを、人々はこれまでどのように捉え、理論化してきたのか。本講義ではカントの美学を中心に、古代と近現代の芸術理論を取り上げ、それぞれの時代の議論の特徴について教える。同時に、個々の芸術理論と同時代の芸術作品、ないしそれ以降の芸術作品にも具体例に触れることで、芸術理論(たとえばカントの美の無関心性をめぐる議論)が芸術創作の現場や、われわれ自身の芸術鑑賞のあり方にいかに深い影響を及ぼしているかについても教える。

松光の到春日種	学位授与の方針との関連											
授業の到達目標 	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
美にふれた時の精神の働きについて、古代・近現代の美学理論 がこれまでどのように論じてきたかを具体例と関連づけなが ら説明できる。	0	0	0		0							
近代において芸術が倫理や宗教の縛りからいかに解き放たれ、 自立した領域となったかを思想史的に説明できる。	0	0	0		0							
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)											
1. 序論 (美学とは)	で調		3< (美学」 。配布		-					
2. 古代ギリシャ・ローマにおける美の理論	配布	資料の	つ課題	iを行	うこと	(予	習・復	夏習)。				
3. 古代ギリシャ・ローマの芸術観(模倣・比率)	配布	資料の	つ課題	を行	うこと	(予	習・復	夏習)。				
4. 近代の芸術観(ルネサンス以降)	配布資料の課題を行うこと(予習・復習)。											
5. カントにおける美の定義(1)(想像力と理解力)	配布資料の課題を行うこと (予習・復習)。											
6. カントにおける美の定義(2)(美的判断力、美の定義)	配布	資料の	つ課題	を行	うこと	(子	習・復	夏習)。				
7. カントにおける美の無関心性(1)(所有欲からの解放)	配布資料の課題を行うこと(予習・復習)。											
8. カントにおける美の無関心性(2)(倫理からの解放)	配布資料の課題を行うこと(予習・復習)。											
9. 美的質 (美・優美・崇高)	配布	資料(つ課題	を行	うこと	(予	習・復	夏習)。				
10. カント美学の残したもの(1)(美術1)(鑑賞の側の変化)	配布	資料の	の課題	を行	うこと	(予	習・復	夏習)。				
11. カント美学の残したもの(2)(美術2)(創作の側の変化)) 配布資料の課題を行うこと(予習・復習)。											
12. カント美学の残したもの(3)(音楽への影響)	配布資料の課題を行うこと(予習・復習)。											
13. カント美学の残したもの(4)(前衛芸術への影響)	配布資料の課題を行うこと(予習・復習)。											
14. カント美学の残したもの (5) (現代アートへの影響)	配布	資料の	つ課題	を行	うこと	(子	習・復	夏習)。				
15. まとめ	配布	資料の	つ課題	を行	うこと	(予	習・復	夏習)。				
屋体上の注音	•											

履修上の注意

授業前にプリントを配布する。配布資料を学期末まで管理し、各回に与えられた課題(作文、文献の読解など)を行うこと(週あたり予習 2 時間、復習 2 時間)。

成績評価方法・基準

学期末の筆記試験の成績 (70%) と授業内課題への取り組み (発言や課題への参加における積極性) (30%) をもとに評価する。授業内課題、および試験に対してはフィードバックを行う。

教科書 なし

参考書 『美学への招待』(佐々木健一・中公新書 842円)

備 考 火曜4限をオフィスアワーとする。

授業科目	·目名 美学Ⅱ				単	単位(総授業時間+自習時間) 2(
担当者		太田 峰夫	必・選	必	形態	講義	学期	後期	対象	美表2年			

この講義ではタイトルや美術批評などの実例に基づき、われわれの芸術鑑賞体験が周囲の「語り」に大きく影響されていること、および芸術をめぐるそうした「語り」が歴史的な条件に応じて変化するものであることを教える。そしてこのように美的体験における言葉の役割を確認した後、贋作やゴーストライターの作品、コピーなども見方を変えれば美的な価値を持ちうることを明らかにし、自身の美的判断に頼ることには功罪両面があることを教える。

校本とが存在権	学位授与の方針との関連										
授業の到達目標 	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
美的体験の中で言葉が果たしている役割の重要性について説明できる。		0	0		0		0		0		
鑑賞対象のオーセンティシティ(正統性)が美的体験の中で果たしている多面的な役割について説明できる。		0	0		0		0		0		
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)										
	学問領域としての「美学」の歴史について事典										
1. 序論(1)(美的体験と概念的な理解の関係について)	で調	べてお) >6	予習)	。(子	習)、	配布資	資料の	課題		
	を行	うこと	:(復	習)。							
2. タイトルと作品の関係について	配布	資料の	つ課題	を行	うこと	(予	習・復	(習)。			
3. タイトルの歴史	配布	資料0	つ課題	を行	うこと	(予	習・復	(習)。			
4. タイトルの場所	配布資料の課題を行うこと(予習・復習)。										
5. 解説と批評の役割(1)(作り手自身の言葉)	配布資料の課題を行うこと(予習・復習)。										
6. 解説と批評の役割(2)(コメンテーター達の言葉)	配布資料の課題を行うこと(予習・復習)。										
7. ブリロ・ボックスとダントー(1)(芸術と言語)	配布資料の課題を行うこと(予習・復習)。										
8. ブリロ・ボックスとダントー(2)(芸術理論と歴史)	配布資料の課題を行うこと(予習・復習)。										
9. ブリロ・ボックスとダントー (3) (芸術終焉論)	配布資料の課題を行うこと(予習・復習)。										
10. 偽作の美的価値と言葉の役割	配布	資料の	つ課題	を行	うこと	(予	習・復	(習)。			
11.「ゴーストライターの作品」ではなぜいけないのか	配布資料の課題を行うこと(予習・復習)。										
12. コピーを味わう (1) (音楽・文学)	配布資料の課題を行うこと(予習・復習)。										
13. コピーを味わう (2) (版画・彫刻・画集)	配布資料の課題を行うこと(予習・復習)。										
14. オーセンティシティと美的体験の関係について	配布資料の課題を行うこと(予習・復習)。										
15. まとめ	配布	資料0	つ課題	を行	うこと	(予	習・復	(習)。			
屋体しの注音											

履修上の注意

授業前にプリントを配布する。配布資料を学期末まで管理し、各回に与えられた課題(作文、文献の読解など)を行うこと(週あたり予習2時間、復習2時間)。

成績評価方法・基準

学期末の筆記試験の成績 (70%) と授業内課題への取り組み (発言や課題への参加における積極性) (30%) をもとに評価する。授業内課題、および試験に対してはフィードバックを行う。

教科書 なし

参考書 『美学への招待』(佐々木健一・中公新書 842 円)

備 考 火曜4限をオフィスアワーとする。

授業科目名 美術鑑賞 I					単位 (総授業時間+自習時間)							
担当者	瀬戸 典彦	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美表2年			

①18 世紀から印象派に至る過程について理解を促す。②印象派後のエコール・ド・パリ、ダダ、シュール・リアリズム、抽象表現主義等に関するケーススタディーをとおし、それらの理論的背景について論じる。③作品の理論的背景を鑑賞の対象として意識させる。④歴史上の美術家と自身との関係について考察させる。⑤自身の作品に関するステートメントの作成方法及びプレゼンテーションの実践方法を指導する。⑥それぞれの受講者に作品のプレゼンテーションを課し、それらの違いについて考察を促す。

気歩う込み口種	学位授与の方針との関連									
授業の到達目標 	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
18 世紀後半以降のアートシーンについて、説明できる。	0	0								
現代美術に至る経緯と脈絡を論述できる。	0	0								
美術史の脈絡と自身の作品との関係について、説明できる。	0	0								
現代社会と自身の作品との関係について、説明できる。			0				0			
作品から他者の視点を洞察することができる。			0							
授業計画の内容		自習	(事	前・	事後	学修	の内	容)		
1.オリエンテーション: 「もの」が「アート」になるメカニズムについて	「美	新史	! I」(の復習	習					
2.クールベ以降のヨーロッパ美術1(ロダンとシンボリズムの作家達等)	クイ	`ズ①)の復	習		•••••				
3.クールベ以降のヨーロッパ美術 2(マネ、モネ等)-小テスト	クイズ②の復習									
4.印象派(後期印象派、新印象派を含む)の表現-外界を写すことと内	ワークシート①作成									
面を表現することの違いについて		-クン	— r	UTF	· 万义					
5.印象派以降(フォービズム、キュービズム)	ワー	-クシ	/ート	②作	成					
6.エコール・ド・パリとその周辺の作家達について	ワー	-クシ	/ート	3作	成					
7.映画「モディリアーニ」の虚と実について	ワー	-クシ	/ート	4作	成					
8.未来派、ダダ、シュール・リアリズムについて	ワークシート⑤作成									
9.抽象表現主義とその周辺の作家達について	ワークシート⑥作成									
10.近代美術家の悲劇性について	ワークシート⑦作成									
11.鑑賞行為/鑑賞教育の意味について-「視点の共有と違いの受容」	ワークシート⑧作成									
12.アーティスト・ステートメントとは(事例研究)	アーティスト・ステートメントードラフト作成									
13.アーティスト・ステートメントの書き方	アーティスト・ステートメント-作成									
14.アーティストとしてのプレゼンテーションについて	アー	ティス	い・ プ	゚レゼ゛	ノテー	・ション	/準備	Ħ		
15.プレゼンテーション	ワー	-クシ	〜 ト	9作	成					
履修上の注音										

履修上の注意

①クイズの解答、ワークシート等を提出すること、②授業開始後30分までは「遅刻」とし、遅刻3回を欠席1回と見なす。

成績評価方法・基準

小テスト:10%(フィードバックを行う) ワークシート:50% プレゼン:20%(フィードバックを行う) ステートメント:20%

教科書 [つくる美術史のテキスト] [瀬戸典彦] [自費出版] [無料]

参考書〔美術史脳を刺激する曖昧な絵-クイズ集〕〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕

[美術史脳を刺激する曖昧な絵-解答・解説] [瀬戸典彦] [自費出版] [無料]

備 考 オフィスアワー:2時間/1週(曜日/時間については、初回授業の際に連絡する)

授業科目名 論文演習 I				t (総授	20	2(60+30)			
担当者	瀬戸 典彦	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	美表 2 年

「論文演習Ⅰ」は、卒業研究の選択肢の一つとして開講される「卒業論文Ⅰ」及び「卒業論文Ⅱ」に到 達する為の最初のステップに位置付けられる。

日本、外国の美術文化の歴史と現状を踏まえ、未来の文化のあるべき姿を提案する論文の執筆を想定し、 その基礎としてこの授業を提供する。第三者が過去に発表した美術・文化に関するエッセー等の読解から スタートし、徐々に理解の深化を促す。また、それぞれの受講者に発表(ディスカッションを含む)を課 すことよって、プレゼンテーション力、コミュニケーション力の育成を図る。

授業の到達目標		学位授与の方針との関連									
文未の判定日保	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
美術・文化について、執筆されたエッセーを読解できる。	0										
社会的視点から、読解した内容を説明できる。					0						
自身の評価基準を構築し、その基準に沿って他者のエッセーを評価できる。							0		0		
授業計画の内容		自翟	(事	前・	事後	学修	の内	容)			
1. オリエンテーション:「エッセーのいろいろ」	ワー	-クシ	〜 ト	①記	入						
2. 事例研究 (エッセー①) -読解 1	アウ	トラ	イン	のチ	ャー	ト化	1				
3. 事例研究 (エッセー①) -読解 2	アウ	トラ	イン	のチ	ャー	ト化	2				
4. 事例研究 (エッセー①) -内容の整理	アウトラインの文章化 1										
5. 事例研究 (エッセー①) -内容の確認	アウトラインの文章化 2										
6. 事例研究(エッセー①)-内容に関する考察	ワークシート②記入										
7. 事例研究(エッセー①)-内容評価	評価	Б基 準	の策	定							
8. 事例研究 (エッセー①) -内容に関する発表 (質疑応答)	プレゼン評価表の記入										
9. 事例研究 (エッセー②) -読解 1	アウ	トラ	イン	のチ	ャー	ト化	1				
10. 事例研究 (エッセー②) -読解 2	アウ	トラ	イン	のチ	ャー	ト化	2				
11. 事例研究 (エッセー②) -内容の整理	アウトラインの文章化 1										
12. 事例研究 (エッセー②) -内容の確認	アウトラインの文章化 2										
13. 事例研究 (エッセー②) -内容に関する考察	ワークシート③記入										
14. 事例研究(エッセー②) -内容評価	評価	Б基 準	の策	定							
15. 事例研究 (エッセー②) -内容に関する発表 (質疑応答)	プレ	/ゼン	′評価	表の	記入						
履修上の注意											

毎回、課題を提示します。

成績評価方法・基準

提出課題の内容:70%(フィードバックを行う) プレゼンテーション:30%(フィードバックを行う)

教科書 その都度、資料を配布する。

参考書 その都度、資料を配布する。

備考

オフィスアワー:2時間/1週(曜日/時間については、初回授業の際に連絡する)

授業科目	名		単位	左(総授	2(60+30)				
担当者	瀬戸 典彦	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	美表 2 年

「論文演習Ⅱ」は、「論文演習Ⅰ」既履修者を対象とし、卒業論文につながる科目である。日本、外国の 美術文化の歴史と現状を踏まえ、未来の文化のあるべき姿を提案する卒業論文の執筆を想定し、この授業 を提供する。

第三者が過去に発表した美術・文化に関する学術論文等の読解からスタートし、その内容に関する評価を課す。また、評論文の執筆をとおし、評価の客観性に関する検証を促す。さらには、受講者に発表の機会を与えることよって、プレゼンテーション力及びディスカッション力等のコミュニケーション力の育成を図る。

核米の利益は		į	学位技	受与の	の方金	サとの)関連	Ī			
授業の到達目標 	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
論文等を読解できる。					0						
社会的視点から、読解した内容を説明できる。					0						
自身の評価基準を構築し、その基準に沿って他者の論文等を評価できる。							0		0		
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)										
1. オリエンテーション:「論文のいろいろ」	ワー	-クシ	ート	①記	入						
2. 事例研究 (論文①) -読解 1	アウ	トラ	イン	のチ	ャー	ト化	1				
3. 事例研究 (論文①) -読解 2	アウ	トラ	イン	のチ	ャー	ト化	2				
4. 事例研究(論文①) -内容の整理	アウトラインの文章化 1										
5. 事例研究 (論文①) -内容の確認	アウトラインの文章化 2										
6. 事例研究(論文①) -内容に関する考察	ワークシート②記入										
7. 事例研究(論文①)-内容評価	評価基準の策定										
8. 事例研究(論文①) -内容に関する発表(質疑応答)	プレゼン評価表の記入										
9. 事例研究 (論文②) -読解 1	アウ	トラ	イン	のチ	ャー	ト化	1				
10. 事例研究(論文②)-読解 2	アウ	トラ	イン	のチ	ャー	ト化	2				
11. 事例研究(論文②) -内容の整理	アウトラインの文章化 1										
12. 事例研究(論文②)-内容の確認	アウトラインの文章化2										
13. 事例研究(論文②)-内容に関する考察	ワークシート③記入										
14. 事例研究(論文②)-内容評価	評価	基準	の策	定							
15. 事例研究(論文②) -内容に関する発表(質疑応答)	プレ	ゼン	評価	表の	記入						
履修上の注音											

履修上の注意

毎回、課題を提示します。

成績評価方法・基準

提出課題の内容:70%(フィードバックを行う) プレゼンテーション:30%(フィードバックを行う)

教科書 その都度、資料を配布する。

参考書 その都度、資料を配布する。

備考

オフィスアワー:2時間/1週(曜日/時間については、初回授業の際に連絡する)

授業科目	名 製図 I	(製品製図	(製品製図)			授業時間	1 (15+15)			
担当者	湯目 俊彦		必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	美表 2 年

製図を履修する上での、製図の道具とそれぞれの使い方により、様々な平面図形をそれぞれの図法に基づき演習させ、製図の基本の様々な線・図形の作図の基本を学ばせる。正投影図第法と三角投影図法(三面図)の原理を理解させる。立体の基本と名称を理解し三面図と展開図、断面図等の作図を演習させる。プロダクトの授業と連携し、事前に製図製作の基礎を習得させる。実際の製品を例題として、二つの物体(おもちゃ)を正規(JIS)な製図の様式で、三面図を実務レベルで講義し、作図演習させる。

極業の到券日種		j	学位	受与6	の方金	+ と σ)関連	Í	
授業の到達目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9
様々な平面図形をそれぞれの図法に基づき作図する	0				0				
立体の基本を理解し三面図と展開図を作図する	0				0				
例題を JIS 様式で三面図を作図する	0				0				
授業計画の内容		自習	一事	前・	事後	学修	の内類	容)	
1.製図用具の説明と使い方	次回	まで	に用	意す	る製	図用,	具を周	用意	
2.線と文字、縮尺の知識	縮尺の仕方の復習								
3.直線と角の作図、多角形の作図	配布	īした	作図	の仕	方の	予習			
4.円と円弧の作図渦巻き線の作図	配布	īした	作図	の仕	方の	予習			
5.分割の方法、作図	配布	īした	作図	の仕	方の	予習			
6.第一角投影図(三面図)の基本と作図	配布	īした	作図	の仕	方の	予習			
7.角錐の三面図、切断面図の作図	配布	īした	作図	の仕	方の	予習			
8.角錐の展開図の作図	三面	i図の	基本	の予	習				
9.醤油差しの三面図の作図	三面	i図の	基本	:の予	習				
10.醤油差し伸さん面図の作図のカラーリング	切断	面の	作図	の予	習				
11.花瓶の二面図、断面図の作図	角錐	色の展	開図	の予	習				
12.おもちゃの家の三面図作図(各面の下描き)	事前配布資料の予習								
13.おもちゃの家の三面図作図(各面の仕上げと寸法記入)	事前配布資料の予習								
14.おもちゃのバスの三面図作図(各面の下描き)	事前配布資料の予習								
15.おもちゃのバスの三面図作図(各面の仕上げと寸法記入)	事前配布資料の予習								
	_		0.		- ·	0 -			

履修上の注意 指定された製図用具を用意する。0,3mm/0,5mm シャープペン、墨入れペン 三角スケール、三角定規、分度器、コンパス円定規、楕円定規、雲形定規、時消し板製図用テープ

成績評価方法・基準

課題の提出 期限内提出(10%)、正確さ、仕上がり (40%) 授業態度(遅刻・居眠り) (30%) 意欲(20%)

教科書 授業前にプリントを配布

参考書 なし

備考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。

期限内提出が原則のため欠席等の場合は必ず資料を自習まで会議室まで取りにくる事。

授業科目	名 製図Ⅱ(製品・イン	テリア製図)		単位(約	総授業時		1 (15+15)		
担当者	湯目 俊彦	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	美表2年

前期で履修した内容をもとに、製品化された商品の三面図を縮尺変更し作図化する。プロダクトの授業と連携し、事前にプロダクトの製図製作を習得させる。実際製品化された製品の二面図、断面図の作図をさせる。製品自体(iPhone等)をノギス等で計測し三面図として製図させる。著名な椅子の三面図の作図カラーリング、スツールのアイデアスケッチの演習と三面図、製作図を作図させる。木製テーブルの構造・仕様等の知識を履修しながら、三面図を作図、詳細図、仕様図を製図作図させる。インテリア製図の基礎を学び、マンション、木造一戸建ての構造の基礎も学び平面図を作図する。

 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
文未の判定日保	1	2	3	4	5	6	7	8	9
製品化された商品を三面図に作図する					0				0
インテリア平面図の基礎を習得し三図面を作図する					0				0
インテリアの三面図を習得し、構造の基礎の知識を習得					0				0
授業計画の内容		自習	(事	前・	事後	学修	の内	容)	
1.ガラス器 3 種の二面図断面図の作図	前其	月の三	面区	の基	礎を	見て	おく		
2. IPhone 等の三面図作図(自分の iPhone を計測、下書き)	事前	前に自	分の	iPh	one $\stackrel{\scriptscriptstyle \leftarrow}{\scriptscriptstyle +}$	等の言	十測を	とする	
3.IPhone 等の三面図作図	配布	ī され	た資	料を	予習	して	おく		
4.椅子の三面図作図<リートフェルトチェアー>下書き	配布	i され	た資	料を	予習	して	おく		
5.椅子の三面図作図<リートフェルトチェアー>カラーリング	カラ	テーリ	ング	`する	前に	作図	して	おく	
6.丸スツール椅子の三面図、スケッチの作図	配布	ī され	た資	料を	予習	して	おく		
7.角スツール椅子の三面図、スケッチの作図	配布	i され	た資	料を	予習	して	おく		
8.テーブルの三面図、詳細図の作図(下書き)	配布	i され	た資	料を	予習	して	おく		
9.テーブルの三面図」、詳細図の作図、カラーリング	作図	『が遅	れて	いる	場合	は補 [?]	習する	3	
10.インテリア製図の基礎と作図準備	配布	ī され	た資	料を	予習	して	おく		
11.マンション平面図(下書き)	配布	i され	た資	料を	予習	して	おく		
12.マンション平面図	作図	』が遅	れて	いる	場合	は補 ²	習す	5	
13.マンション立面図	配布された資料を予習しておく								
14.木造住宅平面図(下書き)	配布された資料を予習しておく								
15.木造住宅平面図	作図が遅れている場合は補習する							5	
屋体上の注音 投党された制団田具た田舎する 0.2mm/0.5mm	n 3 / h		\°`\/	里	7 3	^°`\			

履修上の注意 指定された製図用具を用意する。0,3mm/0,5mm シャープペン、墨入れペン 三角スケール、三角定規、分度器、コンパス円定規、楕円定規、雲形定規、時消し板製図用テープ

成績評価方法・基準

課題の提出 期限内提出(10%)、正確さ、仕上がり(40%)授業態度(遅刻・居眠り)(30%) 意欲(20%)

教科書 授業前にプリントを配布

参考書 なし

備 考 質問等は授業内オフィスアワーの受け付ける。

期限内提出が原則のため欠席等の場合は必ず資料を自習まで会議室まで取りにくる事。

授業科目名 美術特別講義 I						単位(総授業	1(15+15)			
担当者	瀬	戸 典彦(1年担任)	必・選	選	形態	集中講義	学期	前期	対象	美表1年

美術を学ぶための導入と捉え、主に東京方面の美術館、博物館、画廊等を見学研修し興味を喚起しながら、 主体的に美術に取り組むための基本的学修態度が身につくよう指導を行う。美術の基礎的知識、造形要素であ る作品のテーマ、画材、素材、美術史的知識等を、自らが選び、実際に足を運んで見学したい作品や、特徴あ る美術館の調査・研究を行いながら主体的に学べるよう指導する。

基本的に、研修はグループ行動とし、事前の調査研究はお互いに学びながら協働して行う。

松光	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	学位授与の方針との関連										
1文系	との到達目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
美術	f分野の基礎的知識や学習態度を身につけることができる。	0										
美術	fの専門的知識と基本的な体系を理解することができる。		0									
授業	計画の内容		自習	「事	前·	事後	学修	の内	容)			
1.	授業ガイダンス	調査をする										
2.	事前学修①(個人調査)	調査をする										
3.	事前学修②(グループ調査)	調査	をま	とめ	る							
4.	見学したい美術館・博物館を調べる①(作品を中心に)	他に	気に	なっ	てい	る事	を調べ	べる				
5.	見学したい美術館・博物館を調べる②(場所を考慮して)	関連	する	情報	を集	める						
6.	調べたことをまとめる	関連	する	情報	を集	める	••••••					
7.	調べたことを発表する	調査	内容	を提	出す	る						
8.	見学研修①(第1日)	見学	内容	をま	とめ	る						
9.	見学研修②(第1日)見学内容を発表する	見学	内容	をま	とめ	る						
10.	見学研修③(第2日)	見学	内容	をま	とめ	る						
11.	見学研修④(第2日)	見学	内容	をま	とめ	る						
12.	発表内容をまとめる	発表	内容	をま	とめ	る (事前)					
13.	見学内容を発表する	発表	内容	をま	とめ	る (事前	· 事行	爰)			
14.	見学内容を発表する	発表	内容	をま	とめ	る (事後)					
15.	研修旅行全体の振り返り	授業	まと	め								
屋板	F L の 注音											

履修上の注意

研修中に見学内容の発表を行い、後半の見学研修の参考にする。

成績評価方法・基準

研修態度 50%、調査内容 50%。

計画や調査内容に対して、事前指導時と研修中ミーティング時にフィードバックする。

教科書 資料を配布する。

参考書 適宜指示する

備考

質問については、授業時、研修時あるいはオフィスアワー(曜日 日時は掲示で確認)に受け付ける。

授業科目	名	美術特別講義I	I		単位(総括	単位 (総授業時間+自習時間)					
担当者	伊藤 恵夫	必・選	選	形態	集中講義	学期	後期	対象	美表1年		

造形表現に必要となる人体の構造についての基礎知識を学ぶ。

人体に関する知識を十分理解するとともに、実際に造形表現された作品についてその表現法などを美術解剖学的な立場から学ぶ。扱う内容は、頭部の骨格、頭部の筋、体幹の骨格、頸部と体幹の筋、体肢の骨格と筋、プロポーション等である。

また、人体のみならず可動人形、動物および植物、天象(水や炎など)の表現についても美術解剖学的な視点から解説し、折紙等を用いて生物のバランスについても学ぶ。

学位授与の方針との関連

な 学の到達日暦	1 Lat. 7 15 / 7 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10												
授業の到達目標		1	2	3	4	5	6	7	8	9			
① 人体の構造について理解を深め、造形作品の制作に応用できる。		0			0								
② 人体について、観察・理解・効果・表現を実践することができる	5.			0	0			0					
③ 造形表現されたカッコイイ嘘について美術解剖学的に分析できる	5.			0					0	0			
授業計画の内容		自	習(事前	・事	後学	多のア	内容)					
1. 美術解剖学概論、プロポーション	好きなキャラ等のプロポーションを測っておく												
2. 頭部の骨と筋	D骨と筋の図、イラストを収集しておく												
3. 人体の構造と可動人形	人体	と可動人形の違いを考えておく											
4. 体幹の骨と筋、乳房	体幹の骨と筋の図を収集してお							3 <					
5. 日本の伝統工芸:折紙、生物のバランス	折紙の作例の図を収集しておく												
6. 体肢の骨と筋	体肢の骨と筋の図を収集しておく												
7. コントラポスト、ジョジョ立ち	コントラポストの作例を探しておく												
8. 天象美術解剖学	風や炎などを造形表現した作例を探しておく												
9.													
10.													
11.													
12.													
13.													
14.													
15.													
屋佐しの注立													

履修上の注意

教室内では携帯電話・スマートフォンの電源は切る。飲食厳禁。10分以上の遅刻は欠席とする。

成績評価方法・基準

- ① 授業中に課す提出物またはノート (評価割合30%)、レポート試験 (評価割合70%)。
- ② 授業中に課した提出物については、次回の授業内でフィードバックを行う。

教科書 「資料」として授業時にプリントを配布する

参考書 [ホネ事典] [スティーブ・パーカー] [あすなろ書房] [2500 円+税]

備 考 質問等については、授業中および授業終了時のオフィスアワーで受け付ける。

授業科目	名	美術特	別講義Ⅲ			単位(約	単位 (総授業時間+自習時間)						
担当者		横川 耕二	必・選	選	形態	集中講義	学期	前期	対象	美表2年			

現在、コンピューターを使った情報通信技術(ICT または IT)による世界的な社会の変化が急激に起こっている。このような社会に生きるためには ICT を主体的に利用して自ら問題を発見して解決し、新たな価値をつくりだすことが望まれる。美術特別講義IIIでは、小学校でも使われている教育向けプログラミング環境「Scratch」を使ってミニゲームを作ることを通してコンピューターによるインタラクティブな表現方法について学び、コンピュータープログラムの基礎を身につけられるよう指導する。

授業の到達目標			学位授与の方針との関連												
1文未の判連日保		1	2	3	4	5	6	7	8	9					
コンピュータープログラムの基礎	を理解する	0													
インタラクションを考えスケッチ	することができる		0												
インタラクティブな表現を身につ	ける			0	0										
授業計画の内容			自習	引(事	手前・	事後	学修	の内	容)						
1. 生活美術特別講義Ⅲ:2年次	開講	インタラクションのフィールド調査													
2. インタラクションとその展開	について	調査結果の考察													
3. 課題1:プログラミング基礎	環境の利用	プリ	ログラ	ラミン	ノグ弱	環境の	設定	-							
4.	画像の操作	画像の実践利用													
5.	音の操作	音の	音の実践利用												
6.	数値計算	数值	直計算	草の実	践利	用									
7.	論理演算	論理	里演算	草の多	実践 和	引用									
8.	インターフェース	ユ	ーザー	ーイン	ノター	ーフェ	ース	の実	践利	用					
9. 課題2:プログラミング応用	ゲーム素案	ゲー	ームの)考案	*										
10.	素案の展開	素類	案の言	羊細亻	匕、具	具体化	í								
11.	設計	プリ	ログラ	ラム記	2計										
12.	実装	プリ	ログラ	ラミン	ノグ										
13.	改善	レリ	ごュー	-準備	1、指	摘へ	の対応	応							
14.	プレゼンテーション	プリ	レゼン	準備	i										
15.	ふりかえり	\$1	りかえ	とりの	まと	め	め								
屋佐しの注音		•													

履修上の注意

毎回重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。グループワークでは相互に協力・協働して積極 的に課題に取組むよう心がける。

成績評価方法・基準

出席を含む平常点(授業態度、取り組みの姿勢など)40%、課題制作とプレゼン 60%で評価する。課題作品については、授業中にフィードバックする。

教科書 適宜指示する

参考書 おとなも学びたいプログラミング Scratch 入門 (エムディエヌコーポレーション)

備 考 質問等は授業終了時に受け付ける。

授業科目	名	美術特	別講義IV			単位(総括	受業時間	十自習	時間)	1(15+15)
担当者		長谷部 嘉勝	必・選	選	形態	集中講義	学期	後期	対象	美表2年

特別講義IVでは、宮城県の伝統的工芸品である仙台箪笥の飾り金具について、歴史的背景から金属加工の技術までを修得する。講義前に各自が仙台箪笥歴史工芸館等、地域の資料館を視察し、事前学習を行うこと。ワークショップを通して飾り金具に必要な制作内容・道具等について学ぶと共に、基礎的な金属加工の行程について教授する。

2	3	4	5	6	_		学位授与の方針との関連									
0	0			"	7	8	9									
0																
			0													
自習	(事	前・	事後	学修	の内類	容)										
事前学習のまとめ																
調査結果の考察																
調査結果の考察																
調査結果の考察																
結果	の考	察														
調査結果の考察																
デザイン案のまとめ、資料収集																
内容	の確	認														
内容	の確	認														
内容	の確	認														
内容	の確	認														
内容	の確	認														
講義内容の確認																
講義内容の確認																
かえ	りのき	まとぬ	b													
	内容 内容 内容 内容 内容 内容	内容の確 内容の確 内容の確 内容の確 内容の確	内容の確認 内容の確認 内容の確認 内容の確認 内容の確認 内容の確認	内容の確認 内容の確認 内容の確認 内容の確認 内容の確認	内容の確認 内容の確認 内容の確認 内容の確認 内容の確認 内容の確認	内容の確認 内容の確認 内容の確認 内容の確認 内容の確認 内容の確認	内容の確認 内容の確認 内容の確認 内容の確認 内容の確認 内容の確認									

履修上の注意

毎回重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。グループワークでは相互に協力・協働して積極的に課題に取組むよう心がける。外部での講義を実施する場合、交通費などの実費は自己負担とする。 材料費については、後日掲示する。

成績評価方法・基準

出席を含む平常点(授業態度、取り組みの姿勢など)40%、課題制作とプレゼン 60%で評価する。課題作品については、授業中にフィードバックする。

教科書 適宜指示する

参考書 特になし

備 考 質問等は授業終了時に受け付ける。

授業科目	達業科目名 地域創生演習 I							单	位(総接	受業時間 [.]	十自習時	許間)	1(30+30)
担当者		鈴木	専・渡邊	一馬	必・選	必	形	態	演習	学期	前期	対象	美表1年

普段の生活や大学での授業等で学んだことを基に、自らが暮らす地域を主体的に創っていくために必要な能力や知識を身に付けることを目的とする。その入り口となるこの「地域創生演習 I」では、大学での学びに必要な知識や方法について触れる機会とし、次のような課題設定と指導を行う。自身の身の回りの「気になること」をテーマに、「見る・考える・書く・話す・聞く・まとめる」等の基本的な能力が身につくよう課題を設定する。また、学生が主体的に取材や調査研究することによって、自らが立てた課題を解決できるよう指導する。 (担当:1,7,14,15回/鈴木、1~15回/渡邊)

核米の利佐日種	学位授与の方針との関連										
授業の到達目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
「地域創生」の意義について理解できるようになる。				0							
自分の意見を持ち、自分以外とのコミュニケーションが出来る ようになる。					0						
授業計画の内容		自翟	(事	前・	事後	学修	の内	容)			
1. 授業ガイダンス	気に	なっ	てい	る事	を集	める	(事行	後)			
2. 「私」が気になっている事をまとめる	気に	なっ	てい	る事	を集	める	(事	前)			
3. 気になっている事を発表する	発表まとめ (事後)										
4. 気になっている事を調べる① (事例の共有)	他に	気に	なっ	てい	る事	を調	べる	(事	前)		
5. 気になっている事を調べる②(調査の仕方)	関連	重する	情報	を集	める	(事	後)				
6. 調べたことをまとめる	関連する情報を集める(事前)										
7. 調べたことを発表する	発表まとめ (事後)										
8. 解決策のアイデアをつくる①(チーム構築)	アイデアを妄想する (事前)										
9. 解決策のアイデアをつくる②(理想像検討)	チームで理想像検討(事後)										
10. 解決策のアイデアをつくる③ (アイデア検討)	チームで理想像検討(事前)										
11. 解決策のアイデアをつくる④(追加調査検討)	チームで追加調査(事後)										
12. 発表内容をまとめる	チームで追加調査 (事前)										
13. 発表資料をつくる	チームで発表資料準備(事後)										
14. 解決策を発表する	チームで発表資料準備(事前)										
15. 授業全体の振り返り	授業まとめ										
屋体上の注音											

履修上の注意

隔週開講で二時間連続の講座です。また、授業と自習(事前事後学修)がセットになっている。

成績評価方法・基準

グループワークへの貢献と発表 50%、最終振り返り 50%

調査内容や資料に対してその都度、フィードバックを行う。

教科書 事前に資料を配布する。

参考書 特になし

備考

質問については、授業時あるいはオフィスアワー(曜日 日時は掲示で確認)に受け付ける。

授業科目	名	地域創生演		単位(総括	受業時間-	⊢自習時	間)	1(30+30)		
担当者		鈴木 専・和田 正春	必・選	必	形態	演習	学期	後期	対象	美表1年

普段の生活や大学で学んだことを基に、自らが暮らす地域を主体的に創っていくために必要な能力や知識を身に付けることを目的とする。この「地域創生演習 I」では、「地域創生演習 I」で課題解決の一連の流れを経験している学生に対し、次のような課題設定と指導を行う。よりよい地域をつくるために、大学に寄せられている具体的なフィールドワークのいくつかをテーマに、課題や問題点について美術を通した解決ができるよう指導する。学生自らが立てた課題に対して主体的に取材や調査研究をすることで、課題に対する理解が深められるよう指導する。 (担当:1,7,14,15回/鈴木、1~15回/和田)

核米の利達日種	学位授与の方針との関連									
授業の到達目標 	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
「地域創生」の意義について理解し、第三者にも分かるように										
説明できるようになる。				0						
グループで目標に向かって協働する手法やリーダーシップを学					0					
び、実践できるようになる。										
授業計画の内容		自習	(事	前·	事後	学修	の内タ	容)		
1. 授業ガイダンス	予定	デー	マに	つい	て調	査 (事後)			
2. テーマの紹介とグループ編成	予定	デー	マに	つい	て調	査 (事前)			
3. 理想像と課題を考える	テーマに関する仮説を検討する(事後)									
4. テーマを調べる① (ヒアリング内容検討)	テー	マに	関す	る仮	説を	検討	する	(事前	前)	
 テーマを調べる② (関係者にヒアリング) 	ヒア	プリン	グ内	容ま	とめ	(事	後)			
6. 調べたことをまとめる	ヒアリング内容まとめ (事前)									
7. 調べたことを発表する	発表	まと	め (事後)					
8. 解決策のアイデアをつくる①(アイデア検討)	アイ	゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙	を妄	想す	る (事前))			
9. 解決策のアイデアをつくる②(中間発表)	チームで追加調査(事後)									
10. テーマを調べる① (追加調査の検討)	チームで追加調査(事前)									
11. テーマを調べる② (関係者にヒアリング)	チームで追加調査(事後)									
12. 解決策のアイデアをつくる① (アイデアの強化)	チームで追加調査(事前)									
13. 解決策のアイデアをつくる②(発表準備)	チームで発表資料準備(事後)									
14. 解決策を発表する	チームで発表資料準備 (事前)									
15. 授業全体の振り返り	授業まとめ									
履修 Fの注音										

履修上の注意

隔週開講で二時間連続の講座です。また、授業と自習(事前事後学修)がセットになっています。

成績評価方法・基準

グループワークへの貢献と発表 50%、最終振り返り 50%

調査内容や資料に対してその都度、フィードバックを行う。

教科書 事前に資料を配布する。

参考書 特になし

備考

質問については、授業時あるいはオフィスアワー(曜日 日時は掲示で確認)に受け付けます。

授業科目	名	地域創生資	崩	位(総括	時間)	1(30+30)				
担当者	12	上藤淳一・立花布美子・佐々木秀之	必・選	選	形態	演習	学期	前期	対象	美表2年

地域創生の時代といわれている昨今において、持続可能な地域を実現するためには創意工夫が求められる。自らが暮らす地域を主体的に創っていくために、これまで学んできた知識や技能を活かし、地域と主体的に関わる基礎となる実践力を身に付けることを目的とする。「地域創生演習Ⅲ」では、自身と地域社会の関わりを意識し、身の回りの課題に気づき、地域を捉える視点を養う。個人、グループでのワークを通して、地域との協働によるプランニングに必要な視点や基礎的な手法を学ぶ。

<担当:前半/立花・佐々木 後半/佐藤・佐々木>

極米の到達日種	学位授与の方針との関連									
授業の到達目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
協働による学習手法を学び、実践できるようになる	0									
地域の基本的な情報を収集・整理し、説明できるようになる					0					
地域の状況や特徴を踏まえて、それに対する自身の考えを整理し、 説明できるようになる			\circ							
授業計画の内容		自翟	(事	・前・	事後	学修	の内	容)		
1. ガイダンス	自身	′と地	域と	の関	わりを	整理	!			
2. 地域との協働による学習①:ディスカッションの手法	関連	資料	・文	献等	で学修					
3. 地域との協働による学習②:地域社会との関わり	関連資料・文献等で学修									
4. 地域との協働による学習③:地域における自己の位置づけ	関連資料・文献等で学修									
5. 地域情報の把握①:自治体による政策事例	関心	のあ	る地	域の作	青報を	之収集	、整	理		
6. 地域情報の把握②: 地域資源の整理(コミュニティデザイン)	関心のある地域の情報を収集、整理									
7. 地域情報の把握③:地域資源の活用(コミュニティビジネス)	関心のある地域の情報を収集、整理									
8. 地域情報の分析①: データの収集	関連文献・統計資料等を収集、整理									
9. 地域情報の分析②: データの整理	関連文献・統計資料等を収集、整理									
10. 地域情報の分析③: データの分析	関連文献・統計資料等を収集、整理									
11. プロジェクトプランニング①: コミュニティビジネスの視点	参考・類似事例を調査、整理									
12. プロジェクトプランニング②: コミュニティデザインの視点	参考・類似事例を調査、整理									
13. プロジェクトプランニング③: プロジェクトマネジメントの視点	参考・類似事例を調査、整理									
14. プレゼンテーションの手法	発表資料の準備									
15. 発表とまとめ	これまでの講義をきちんと振り返る									
B.4.1.2.1.4										

履修上の注意

隔週開講で二時間連続の講義形式である。

成績評価方法・基準

ワークへの取り組み 30%、プレゼンテーション 30%、最終レポート 40%

調査内容や資料に対してその都度、フィードバックを行う。

教科書 授業前にプリントを配布する。

参考書 [復興から学ぶ市民参加型のまちづくり―中間支援とネットワーキングー] [風見正三・佐々木秀之] [創成社] [2,000円+税]、[復興から学ぶ市民参加型のまちづくり Π —ソーシャルビジネスと地域コミュニティー] [風見正三・佐々木秀之] [創成社] [2,000円+税]

備考

質問については、授業中および授業終了時のオフィスアワーで受け付ける。

授業科目	地域創生資	耳	鱼位 (総括	時間)	1(30+30)					
担当者	4	鈴木専・大堀恵子・佐々木秀之	必・選	選	形態	演習	学期	後期	対象	美表 2 年

地域創生の時代といわれている昨今において、持続可能な地域を実現するためには創意工夫が求められる。自らが暮らす地域を主体的に創っていくために、これまで学んできた知識や技能を活かし、地域と主体的に関わる基礎となる実践力を身に付けることを目的とする。「地域創生演習IV」では、「地域創生演習III」で学んだ手法や視点を活かし、計画の立案に取り組む。自身の専攻分野とする学びが地域の課題解決にどのようにアプローチできるのかを考え、地域と協働するプランニングについて知識、理解を深める。加えて、これまでの学修内容を活かしてプランニングし、成果をまとめることで、地域と主体的に関わる人材としての技能を高める。

<担当:前半/大堀・佐々木 後半/鈴木・佐々木>

極業の到達日種	学位授与の方針との関連									
授業の到達目標 	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
地域と協働するプランニングに必要な基本的なスキルを学び、実践できるようになる						0				
目的に応じた調査を実施し、その調査結果を整理し、説明できるようになる			0							
地域が抱える課題や魅力を理解した上で、プロジェクトを立案できるようになる				0						
授業計画の内容		自習	引(事	前・	事後	学修	の内	容)		
1.ガイダンス	関連	資料	・文	献等~	で学修					
2.地域と協働したプランニングの実践について	関連	資料	・文章	献等~	で学修					
3.テーマ設定と調査①:テーマの見出し方	関心のあるテーマの情報を収集、整理									
4.テーマ設定と調査②:調査方法の検討	関心のあるテーマの情報を収集、整理									
5.実践者の事例分析①:クラウドファンディングとは?	関連事例の調査、質問の検討									
6.実践者の事例分析②:クラウドファンディングの事例	関連事例の調査、質問の検討									
7.コミュニティ・デザインの視点から調査・分析①	自身のテーマを整理、関連情報の調査									
8.コミュニティ・ビジネスの視点から調査・分析②	自身のテーマを整理、関連情報の調査									
9.中間発表	発表内容まとめ									
10. 社会課題解決型ビジネスモデルとは?	事例・文献・現地訪問等による調査、整理									
11. 社会課題解決型ビジネスモデルの立案①	事例・文献・現地訪問等による調査、整理									
12. 社会課題解決型ビジネスモデルの立案②	事例・文献・現地訪問等による調査、整理									
13. プレゼンテーション①	発表資料の準備									
14. プレゼンテーション②	発表資料の準備									
15. ふりかえりとまとめ	これ	まで	の講	義をも	きちん	しと振	り返	る		

履修上の注意

隔週開講で二時間連続の講義形式となっている。

成績評価方法・基準

ワークへの取り組み 30%、プレゼンテーション 30%、最終レポート 40%

調査内容や資料に対してその都度、フィードバックを行う。

教科書 授業前にプリントを配布する。

参考書 [復興から学ぶ市民参加型のまちづくり―中間支援とネットワーキングー] [風見正三・佐々木秀之] [創成社] [2,000円+税]、[復興から学ぶ市民参加型のまちづくり―ソーシャルビジネスと地域コミュニティー] [風見正三・佐々木秀之] [創成社] [2,000円+税]

備 考 質問については、授業中および授業終了時のオフィスアワーで受け付ける。

教職に関する科目

授業科目	名 教職概論	単位	(総授)	業時間 +	2(30+60)				
担当者	笠間 賢二	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美表1年

教師という職業(教職)の意義・職務・課題ついて学修を進め、自分の将来の進路として、教職を選択することの適否について考えることができるようになること、これを授業の目的とする。

(1) 教職に対する社会的期待(教職観)がどのような変遷を辿って今日に至っているのか、(2) 教職に関する法制や制度がどのような仕組みと構造になっているのか、(3) 教職の現実を教員が実際に出くわすと思われる場面を想定しながら理解できるようにする、以上を学修内容とする。

授業の到達目標

- (1) 教師という職業の変遷について、その概略を理解できるようになる。
- (2) 教師という職業に関する法制や制度について、その概略を理解できるようになる。
- (3) 教師という職業の実際について、その難しさも含めて理解できるようになる。

授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)
1. ガイダンス	予習の部分で定型的な作業は求めませ
2. 教師のしごとの実際 (VTR 併用)	ん。ただし、これまでの自分の被教育体
3. 教職観の変遷:聖職者 ⇔ 労働者 ⇔ 専門職	験をしっかり振り返って整理してみてく
4. 専門職としての教師:他の専門職との比較	ださい。教育や教師のあり様を考える糧
5. 公教育と教師:公共的使命、身分保障と服務	になるはずです。
6. 教師の職能成長:研修をめぐる諸問題	復習することは、毎回、必須です。た
7. カリキュラム編成と教師	だしその際、授業内容を記憶に留めるた
8. 授業づくりと教師	めの学習ではなく、それをより膨らませ
9. 子どもの権利と教師	る学習(例えば、関連する事項を図書館
10. 児童・生徒の懲戒 (1): 教育作用としての懲戒	で調べることなど)を心がけてください。
11. 児童・生徒の懲戒 (2): とくに体罰をめぐって	
12. 受講者の報告(被教育体験)とグループ討議①:いま教師	
に求められる力量について	
13. 受講者の報告(被教育体験)とグループ討議②:いま教師	
に求められる力量について	
14. 「チーム学校」という考え方	
15. 「教員文化」をめぐる諸問題	
16. 最終試験	

履修上の注意

「私語」「内職」は慎むこと、欠席は事前に届け出ること、課題の提出は期限を守ること。これらは常識です。

成績評価方法・基準

おさらいレポート、グループ討議の報告内容($12\sim13$ 回)、定期試験、これらを勘案して評価します。 レポートは後日フィードバックします。

教科書 教科書は使用しません。毎回授業前にレジュメを配布します。

参考書 参考書は随時紹介します。

備考

- (1) 資格要件に関する情報 ⇒ 教育職員免許状の取得に必要な授業科目です。
- (2) 特別な配慮を要する学生に対する扱い ⇒ 申し出てください。
- (3) 質問等については、授業終了時に受け付けます。

授業科目名教育原理						単位	(総授業	美時間 +	自習時	間)	2(30+60)	
担当者	宮泽	睪 孝子・山沢	智樹	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象		美表 2 年

本講義ではまず教育の本質を理解するために、教育の目的や意味、家庭教育や学校教育などの基礎理念を整理する。次に、子ども観や教育観の変遷とともに教育の起源や歴史を包括的にとり上げ、日本と諸外国でどのように教育が起こり広がっていったのかを解説する。また、教育に関するさまざまな思想を取り上げ、代表的な教育思想家や現代の教育思想を幅広く紹介する。最後に戦後の日本が直面してきた諸課題を歴史的に吟味し、今日の教育理念を幅広く紹介する。講義中には自らの考えを発表し他の学生と討論する時間を設けることで、学生自身が自らの教育観や子ども観を捉え直し、実践の基盤として据えられるようにしたい。

授業の到達目標

- 1. 教育の本質・目的・概念に関する基礎的な知識を習得する。
- 2. 教育の歴史的変遷や現代社会における教育課題を理解する。
- 3. 日本と諸外国の教育思想について理解する。

	T
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)
1. オリエンテーション (宮澤・山沢)	シラバスの確認、学習内容を見通す
2. 教育の本質と意義:教育とは何か(山沢)	辞書で「教育」を調べる/復習
3. 教育の目的と目標 (山沢)	人間形成とは何かを考える/復習
4. 教育の場と内容:家庭と学校教育(山沢)	自分の教育観を考える/復習
5. 教育の歴史(1)教育のはじまり(山沢)	教育の起源を考える/復習
6. 教育の歴史(2)子どもの発見(山沢)	配布資料を読んでくる/復習
7. 教育思想(1)16~18 世紀欧米の教育思想(山沢)	配布資料を読んでくる/復習
8. 教育思想(2)18~19 世紀欧米の教育思想(山沢)	教育思想家について調べてくる/復習
9. 教育思想(3)20世紀欧米の教育思想(山沢)	教育思想家について調べてくる/復習
10. 教育思想(4)日本の教育思想(山沢)	教育思想家について調べてくる/復習
11. 教育の歴史(3)近代教育制度以前の学び(宮澤)	教育思想家について調べてくる/復習
12. 教育の歴史(4)近代教育制度の成立 (宮澤)	教育思想家について調べてくる/復習
13. 戦後教育改革(1)教育理念(宮澤)	配布資料を読んでくる/復習
14. 戦後教育改革(2)教育制度(宮澤)	配布資料を読んでくる/復習
15. 歴史的課題と今日の教育理念 (宮澤)	配布資料を読んでくる/復習
16. 試験	

履修上の注意

授業中の課題をしっかり行うこと。配布資料が多いので、ファイリングをして失くさないようにすること。

成績評価方法・基準

平常点 40% (リアクションペーパーの内容、課題、参加熊度)、期末試験 60%

各回の授業でのリアクションペーパーおよび課題については、次回の授業の冒頭でフィードバックする。 試験については、解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。

教科書 事前にレジュメ等を配布する。

参考書 〔教育思想史〕〔今井康雄 編〕〔有斐閣アルマ〕〔2,376円〕

備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受け付けます。

授業科目名	科目名 教育心理学						単位 (総授業時間+自習時間)				
担当者	宮前 理	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美表2年		

児童・生徒の心身の発達の過程(運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達等)及び学習の理論(動機づけ・集団づくり・学習評価など)について概説し、それぞれの発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導について概説する。

授業の到達目標

- 1. 児童・生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。
- 2. 児童・生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

授業計画の内容	
1.オリエンテーション(授業の概要説明)	授業概要と到達目標を理解する
2.教育心理学とは(教育心理学の意味と課題)	教育における心理学の役割を理解する
3.発達とは(発達とその要因)	発達について心理学的に理解できること
4.発達の原理と段階	発達段階とその理論を理解できること
5.身体・運動機能の発達	講義内容について次回レポート提出
6.言語機能の発達	講義内容について次回レポート提出
7.認知機能の発達	講義内容について次回レポート提出
8.社会的能力の発達	講義内容について次回レポート提出
9.学習とは(学習とその様式)	学習について心理学的に理解できること
10.学習の諸相(学習の方法と環境)	教育心理学的実践例を通して理解できる
11.学習指導とは(学習指導とその方法)	教育心理学的実践例を通して理解できる
12.学習指導と動機づけ	学習における動機づけの役割を理解する
13.学級集団とは(学級集団とその発達、学級集団の指導)	学級集団に関する心理学理論を理解する
14.学習の評価とは(評価とその方法、能力と行動の評価)	評価の具体的指標と方法を理解する
15.主体的な学習活動を支える指導	近年の教育心理学の知見を理解する
16. 定期試験	

履修上の注意

第1回目に講義の進め方と注意事項を説明する。

成績評価方法・基準

レポート課題 30%, 試験 70% 課題については後日、講義の中でフィードバックする。

教科書 授業の前に資料(プリント)を配布する。

参考書

[中学校学習指導要領 平成29年][高等学校学習指導要領 平成31年] その他講義時に指定する。

備考

受講人数等の事情により授業計画の修正を行う場合があります。

質問等は、講義終了時あるいはオフィスアワーで受付けます。

授業科目	/A	教育	育課程論			単位	(総授業	時間+	自習時間	5) 2(30+60)
担当者	中島	島 夏子・宮澤 孝子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象	美表 2 年

本講義は教育課程とその編成方法について学ぶことを目的とする。各授業では、学習指導要領の位置づけやその内容、教育課程の編成の原理、カリキュラム・マネジメント等の教育課程の基礎的な知識を、関連資料の読解やグループワーク等を通して理解する。また、指導計画を立てることを通して、指導計画と教育課程の編成の仕方を習得する。

授業の到達目標

- 1. 学校教育において教育課程が有する意義を理解する。
- 2. 教育課程編成の原理及び方法を理解する。
- 3. カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。

授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)
1. 教育課程の社会における役割と機能(中島、宮澤)	教育課程について調べて予習する。配布資料 などを確認して復習する。
2. 教育課程の基本構造(中島、宮澤)	教育課程の基本構造について調べて予習す る。配布資料などを確認して復習する。
3. 学習指導要領の位置づけと教育課程編成の目的 (中島、宮澤)	学習指導要領の制度について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
4. 学校における教育課程と授業の指導計画(中島、宮澤)	学校における教育課程と授業の指導案につい て調べて予習する。配布資料などを確認して 復習する。
5. 教育課程編成の原理(中島、宮澤)	教育課程編成の原理について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
6. 学習指導要領の変遷(中島、宮澤)	教育課程の歴史について調べて予習する。配 布資料などを確認して復習する。
7. 現行学習指導要領の特質(中島、宮澤)	学習指導要領の特質について調べて予習する。配布資料などを確認して復習する。
8. 教科横断的な教育課程とカリキュラム・マネジメント (中島)	カリキュラム・マネジメントについて調べて 予習する。配布資料などを確認して復習する。
9. 教育評価とカリキュラム評価(中島)	教育評価とカリキュラム評価について調べて 予習する。配布資料などを確認して復習する。
10. 中間まとめと試験(中島、宮澤)	これまでに学んだ事を配布資料を中心に復習 する。
11. 教育課程の編成の方法(宮澤)	教育課程の編成方法について調べて予習す る。配布資料などを確認して復習する。
12. 指導計画を編成する(グループ活動)(宮澤)	指導計画を作成し、グループ活動に備える。
13. 指導計画を編成する (グループ報告会) (宮澤)	グループの報告の準備を行う。報告を踏まえ て教育課程の修正を行う。
14. 指導計画を編成する(個人活動)(宮澤)	グループ活動で学んだ事を振り返り、教育課 程を作成する。
15. まとめ(中島、宮澤)	これまでに学んだ事を配布資料を中心に復習 する。

履修上の注意

授業の進行状況によって授業計画の順番が前後することがある。

成績評価方法・基準

- 各授業で課すレポート(40%)、中間試験(30%)、指導計画およびその発表内容(30%)
 - *各授業で課すレポートは、授業中にフィードバックを行う。
 - *中間試験は、その場で採点し、解説を行う。
 - *指導計画については、添削を行う。

教科書 自作資料を準備する。授業前に配布する。

参考書

[中学校学習指導要領(平成29年3月告示)] [文科省] [352円]

- 〔高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)〕〔文科省〕
 - *学習指導要領は文部科学省のウェブサイトからダウンロードも可能
- [ワークで学ぶ教育課程論] 〔尾崎博美・井藤元編著 2018 年〕 〔ナカニシヤ出版〕 〔2,808 円〕

備考

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等は、授業終了後受け付ける。

授業科目	単位	z (総授	業時間	十自習時	計間)	2(30+60)				
担当者	須藤 由子	必・選	選	形態	講義	学期	前期	対象		美表 2 年

総合的な学習の時間及び特別活動の意義や教育課程における位置付け、目標、内容を理解する。テーマ学習、横断的な学習、集団活動の指導方法について理解し、模擬授業等を通して実践的指導力を育成する。 実際におこなわれている授業実践について知り、評価ができる。

授業の到達目標

総合的な学習の時間及び特別活動の意義や教育課程における位置付け、目標や内容について具体的に理解することができる。

総合的な学習の時間及び特別活動の具体例を題材に、生徒の実態に応じた指導・支援の在り方を考え、表現できる。

授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)
1. 総合的な学習の時間の背景と実践の現状把握	解説書総合的な学習の時間編のブリントを読ん でくる
2. 総合的な学習の時間の目標と意義	解説書総合的な学習の時間編のブリントを読ん でくる
3. 総合的な学習の時間の教育課程への位置付け	解説書総合的な学習の時間編のブリントを読んでくる
4. 総合的な学習の時間の計画・実践・評価のプロセス	解説書総合的な学習の時間編のブリントを読んでくる
5. 総合的な学習の時間のテーマ設定と各教科・他領域との関連	解説書総合的な学習の時間編のブリントを読んでくる
6.総合的な学習の時間の単元構成の実際	解説書総合的な学習の時間編のブリントを読ん でくる
7. 総合的な学習の時間における指導技術	解説書総合的な学習の時間編のブリントを読ん でくる
8. 特別活動の目標と内容	解説書特別活動編P11~P22を読んでくる
9. 特別活動の歴史と変遷	解説書特別活動編P23~P31 を読んでくる
10. 学級活動の目標と内容・指導の在り方	解説書特別活動編P40~P73 を読んでくる
11. 生徒会活動の目標と内容・指導の在り方	解説書特別活動編P74~P91 を読んでくる
12. 学校行事の目標と内容・指導の在り方	解説書特別活動編 P 92~ P 108 を読んでくる
13. 部活動の意義と指導の在り方	解説書特別活動編 P 109~ P 112 を読んでくる
14. 年間指導計画の作成 学習指導案の作成	解説書特別活動編 P 113~ P 124 を読んでくる
15. 模擬授業	指導案を作成してくる
16. 試験	

履修上の注意

20 分遅刻の場合は、欠席とみなします。

成績評価方法・基準

- ・小論文(20%), 期末試験(50%), 講義中の議論への貢献度合い(30%)を総合して評価する。
- ・授業中に発表する機会があります。発表後その場でコメントします。

教科書〔中学校学習指導要領解説 特別活動編、総合的な学習の時間編〕

参考書〔新しい特別活動指導論〕〔高旗 正人・倉田 侃司〕〔ミネルヴァ書房〕

備 考 東北生活文化大学高等学校入試広報室にいます。

授業科目	業科目名 教育方法論						単位 (総授業時間+自習時間)				
担当者	ř	青水 禎文・松尾 広	必・選	選	形態	講義	学期	後期	対象	美表2年	

教育方法に関する基本的視点を確認した上で、教育方法の基礎的概念(時間と空間、教材·教具)、教育方法の 諸類型、教育評価などについて学び、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するため に必要な教育の方法について講義する。

また学校教育においても ICT 化が急速に進む今日において、教育を行う上での教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を理解し、身につけられるよう具体的な事例を踏まえて紹介する。

授業の到達目標

- 1 教育方法の基礎的な理論と実践を理解する。
- 2 教育の目標に適した指導技術を理解し、身につける。
- 3 視覚的なコミュニケーションの意義と視聴覚機器の特徴を理解する。

授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)
1.オリエンテーション(目標・内容と方法・評価など) 教育方法を学ぶ意義 教育方法は技術に還元されない(担当:清水)	ワークシート・ふり返りシート
2.教育方法の先行研究 戦後日本における教育方法とその理論	プリント予習とワークシート(以下 WS)
(デューイ、ブルーナー、スキナー、ブルーム) (担当:清水)	による復習
3.教育課程の編成と教科の関連性 デューイとブルーナーの教育課程論から教科の意義へ (担当:清水)	プリント予習と WS による復習
4.学習指導要領と「主体的·対話的で深い学び」 キー・コンピテンシー論から「資質·能力」論へ (担当:清水)	プリント予習と WS による復習
5.教育方法における人的環境と物的環境 教育方法を規定する物理的要素 学びの時間と空間 (担当:清水)	プリント予習と WS による復習
6. 授業展開における教材の役割 授業の構成要素と教材・教 具の意義 (担当:清水)	プリント予習と WS による復習
7.教材開発の方法 生活の中にある教材と教具(担当:清水)	プリント予習と WS による復習
8.授業の設計と教材分析 授業の中での教材·教具の活用法 (担当:清水)	プリント予習と WS による復習
9.授業改善のための授業分析 授業プロトコルとその分析方法 (担当:清水)	プリント予習と WS による復習
10.指導方法と指導技術 教育の「技術」と教育の「わざ」 (担当:清水)	プリント予習と WS による復習
11.教師の指導力 教育の「わざ」の形成と教師たちの学び合い 教育方法における熟達 (担当:清水)	プリント予習と WS による復習
12.教育評価論の発展と類型 教育評価の歴史と類型 絶対評価(目標準拠型評価)の特徴 (担当:清水)	プリント予習と WS による復習
13.授業改善に役立つ評価方法 診断的評価から対話的・協働 的・形成的評価の手法 (担当:清水)	プリント予習
14.教育機器の特性 (担当:松尾)	
15.コンピュータを使った効果的な教育方法 (担当:松尾)	
16 定期試験	

履修上の注意

基本的に講義で使用する資料は前回に配布するので、予習時に概略を確認してくること。また、毎回配布するふり返りシートとワークシートを活用して、復習時に基本的知識の定着をはかること。

成績評価方法・基準

レポート課題 20%, 試験 80%

(レポート課題や試験等についてはフィードバックを行う。)

教科書 授業前に資料(プリント)を配布する。

参考書 [中学校学習指導要領][文部科学省][326 円][高等学校学習指導要領][文部科学省][666 円]

備 考 質問等については、授業終了後受け付ける。

博物館に関する科目

授業科目	名	生涯学習概論						単位 (総授業時間+自習時間)				
担当者		伊藤 優		必・選	学(必)	形態	講義	学期	後期	対象	美表1年	

我が国の社会教育の歴史を辿りながら、生涯学習と社会教育、学校教育との関係性を明らかにする。また、「生涯学習論」やリカレント教育の思潮、生涯学習の多様な内容や方法、学習プランニング、プログラムの様々なあり方を解説することにより、生涯学習の基礎的理論を示す。その上で、生涯学習を推進する多様な主体の役割を示すとともに、博物館と学芸員の社会的位置付けを明らかにする。さらに、生涯各期にみられる生涯学習に係る現代的な課題と今後の展望を示す。

授業の到達目標

生涯学習に関する歴史・方法・計画等の基礎的知識を習得する。

生涯学習社会における博物館の使命を学び、学芸員の役割を検討する思考を身につける。

学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。

授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)				
1.ガイダンス:講義の進め方・生涯学習と社会教育	身近にある生涯学習施設を確認しておく				
2.生涯学習と社会教育の歴史① (近代から現代)	仙台市の市民センターの歴史を調べて授				
3.生涯学習と社会教育の歴史②(現代)	業に臨む				
4.「生涯学習論」	ユネスコの概要を調べる				
5.リカレント教育	OECD の概要を調べる				
6.生涯学習と学校教育	生涯学習と学校教育の相違を調べる				
7.生涯学習の方法と内容					
8.生涯学習と社会教育の計画	身近な生涯学習施設の学習プログラムに 参加し、その内容をレポートする				
9.学習プログラムの編成①(学習プログラムの多様性)					
10.学習プログラムの編成②(学習プログラム編成の視点)					
11.生涯学習関連行政の仕組み①(行政の役割と組織)	│ - 身近な社会教育関連団体等を調べる				
12.生涯学習関連行政の仕組み②(社会教育関連団体)					
13.生涯学習と博物館・学芸員	博物館の役割と機能を調べる				
14.生涯各期の教育課題	少子高齢化社会の課題を調べる				
15.講義のまとめ 生涯学習社会の課題とこれから	これまでの学修内容を復習する				
16.試験					

履修上の注意

意欲的な学修姿勢を重視する。社会教育プログラム等に積極的に参加すること。

自習(事前・事後学修)の詳細は講義中に示す。

成績評価方法・基準

事前事後学修を含む受講態度(50%)、期末試験(50%)で評価する。試験については、問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。

教科書 なし 必要に応じて講義中に資料を配布する。

参考書〔生涯学習論 第1次改訂版〕〔佐藤晴雄〕〔学陽書房〕〔2,500円+税〕

備考

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。

授業科目	名 博物館概論						崩	位(総括	時間)	2(30+60)		
担当者		伊藤 優		必・選	学	(水)	形態	講義	学期	前期	対象	美表1年

仙台・宮城ミュージアムアライアンス加盟館等の身近な博物館の紹介を導入として、博物館の多面的な魅力を伝える。また、ICOM 規約や博物館法に依拠しながら、博物館の定義・目的・分類等の概要を示す。博物館機能の資料収集・整理保管、調査、展示、教育の特色と役割を詳述しながら、そこにみられる多様な課題も示す。その上で、博物館の歴史を辿り、日本における現状を示し、関係法令や文化政策、地域社会との関係性を解説する。これらを通して、博物館や学芸員が担うべき社会的役割の全体像を示す。

授業の到達目標

博物館の目的・機能・社会的役割等に関する基礎的知識を習得する。

博物館や学芸員の役割を知り、直面する多様な課題を検討する思考を身につける。

学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。

授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)					
1.ガイダンス:講義の進め方・学芸員資格について	自身のこれまでの博物館体験や、身近な					
2.身近な博物館(SMMA、歴ネット等)	博物館施設を確認する					
3.博物館の定義・目的	ICOM、ユネスコの概要を調べる					
4.博物館の分類・施設・設備	博物館法を調べる					
5.博物館の機能①(資料収集・整理保管)	博物館データベースを調べる					
6.博物館の機能②(調査研究)	博物館研究紀要等を調べる					
7.博物館の機能③ (展示)	博物館展示情報を調べる					
8.博物館の機能④(教育普及)	博物館教育プログラムを調べる					
9.博物館史①(博物館の誕生)						
10.博物館史②(近代)	欧米の博物館情報と、日本の博物館情報					
11.博物館史③(日本の博物館史)	を調べ、レポートする					
12.博物館の現状						
13.博物館関係法令と政策	社会教育法、文化財保護法を調べる					
14.地域社会と博物館	博物館ボランティアを調べる					
15.講義のまとめ 博物館・学芸員の課題とこれから	これまでの学修内容を復習する					
16.試験						

履修上の注意

意欲的な学修姿勢を重視する。積極的に博物館を訪問すること (授業中にプレゼンする)。

自習(事前・事後学修)の詳細は講義中に示す。

成績評価方法・基準

事前事後学修を含む受講態度(50%)、試験(50%)で評価する。試験については、問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。

教科書 なし

参考書〔博物館学 I 〕〔大堀晢・水嶋栄治編〕〔学文社〕〔2,300 円+税〕

備考

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。

授業科目	名	博物館教育論					単位 (総授業時間+自習時間)				
担当者	伊藤 優	必・選	学(必)	形態	講義	学期	後期	対象	美表1年		

授業の概要

博物館教育活動の変遷を明らかにし、現代社会において博物館教育が求められている実情を、歴史的・社会的背景をもとに示す。また、博物館教育の特徴と可能性を学校教育・市民活動・生涯学習との関連から解説する。これらを踏まえた上で、博物館の諸活動にみられる教育プログラムの形態や方法を具体的に挙げ、教育プログラムの特色を館種別に紹介する。博物館教育には様々な課題も見出されることから、博物館評価システムをはじめとして、その解決の方策に対する理解を深める。

授業の到達目標

学芸員に必要な博物館教育の基礎的知識を習得する。

博物館教育の多様な課題を知り、その解決方策を検討する思考を身につける。

学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。

授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)					
1.ガイダンス:講義の進め方・博物館教育の諸形態	博物館概論の学修内容を復習しておく					
2.博物館での学び①	自身の経験をもとに「分かる」ことの事例					
3.博物館での学び②	を確認して授業に臨む					
4.博物館教育と市民活動	博物館と市民活動の事例を調べる					
5.博物館の教育活動① (教育プログラムの立案)	博物館と学校教育の相違を調べる					
6.博物館の教育活動②(教育プログラムの実施)	博物館教育に関わる教材等を入手し、授					
7.博物館の教育活動③ (ワークシートについて)	中に報告する					
8.博物館の教育活動④(ユニバーサルデザイン)	ユニバーサルデザインの事例を調べる					
9.博物館教育とボランティア活動①	────────────────────────────────────					
10.博物館教育とボランティア活動②	日初時ハノンノイノの事例を励べる					
11.美術館・文学館・歴史博物館等の博物館教育	── 博物館の教育プログラムに参加して、²					
12.ギャラリートークの事例	一					
13.ワークショップの事例	の内谷を収集中に報口する					
14.博物館教育プログラムの評価	評価のPDCAサイクルを調べる					
15.講義のまとめ 博物館教育の課題とこれから	これまでの学修内容を復習する					
16.試験						

履修上の注意

意欲的な学修姿勢を重視する。積極的に博物館教育プログラムに参加すること(授業中にプレゼンする)。 自習(事前・事後学修)の詳細は講義中に示す。

成績評価方法・基準

事前事後学修を含む受講態度(50%)、試験(50%)で評価する。試験については、問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。

教科書 なし 必要に応じて講義中に資料を配布する。

参考書〔博物館教育論〕〔黒沢浩編〕〔講談社〕〔2,400円+税〕

備考

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。

授業科目名 博物館資料論						単位(約	2(30+60)			
担当者		菊地 逸夫	必・選	学(必)	形態	講義	学期	後期	対象	美表2年

本科目は学芸員資格取得における文部科学省令の定める博物館に関する科目「博物館資料論」である。 授業は博物館における資料の意義と資料の活用方法について学ぶもので、学芸員に必要な博物館資料に関 する基礎知識(博物館資料の収集・整理・保存などに関する知識や技術、調査研究の意義や内容)について講 座・実習を通して理解・習得する。

授業の到達目標

- ・博物館資料の基礎的な知識を身に着ける。
- ・博物館資料の整理・保存・活用について理解できる。
- ・レプリカの作成や博物館資料の基本的な取り扱いができるようになる。

授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)					
1.ガイダンス 授業の概要説明 博物館資料とは	博物館を見学し、展示資料の特徴を理解する					
2.博物館資料の意義と種類	配布資料から資料の意義や種類を復習する					
3.博物館資料の理念と心構え	配布資料から資料の理念や心構えを復習する					
4.博物館資料の収集 収集と整理	配布資料から資料収集や整理を復習する					
5.博物館におけるレプリカの意義	配布資料からレプリカの意義を復習する					
6.博物館とコレクション資料	配布資料でコレクション資料を復習する					
7.博物館資料の輸送・保険	博物館資料の輸送や保険について復習する					
8.資料の展示	資料の展示方法をまとめてみる					
9.自然科学系博物館の資料	自然科学系博物館資料について復習する					
10.資料の修復	修復の仕方について復習する					
11.美術資料の見方(絵巻や浮世絵から歴史を読む)	資料からわかった事をまとめる(レポート)					
12.考古資料の整理と資料化 実技(土器と鏡の拓本)	実技の成果を整理する					
13.文書資料の整理と修復 実技(古文書の修復)	実践した内容をまとめる(レポート)					
14.レプリカの製作①	レプリカの製作方法をまとめる					
15.レプリカの製作②	レプリカの製作方法をまとめる(レポート)					

履修上の注意

資格教科であるため出席を重視する。レポートの提出は必須。

成績評価方法・基準

授業に対する意欲と姿勢(特に出席状況は重視)50%、レポート50%

教科書 なし

参考書 なし

備考

授業の際に資料を配布する。資料準備のため授業順は変更する場合がある。

授業科目	名	博物館資料保存論					Z(総授	2(30+60)			
担当者		及川 規	必・選	学(必)	形態	講義	学期	前期	対象		美表 2 年

文化財は貴重な "国民的財産"であり、それを後世に伝えることは、博物館の重要な責務である。本授業では、文化財が現在に守り伝えられてきた歴史を振り返りながら、博物館資料を将来にわたって保存し、活用できるようにするための、温度・湿度、光、空気、生物などの保存環境管理や考古資料をはじめとする博物館資料の保存処理の方法についての基礎的知識・技術を学修する。

それらについて,担当者が長年歴史博物館で当該業務に従事した経験を生かして,実際の資料保存活動を例示しながら,現状の課題や問題点も含めて解説する。

授業の到達目標

- ① 博物館における資料保存について基礎的知識を獲得できる。
- ② 資料の保存・展示環境および収蔵環境を科学的に捉えることができる。
- ③ またそれらに基づいて、実際に資料を良好な状態で保存していけるなどの基礎的なスキルを身につける。

核学型型の中容	中四 (事於 事然於於の中於)
授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)
1. 博物館における資料保存の意義	後:意義について自分で考えをまとめる
2. 資料保存の歴史・体系	前:文化財保護法の概要を調べる
3. 資料劣化の要因と対策 1 a (温・湿度:基礎・影響・測定)	後:温度湿度の基本と測定法を復習する
4. 資料劣化の要因と対策 1 b (温・湿度:管理と制御)	後:温湿度の管理・制御法を復習する
5. 資料劣化の要因と対策 2(光)	後:光の影響をその管理について復習する
6. 資料劣化の要因と対策 3 a (生物:生物被害の概要と調査)	後:加害生物例と調査法について復習する
7. 資料劣化の要因と対策 3b(生物:生物被害の対策)	後:IPM と生物被害の対処法について復習する
8. 資料劣化の要因と対策 4 a (空気質:影響と調査)	後:汚染因子の種類と影響について復習する
9. 資料劣化の要因と対策4 b (空気質:管理と対策)	後:空気汚染の対策について復習する
10. 資料の輸送	後:輸送における影響とその対策を復習する
11. 資料の防災	後:災害・防犯対策について復習する
12. 資料の科学的調査	後:科学的調査の特性・方法について復習する
13. 資料の保存処理	後:出土遺産の保存処理法について復習する
14. 資料保存の総合演習	前:これまでの学修事項を項目ごとに整理しておく
15. 本講義のまとめと博物館資料保存における最近の話題	後:資料の保存と活用について各自考えをま とめる

履修上の注意

要点をまとめた資料を配布するが、ポイントだけでなく、疑問に思ったこと、さらに詳しく知りたいこと、自分のアイディア等をメモするなど、より主体的な取り組み努めること。

成績評価方法・基準

授業期間中に実施する課題[テスト・レポート](60%), 取組み状況[学習意欲,質問,ミニットペーパー等](40%)等から読み取れる授業目標の達成度について総合的に評価する(課題については観点ごとの配点を授業時に明示する)。ミニットペーパーについては授業内でフィードバックを行う。

教科書 使用しない。講義前にプリントを配布する。

参考書 [博物館資料保存論] [石崎武志] [講談社] [2,200 円]

備考

- ・配布された資料はファイルして以降の授業にも携帯すること。
- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については随時受け付けます。

授業科目名 博物館情報・メディア論				単位	単位 (総授業時間+自習時間)				2(30+60)		
担当者		佐藤 泰美	必・選	学(必)	形態	講義	学期	後期	対象		美表2年

教育・コミュニケーションツールとして情報・メディアの基本特性を、人と人とのコミュニケーションの諸相や文明史的な観点を交えて概観しつつ、博物館があつかう情報の種類や意義、それらを正しく伝え普及するためのメディアの活用方法や情報発信の手法について、博物館での具体的事例、さらにネットワーク上に流通する博物館にとどまらない多様な主体からの情報発信を参照しつつ、みずから博物館の情報発信を試みるなどの体験を試みるなどの体験を交えながら学ぶ。

授業の到達目標

情報コミュニケーションの基本原理と歴史を理解する

博物館における情報メディアの活用の実際を理解する

社会に向けた多様な文化情報の発信力を身につける

授業計画の内容	自習(事前・事後学修の内容)
1.博物館における情報・メディアとはなにか	博物館等を利用する際は、情報メディア
2.教育・コミュニケーションツールとしてのメディアの理論	の活用について観察すること
3.教育・コミュニケーションツールとしてのメディアの歴史	博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ
4.教育・コミュニケーションツールとしての博物館	発信できるか自分なりに考えること。
5.展示のなかの情報メディアの活用	
6.教育・普及・広報のなかの情報メディアの活用	
7.研究・保存その他における情報メディアの活用	
8.メディアテークにおける情報メディアの活用	
9.アーカイブの作成・運用と課題	
10.視覚など障がいのある利用者のためのメディアの活用	
11.地域の文化資源を活かすミュージアム都市とメディア	
12.仙台宮城ミュージアムアライアンス (SMMA) の取り組み	
13.情報リテラシーと博物館	
14.博物館の魅力を発信するための提案作成実習	
15.博物館の魅力を発信するための提案の評価	

履修上の注意

各自、博物館や美術館での見学とレポート提出が必要です。

成績評価方法・基準

学習意欲を含む授業態度 50%、課題レポート 50%

教科書 講義のなかでそのつど資料を配布します

参考書 講義のなかでそのつど資料を配布します

備考

質問等については授業終了時に受け付けます